

授業科目名・形態	社会福祉概論Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	中里 操・林 宏二	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題】

社会福祉概論Ⅰの学びを前提にして、実際の社会福祉制度・行政の基なる社会福祉政策について理解する。社会福祉の歴史的な理念や価値観とは別に、今日の福祉制度は福祉政策の枠組みの中でシステムとして存在している。今日の福祉政策の重要性を理解するとともに、政策の策定から実施に至るプロセスと結果について評価できる専門的力量を身に付ける。概論Ⅱでは福祉改革以降の新しい福祉供給—利用システムの理解と関連施策について学ぶ。

【到達目標】

1. 福祉改革を始めとする政府主導の福祉政策とその課題を理解する。
2. 福祉サービスの供給—利用過程をシステムとして構造的に理解する。
3. 福祉関連施策について理解する。
4. 地域包括福祉システムに着いて理解し、そこでの社会福祉士の役割を理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 社会福祉政策の論点と課題①（社会福祉政策の論点と福祉政策論）（中里）
- 第2回 社会福祉政策の論点と課題②（福祉改革政策と国際動向）（中里）
- 第3回 社会福祉政策の論点と課題③（福祉国家における政府の役割）（中里）
- 第4回 社会福祉と市場経済・市民社会（中里）
- 第5回 社会福祉政策の手法（政策決定過程と政策評価）（中里）
- 第6回 社会福祉の供給体制（供給部門と供給責任、供給過程）（中里）
- 第7回 社会福祉の利用過程（社会福祉の供給システムと利用過程）（中里）
- 第8回 社会保障・福祉政策と教育政策（林）
- 第9回 社会保障・福祉政策と住宅政策（林）
- 第10回 社会保障・福祉政策と労働政策（林）
- 第11回 社会保障・福祉政策と医療政策（林）
- 第12回 ソーシャルワークと福祉制度・福祉政策という（林）
- 第13回 現代社会とソーシャルワークの展望と課題①（SWの専門性と職域）（林）
- 第14回 現代社会とソーシャルワークの展望と課題②（地域包括福祉システムとSW）（林）
- 第15回 授業のまとめ（総括）

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う

【授業準備】

前回講義内容を復讐する講義予定活動を読み専門用語概念などについて調べておく。疑問点を整備しておく。講義中に取り上げたテーマなどを自ら文献に当たるなどして確認する。社会福祉関連のニュースに関心を寄せ、目を通し自分なりの理解と説明ができる状態で主体的準備をする。

【主な関連する科目】 社会福祉概論Ⅰ、 社会保障論、 公的扶助論

【教科書等】 新・社会福祉士養成講座 『現代社会と福祉』 第4版（中央法規）

【参考文献】 適宜紹介する

【成績評価方法】（出席状況・レポート）30%、（期試験成績）70%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

前期の学びを基礎に、後期は制度・政策の実際を福祉システムとして具体的に理解することが必要です。後期はより具体的・積極的に福祉問題に関心を寄せよう。地域包括支援システムを理解するために医療、介護、教育などの大領域と児童、高齢者、障害者などの分野横断的にトータルに理解するためしっかりと予習・復習をしてもらいたい。

授業科目名・形態	医学一般	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	田中明彦・相馬雅之	開講期	1年後期	単位数 2

【授業の主題と目標】

人を対象とする専門職として最も基本となる、「人体の構造と機能」「疾病」「リハビリテーション」をテーマとする科目であり、以下の3点を学ぶことを主たる目標とする。

【到達目標】

- ① 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。
- ② 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。
- ③ リハビリテーションの概要について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1回 人間の成長・発達と老化（田中）
- 第 2回 人体の構造と機能①（田中）
- 第 3回 人体の構造と機能②（田中）
- 第 4回 人体の構造と機能③（田中）
- 第 5回 疾病の概要①（田中）
- 第 6回 疾病の概要②（田中）
- 第 7回 疾病の概要③（田中）
- 第 8回 疾病の概要④（田中）
- 第 9回 疾病の概要⑤（田中）
- 第10回 障害の概要①（田中）
- 第11回 障害の概要②（田中）
- 第12回 リハビリテーションの概要①（相馬）
- 第13回 リハビリテーションの概要②（相馬）
- 第14回 国際機能分類の基本的な考え方と概要（相馬）
- 第15回 健康のとらえ方（田中）

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

新・社会福祉士養成講座 1 「人体の構造と機能及び疾病」－医学一般 中央法規出版

【参考文献】

随時照会する。

【成績評価方法】

定期試験成績 100%で評価する。

【主な関連する科目】

「介護の基本」「日常生活支援技術演習」「認知症ケア論」「医療的ケア」「介護過程」「精神医学」「精神保健学」「精神科リハビリテーション学」「精神保健福祉援助技術各論」「精神保健福祉援助演習」「介護実習」「精神保健福祉援助各論」「精神保健福祉援助演習」「介護実習」「精神保健福祉援助実習」

【学生へのメッセージ】

介護福祉・社会福祉・精神保健福祉、どの福祉職にとっても最も基本的な知識を学ぶ予定である。予習復習をしっかりと行うとともに、観察力や洞察力をもとに対象者理解を深めてほしい。

授業科目名・形態	人間の理解 I	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	脇山園恵	開講期	1 年前期	単位数	2

【授業の主題】

人間を理解する上で「人間の尊厳」は最も重要なことであり、自立・自律した生活を支えるためには尊厳の保持が基本的に必要となる。人間の尊厳という概念が自立や自律した生活を支える為になぜ必要か、尊厳と自立・自律をめぐる歴史としくみ、介護場面での倫理的課題などについて講義を通して学び、さらに、演習を通して体得していく。

【到達目標】

- 1) 人間の尊厳と自立の意義について、自己決定ならびに自立と自律との違いから理解できる。
- 2) 尊厳と自立をめぐる歴史としくみについて、朝日訴訟と介護保険法・障害者総合支援法から理解できる。
- 3) 介護における尊厳保持と自立支援の理論と実践について、自立生活運動から理解できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人間を理解するということ
- 第3回 人間の尊厳の意義
- 第4回 自立の意義
- 第5回 自立と自律
- 第6回 人間の尊厳と自立
- 第7回 人権、尊厳と自立をめぐる歴史的経緯
- 第8回 人権、尊厳と自立に関する諸規定
- 第9回 人々が求める生活の幸せ
- 第10回 生活を通して人間の尊厳と自立を考える
- 第11回 生きる勇気の回復、よりよき人生を送るために
- 第12回 介護における権利擁護と人権尊重
- 第13回 介護における自立支援（身体的・精神的・社会的）
- 第14回 介護における尊厳保持の実践
- 第15回 介護における自立支援の実践

【授業実施方法】

講義と演習で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】

生活支援技術論 I・II、コミュニケーション技術 I・II、社会福祉概論 I・II、日常生活支援技術演習 I など

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第3版』中央法規出版。

【参考文献】

- ・糸賀一雄『福祉の思想』日本放送出版協会。
- ・大坂社保協・よりよい介護をめざすケアマネジャーの会編『ここまでできる！ホームヘルプサービス“利用者の望む暮らし”を実現するために』日本機関紙出版センター。
- ・生存権裁判を支援する全国連絡会編『朝日訴訟から生存権裁判へ—いま、改めて「朝日訴訟＝人間裁判」から学ぶ』あけび書房。 など

【成績評価方法】

平常点 10%、小テスト 30%、期末試験（筆記）60%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

本講は介護に従事する人はもちろんのこと、対人業務に従事するすべての人が人間を理解する上で重要な科目となります。人間の尊厳とは何か、自立・自律した生活とは何かを考えながら予習・復習し、介護実践のために必要となる人間の理解を深めてください。

授業科目名・形態	人間の理解Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	脇山園恵	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題】

介護は深い人間理解に基づいた信頼関係のうえに成り立つものである。本講では、介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力について、講義と演習を通じて養う。人間の理解Ⅰの「人間の尊厳と自立」で学習したことを引き継ぎながら、「人間の尊厳と自立」に根ざした介護ができるように実践面から学ぶ。

【到達目標】

- 1) 関係作りのための人間について、人間の認知世界の違いから理解できる。
- 2) 人間関係の形成について、人間の発達過程から理解できる。
- 3) コミュニケーションの基礎と技法について、生活場面面接から理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 関係づくりのための人間理解①（個々人の認知世界：自己覚知・他者理解）
- 第 3回 関係づくりのための人間理解②（ストレスを考える）
- 第 4回 関係づくりのための人間理解③（利用者のとらえ方：こころのメカニズム）
- 第 5回 人権関係の形成①（人間関係のさまざまな広がり）
- 第 6回 人間関係の形成②（発達と人間関係）
- 第 7回 人間関係の形成③（エコロジカルな視点からみた人間関係）
- 第 8回 人間関係の形成④（集団力学からみた人間関係）
- 第 9回 人間関係の形成⑤（介護職支援と対人関係／職場での人間関係）
- 第 10回 コミュニケーションの基礎①（コミュニケーションとは：言語的・非言語的コミュニケーション）
- 第 11回 コミュニケーションの基礎②（コミュニケーションの目的と方法）
- 第 12回 コミュニケーションの基礎③（コミュニケーションを促す環境）
- 第 13回 コミュニケーションの技法と観察①（コミュニケーション技法を知る：受容、共感、傾聴など）
- 第 14回 コミュニケーションの技法と観察②（各種コミュニケーション技法と実際）
- 第 15回 コミュニケーションの技法と観察③（コミュニケーション技法を活かす）

【授業実施方法】

講義と演習で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】

介護の基本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、コミュニケーション技術Ⅰ・Ⅱ、社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ、障害者福祉論Ⅰ、日常生活支援技術演習Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅰ など

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第3版』中央法規出版。

【参考文献】

- ・上田敏『ICF（国際生活機能分類）の理解と活用一人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか』きょうされん。
- ・早樫一男編『対人援助職のためのジェノグラム入門—家族理解と相談援助に役立つツールの活かし方』中央法規出版。 など

【成績評価方法】

平常点 10%、小テスト 30%、期末試験（筆記）60%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

利用者との信頼関係構築のためにはどのような視点が必要かを良く考えながら予習・復習し、介護実践のために必要となる人間の理解を深めてください。

授業科目名・形態	介護の基本 I	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	工藤 久	開講期	1 年前期	単位数	2

【授業の主題】

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。少子高齢化、家族機能の変化など介護問題の背景を明らかにし、介護福祉士を取り巻く状況を把握する。また、介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規（社会福祉士及び介護福祉士法等）を通して考えていく。

【到達目標】

- 1) 介護の新たな考え方を理解すること。
- 2) 介護福祉士を取り巻く状況や背景を、わが国の歴史を通して理解する。
- 3) 現在の介護福祉士の担う社会的役割と機能を支える仕組みを理解すること。

【授業計画・内容】

- 第1回 介護の歴史 1
- 第2回 介護の歴史 2
- 第3回 介護福祉士の定義
- 第4回 社会福祉士及び介護福祉士法
- 第5回 介護福祉士の義務
- 第6回 名称独占と業務独占
- 第7回 介護福祉士の養成制度、登録状況
- 第8回 介護問題の背景 1：少子高齢化
- 第9回 介護問題の背景 2：家族機能の変化
- 第10回 介護問題の背景 3：介護の社会化
- 第11回 介護問題の背景 4：高齢者虐待
- 第12回 介護問題の背景 5：介護ニーズの変化
- 第13回 専門職業団体としての役割、機能
- 第14回 介護福祉士の倫理
- 第15回 介護のはたらきと基本的視点

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】 社会福祉概論、高齢者福祉論、障害者福祉論、認知症ケア論、日常生活支援技術

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ（第4版）・介護の基本Ⅰ（第3版）中央法規出版（株）

【参考文献】

・春日キスヨ，介護問題の社会学，岩波書店

【成績評価方法】

筆記試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

「介護とは何か」を念頭において授業を受けてください。欠席をせず、予習や復習をして小テストで着実に点数を獲得してください。

授業科目名・形態	介護の基本Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	工藤 久	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題】

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えること、また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

介護実践の基本的姿勢である尊厳を支える介護、自立に向けた介護について、ノーマライゼーションやICF（国際生活機能分類）の考え方を援用して理解することを内容とする。

【到達目標】

- 1) 尊厳を支える介護として QOL やノーマライゼーションの理論を理解する。
- 2) 介護業務を行うにあたって、利用者の主体性や自立の重要性を理解する。
- 3) ICF の考え方や視点に基づく利用者のアセスメントを実践できるようにすることである。

【授業計画・内容】

- 第1回 QOL の考え方
- 第2回 ノーマライゼーションの考え方とその実現について
- 第3回 利用者主体について
- 第4回 利用者主体の実現について
- 第5回 自立・自律の考え方
- 第6回 自己決定・自己選択について
- 第7回 自立支援について
- 第8回 自立支援の具体的展開（1）
- 第9回 自立支援の具体的展開（2）
- 第10回 生活意欲への働きかけ
- 第11回 エンパワメントとは
- 第12回 個別ケアとは
- 第13回 個別ケアの実現について
- 第14回 個別ケアの具体的展開（1）
- 第15回 個別ケアの具体的展開（2）

【授業実施方法】

講義形式で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】 社会福祉概論、高齢者福祉論、障害者福祉論、認知症ケア論、日常生活支援技術

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ（第3版）中央法規出版（株）

【参考文献】

- ・黒澤貞夫，人間科学的生活支援論，ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

筆記試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

介護について何かしら問題意識をもって臨んでいただきたい。予習復習をしてください。

授業科目名・形態	介護の基本Ⅲ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	工藤 久	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題】

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉える。また、介護における安全やチームケア等について理解することを目的とする。これらを踏まえ、本講義では、「介護の基本」として、ICF利用と介護とリハビリテーションの関係について学習する。リハビリテーションの目的は人間らしく生活できるよう支援することであり、その「全人間的復権」についても深く考察する。

【到達目標】

- 1) 「自立に向けた介護」の視点から、各分野のリハビリテーションおよび介護予防について理解する。
- 2) 障害のある人・高齢者におけるリハビリテーションの意義について理解する。
- 3) ICFの構造を把握し、施設・病院および在宅における生活機能の向上について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ICFの考え方
- 第3回 介護におけるICFのとらえ方
- 第4回 リハビリテーションの考え方
- 第5回 リハビリテーションの実際 ①医学的リハビリテーションの理論と実際
- 第6回 ハビリテーションの実際 ②職業的リハビリテーションの理論と実際
- 第7回 ハビリテーションの実際 ③教育的リハビリテーションの理論と実際
- 第8回 ハビリテーションの実際 ④社会的リハビリテーションの理論と実際
- 第9回 病院におけるリハビリテーション
- 第10回 施設におけるリハビリテーション
- 第11回 在宅におけるリハビリテーション
- 第12回 介護予防とリハビリテーション ①高齢者リハビリとしての介護予防プログラム
- 第13回 介護予防とリハビリテーション ②介護予防の実際例
- 第14回 リハビリテーション専門職と連携
- 第15回 自立と社会環境整備（福祉用具・福祉機器の活用）

【授業実施方法】

講義形式で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】

社会福祉概論、高齢者福祉論、障害者福祉論、認知症ケア論、日常生活支援技術

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ（第3版）中央法規出版（株）

【参考文献】

- ・障害者福祉研究会，編：ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－，中央法規出版

【成績評価方法】

筆記試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

介護とICF、リハビリテーションとの関係を理解してください。予習復習も欠かさずに行ってください。

授業科目名・形態	コミュニケーション技術 I	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	脇山園恵	開講期	1年前期	単位数	2

【授業の主題】

対人援助において重要なことは、いかに相手と信頼関係を築くことができるかである。他者との意思疎通能力が備わっていないければ、いくら多くの専門知識を身につけたとしても利用者と信頼関係を築くことは難しい。

本講では、介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や家族、あるいは多職種協働において実践可能なコミュニケーション技法を応用的に学ぶ。

【到達目標】

- 1) 介護におけるコミュニケーションの基礎について、一般的なコミュニケーションの意義と目的を土台に、介護におけるコミュニケーションの役割と効果の違いから理解できる。
- 2) 利用者・家族や他職種と信頼関係を築くために必要な介護場面におけるコミュニケーション技法について、コミュニケーションの過程（言語・非言語を含む情報の送受信）から具体的に理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 介護におけるコミュニケーション（意義と目的）
- 第 3回 介護におけるコミュニケーション（役割と効果）
- 第 4回 介護における生活支援とコミュニケーション
- 第 5回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：話を聴く技法
- 第 6回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：感情表現を察する技法
- 第 7回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：納得と同意を得る技法
- 第 8回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：質問の技法
- 第 9回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：相談・助言・指導の技法
- 第 10回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：意欲を引き出す技法
- 第 11回 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション：意向を調整する技法
- 第 12回 複数の利用者がある場面でのコミュニケーションの技法
- 第 13回 その他のコミュニケーション：指示・助言・支持の技法
- 第 14回 その他のコミュニケーション：アイメッセージの技法
- 第 15回 その他のコミュニケーション：アサーションの技法

【授業実施方法】 講義を中心とし、必要に応じてロールプレイやグループワークを取り入れる。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】

介護の基本 I～VI、介護過程 I～V、人間の理解 I・II、生活支援技術論 I・II、日常生活支援技術演習 I～X など

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第3版』中央法規出版。

【参考文献】

授業の中で紹介する。

【成績評価方法】

平常点 10%、小テスト 10%、レポート 20%、期末試験（筆記）60%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

実践現場を意識した予習・復習と授業におけるロールプレイやグループワークによる体験が相乗することで学習効果は何倍にも膨らみます。主体的・積極的に取り組んでください。

授業科目名・形態	コミュニケーション技術Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	脇山園恵	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題】

支援する上では、利用者を中心としたチームケアの視点が非常に重要となる。そのためには、深い利用者理解とともに、他者との意思疎通能力と情報共有能力が備わっていなければならない。

本講では、コミュニケーション技術Ⅰを引き継いで、利用者の特性に応じたコミュニケーション方法を学ぶとともに、介護場面で協働する関係者とのコミュニケーション方法について学ぶ。また、情報を適切に共有するための記録や報告書の作成方法、会議の目的や方法、留意点についても学ぶ。

【到達目標】

- 1) 利用者の特性に応じたコミュニケーション方法について、障がいの違い（先天性脳損傷型・後天性脳損傷型・非脳損傷型）から理解できる。
- 2) 介護におけるチームのコミュニケーションについて、記録の書き方、会議の仕方などから理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 コミュニケーション障害の理解
- 第 3回 コミュニケーション障害のある利用者への対応
- 第 4回 第 6～11 回授業の準備①（説明と演習）
- 第 5回 第 6～11 回授業の準備②
- 第 6回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際①（高次脳機能障害）
- 第 7回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際②（失語症）
- 第 8回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際③（構音障害）
- 第 9回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際④（認知症・若年性認知症）
- 第 10回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑤（視力・聴力障害）
- 第 11回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑥（知的障害・精神障害）
- 第 12回 介護におけるチームコミュニケーションの理解
- 第 13回 介護における記録の意義と目的
- 第 14回 記録の書き方と留意点、介護記録における個人情報保護
- 第 15回 報告・連絡・相談の方法と留意事項、会議の意義・目的・方法

【授業実施方法】

講義とグループによる調査研究・発表で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】

介護の基本Ⅰ～Ⅵ、介護過程Ⅰ～Ⅴ、人間の理解Ⅰ・Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術論Ⅰ・Ⅱ、日常生活支援技術演習Ⅰ～Ⅹ、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、認知症ケア論Ⅰ・Ⅱ など

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第3版』中央法規出版。

【参考文献】

授業の中で紹介する。

【成績評価方法】

平常点 10%、小テスト 10%、レポート 10%、期末試験（筆記） 60%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

実践現場を意識した予習・復習と授業におけるグループワークの体験が相乗することで学習効果は何倍にも膨らみます。主体的・積極的に取り組んでください。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅰ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	脇山園恵	開講期	1年 後期	単位数 2

【授業の主題】

本講では、ソーシャルワークの理念・概念やその形成過程について学ぶとともに、日本においてソーシャルワーカーとして位置づけられる、社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義などについて学ぶ。

【到達目標】

- 1) ソーシャルワークを担う専門職に必要なとなる基本的な視点について、ソーシャルワークの形成過程から理解できる。
- 2) ソーシャルワークを担う専門職に必要なとなる基本的な価値観について、日本社会福祉士会の倫理綱領と行動規範から理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 社会福祉士の役割と意義：社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法
- 第 3 回 ソーシャルワークの概念と範囲：ソーシャルワークの国際定義と構成要素
- 第 4 回 ソーシャルワークの形成過程①：ソーシャルワークの源流
- 第 5 回 ソーシャルワークの形成過程②：ソーシャルワークの基礎確立期
- 第 6 回 ソーシャルワークの形成過程③：ソーシャルワーク発展期
- 第 7 回 ソーシャルワークの形成過程④：ソーシャルワーク展開期と統合化
- 第 8 回 ソーシャルワークの理念①：ソーシャルワークの価値（価値観）
- 第 9 回 ソーシャルワークの理念②：人権と社会正義
- 第 10 回 ソーシャルワークの理念③：権利擁護
- 第 11 回 ソーシャルワークの理念④：自己決定、自立支援
- 第 12 回 ソーシャルワークの理念⑤：ノーマライゼーションとソーシャル・インクルージョン
- 第 13 回 専門職倫理の概念
- 第 14 回 専門職倫理綱領及び専門職としての行動規範
- 第 15 回 ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞などで報じられる社会福祉に関する問題に関心を持ち、それらの問題とソーシャルワーク専門職との関係について確認すること。

【教科書等】

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規出版。

【参考文献】

- ・岩田正美・武川正吾・永岡正己・平岡公一『社会福祉基礎シリーズ① 社会福祉の原理と思想』有斐閣。
- ・小野哲郎『新・ケースワーク要論—構造・主体の理論的統合化』ミネルヴァ書房。
- ・小松源助『ソーシャルワーク理論の歴史と展開』川島書店。
- ・杉本俊夫・住友雄資『改訂 新しいソーシャルワーク 社会福祉援助技術入門』中央法規出版。 など

【成績評価方法】

平常点 20%、小テスト 10%、中間レポート 20%、期末試験（筆記）50%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【主な関連する科目】

社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ、人間の理解Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱ～Ⅵ、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ など

【学生へのメッセージ】

本講は、大学4年間におけるソーシャルワーク関連の講義や演習の基礎となる講義です。特に、社会福祉士受験資格取得を目指す学生は、積極的な知識の獲得を目指してください。

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅰ 演習	必修・選択の別	選択		
担当者氏名	松下美樹	開講期	1年前期	単位数	1

【授業の主題】

人はどのような状態にあっても、尊厳ある営みが続いていくことが重要である。「生活」とは何かを理解し、生活を支援する為の様々な視点を把握し、基本となる介護技術の意義や目的を学習する。

【到達目標】

- 1) 利用者を生活者として捉える視点、ICFについて理解する。
- 2) 自立支援に欠かせない、尊厳の保持、自己選択・自己決定の支援、介護予防の重要性を理解する。
- 3) 演習の基礎となる手洗いや、ベッドメイキングについて学習し技術を身につける。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 生活の理解
- 第 3 回 生活支援の基本的な考え方 ①介護福祉士と生活支援
- 第 4 回 生活支援の基本的な考え方 ②生活支援の必要な人を理解する
- 第 5 回 生活支援の基本的な考え方 ③ICF の視点と生活支援
- 第 6 回 スタンダードプリコーション（標準予防策）
- 第 7 回 快適な環境をつくる技術 ①手洗いの仕方
- 第 8 回 快適な環境をつくる技術 ②ベッドの取り扱い方
- 第 9 回 快適な環境をつくる技術 ③リネンのたたみ方
- 第 10 回 快適な環境をつくる技術 ④ベッドメイキング
- 第 11 回 快適な環境をつくる技術 ⑤ベッドメイキング
- 第 12 回 快適な環境をつくる技術 ⑥ベッドメイキング～技術確認
- 第 13 回 日常生活行動における意義と目的（身じたく・移動）
- 第 14 回 日常生活行動における意義と目的（食事・排泄）
- 第 15 回 日常生活行動における意義と目的（清潔・睡眠）

【授業実施方法】

講義を基に、演習を行う。

【授業準備】

演習の基礎となる技術は、エビデンスを考え正しい技術を身につけるようにする。

【主な関連する科目】

介護の基本、介護総合演習、生活支援技術論

【教科書等】

「新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第 4 版」

「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第 3 版」＜共に中央法規＞

【参考文献】

適宜、紹介します。

【成績評価方法】

技術チェック・前期定期試験 90%、出席状況・授業参加姿勢 10%で評価。

【学生へのメッセージ】

日常の生活を振り返りながら、「生活」の理解、生活を支援することの考え方を学習していきます。演習にも積極的に参加し、予習・復習を習慣化しましょう。

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅱ（身支度） 演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	松下 美樹	開講期	1年後期	単位数 1

【授業の主題】

「尊厳保持」の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。生活支援技術論Ⅰの人体の基本的学習内容を踏まえ、自立に向けた身じたくの介護を習得する。

【到達目標】

- 1) 自立に向けた身じたくの意義や目的を理解する。
- 2) 利用者の状態・状況に応じた身じたくの介助の留意点を理解する。
- 3) 関連職種の身支度に関する役割や連携について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 生活の中の身じたくを考える
- 第2回 身じたくの意義と目的
- 第3回 身じたくにおける ICF の視点とアセスメント
- 第4回 身じたくにおける介護技術とは
- 第5回 身じたくにおける介護技術 ①整容
- 第6回 身じたくにおける介護技術 ②整容行為における介護の実際
- 第7回 身じたくにおける介護技術 ③口腔ケアと口腔体操
- 第8回 身じたくにおける介護技術 ④口腔ケアにおける介護の実際
- 第9回 身じたくにおける介護技術 ⑤衣服を着用する目的
- 第10回 身じたくにおける介護技術 ⑥衣服の種類と選択及び視点
- 第11回 身じたくにおける介護技術 ⑦衣服着脱における介護の実際
- 第12回 機能低下及び障害がある場合の衣服の着脱介護 1
- 第13回 機能低下及び障害がある場合の衣服の着脱介護 2
- 第14回 生活・社会性の拡大に向けた身じたくの自立
- 第15回 関連職種の役割と連携

【授業実施方法】

実技、グループワーク、ビデオ等演習形式とする。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】

介護の基本、介護総合演習、生活支援技術論

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ 第3版 中央法規出版

【参考文献】

適宜配布する。

【成績評価方法】

技術チェック・後期定期試験 90%、出席状況・授業参加姿勢 10%で評価。

【学生へのメッセージ】

対象者の個別性の理解につとめ、積極的に基本技術を習得しましょう。

授業科目名・形態	日常生活支援技術Ⅲ（移動）	演習	必修・選択の別		選択
担当者氏名		開講期	1年後期	単位数	1

【授業の主題】

「尊厳保持」の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。このとき、生活支援技術論で学習した人体の構造と機能の知識が不可欠であることを踏まえ、日常生活の根本となる移動についての知識と技術を深める。

【到達目標】

- 1) 移動の意義と目的について理解する。
- 2) 安全で的確な移動・移乗の介助の技法を習得する。
- 3) 移動に関する福祉機器の知識とその活用法についても具体的に学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第1回 移動・移乗の意義と目的、安全・安楽について考える
- 第2回 移動・移乗におけるICFの視点とアセスメント
- 第3回 ボディメカニクスの理解と実践
- 第4回 関節可動域と良肢位
- 第5回 移動・移乗における介護技術 ①基本的理解
- 第6回 移動・移乗における介護技術 ②自立度が高い場合、部分的援助を要する場合
- 第7回 移動・移乗における介護技術 ③全面的援助を要する場合
- 第8回 移動・移乗における介護技術 ④ベッドから車いすへ、車いすからベッドへ
- 第9回 移動・移乗における介護技術 ⑤杖歩行・歩行器・車いす走行
- 第10回 技術チェック「車いす移動・移乗」
- 第11回 機能低下・障害がある人の移動・移乗における介護技術1
- 第12回 機能低下・障害がある人の移動・移乗における介護技術2
- 第13回 機能低下・障害がある人の移動・移乗における介護技術3
- 第14回 褥瘡の原因と予防
- 第15回 関連職種との役割と連携、福祉機器

【授業実施方法】

グループワーク、演習形式とする。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】 介護の基本、介護総合演習、生活支援技術論

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ（第3版）中央法規（株）

【参考文献】

・大田仁史・三好春樹，新しい介護－全面改訂版－，講談社

【成績評価方法】

筆記試験 60%、実技チェック・レポート等 30%、平常点 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

対象者の個別性や安全安楽について理解し、積極的に基本技術を習得しましょう。

授業科目名・形態	高齢者福祉論 I	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	中里 操・白男川 尚	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題】

高齢者の生活総体を社会福祉の視点から捉えるのが高齢者福祉論である。高齢者が抱える生活障害を高齢者福祉題として理解する。その上で生活支援にあたって必要とされる高齢者の様々な特性を理解するとともに少子高齢化社会の中で高齢者の福祉ニーズと福祉資源、福祉サービスシステムについての基礎知識から実践的レベルまで、関連施策も含めて包括的に理解できるようにする。

【到達目標】

1. 高齢者の生活を社会的問題として認識する仕組みを理解する。
2. 高齢期における身体的、精神的、心理的、社会・済的特徴を理解する。
3. 高齢者の保健福祉システムについて理解する。
4. 高齢者の生活支援と地域包括支援システムの概要を理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 高齢者問題とはなにか。(社会変動・変容と高齢者問題) (中里)
 第2回 高齢者の生活障害と高齢者福祉問題 (中里)
 第3回 高齢者の特性を理解①(高齢者の社会的理解) (中里)
 第4回 高齢者の特性を理解②(高齢者の身体的・精神的理解・総合的理解) (中里)
 第5回 少子高齢社会と社会的問題①(少子高齢社会への移行とその要因・課題) (中里)
 第6回 少子高齢社会と社会的問題②(高齢者の健康問題、介護問題、経済的問題、生活意識) (中里)
 第7回 高齢者保健福祉の発展 (中里)
 第8回 高齢者福祉関連法規 (白男川)
 第9回 介護予防と予防サービス (白男川)
 第10回 介護過程における展開技法 (白男川)
 第11回 認知症ケアの歴史と理念について (白男川)
 第12回 認知症高齢者に対する行政施策 (白男川)
 第13回 終末期ケアのあり方について (白男川)
 第14回 介護・生活支援と住環境問題 (白男川)
 第15回 高齢者世帯・単身高齢者問題と地域包括支援システム (白男川)

【授業実施方法】 講義形式で行う

【授業準備】

前回講義を復習する。講義予定箇所を読み、専門用語、概念等について調べておく。疑問点を整理しておく。講義中に事例として取り上げたニュースなどは自分で確認しておく。

【主な関連する科目】 社会福祉概論、社会保障論、地域福祉論等

【教科書等】

「高齢者に対する支援と介護保険制度」第5版(新・社会福祉士養成講座13、中央法規)

【参考文献】 適宜紹介する。

【成績評価方法】 出席状況・レポート 30%と期末試験70%の総合評価とする

【学生へのメッセージ】

高齢者を取り巻く現状と課題を踏まえ、地域包括支援システムを理解する。介護問題に収斂せず、地域文化も含めた生活環境と生活実態に関心を持って下さい。

授業科目名	障害者福祉論 I	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	柴田 博	開講期	1年後期	単位数 2

【授業の主題と目標】

障害のある人の心理や身体機能及び環境に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の生活を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護サービスの視点を習得する。また、障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解するとともに、障害が社会環境とのかかわりで生じることの基本的知識を学習する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 障害の概念、捉え方・・・ICF、ICIDH
- 第 2 回 障害者福祉の基本理念・・・ノーマライゼーション
- 第 3 回 障害者福祉の基本理念・・・リハビリテーション、インクルージョン等
- 第 4 回 視覚障害、聴覚・言語障害のある人の生活
- 第 5 回 肢体不自由（運動機能障害）のある人の生活
- 第 6 回 内部障害のある人の生活
- 第 7 回 知的障害のある人の生活
- 第 8 回 精神障害のある人の生活
- 第 9 回 高次脳機能障害のある人の生活
- 第 10 回 発達障害のある人の生活
- 第 11 回 重症心身障害のある人の生活
- 第 12 回 難病のある人の生活
- 第 13 回 障害のある人の心理、障害の受容
- 第 14 回 家族への支援
- 第 15 回 連携と協働・・・地域におけるサポート体制の確立に向けて

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『第13巻 障害の理解』中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料配布

【成績評価方法】

筆記試験 100%

【主な関連する科目】「障害者福祉論Ⅱ」

【学生へのメッセージ】

「障害」を社会生活・環境との関わりでとらえよう

授業科目名・形態	生活支援技術論 I	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	関口麗子	開講期	1年前期	単位数 2

【授業の主題】

介護技術の根拠となる人体の構造や機能について基礎的な知識を習得し、こころとからだのしくみを理解するとともに、各種の病気や障害の理解につなげることができるように学習する。

【到達目標】

- 1) 「健康」「欲求」「身じたく」「移動」「食事」に関連したこころとからだのしくみを理解する。
- 2) 身じたく・移動・食事における行為の生理的意味や機能低下が及ぼす影響について学習する。
- 3) 利用者の残存能力を活用し、安全・安楽を考慮した援助の基本姿勢を理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション、健康とは何か
- 第 2 回 人間の欲求、自己実現
- 第 3 回 こころのしくみの基礎 ①「こころ」「脳」のしくみ
- 第 4 回 こころのしくみの基礎 ②「学習・記憶・思考」「感情」「認知」等
- 第 5 回 からだのしくみ ①心身の調和、恒常性、からだの各部位の役割
- 第 6 回 からだのしくみ ②からだの動き
- 第 7 回 身じたくに関連したしくみ ①身じたくの必要性、身じたくに関連したからだのしくみ
- 第 8 回 身じたくに関連したしくみ ②心身機能の低下が及ぼす影響
- 第 9 回 身じたくに関連したしくみ ③変化への気づきと対応
- 第 10 回 移動に関連したしくみ ①移動の必要性和移動のしくみ
- 第 11 回 移動に関連したこころとからだのしくみ ②心身機能の低下が及ぼす影響
- 第 12 回 移動に関連したこころとからだのしくみ ③変化への気づきと対応
- 第 13 回 食事に関連したしくみ ①食事の意義と必要性、消化器系の理解
- 第 14 回 食事に関連したしくみ ②心身機能の低下が及ぼす影響
- 第 15 回 食事に関連したしくみ ③変化への気づきと対応

【授業実施方法】

基本的には講義形式でおこない、DVD等の活用をする。

【授業準備】

身体各部位の名称、医学・心理学用語など専門用語は復習を繰り返しながら、学習する。
また、自分の身体を使って名称を理解し、具体的な日常生活に結び付けて理解する。

【主な関連する科目】

介護の基本、日常生活支援技術

【教科書等】

「新・介護福祉士養成講座 1 4 こころとからだのしくみ 第3版」 <中央法規>

【参考文献】

「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版」 <中央法規>

【成績評価方法】

レポート・小試験（随時）・前期定期試験等 90%、出席状況・授業参加姿勢 10%で評価。

【学生へのメッセージ】

人体のしくみを理解し、生活の障害はどのようなメカニズムで生じるのか、どのように対応するのか、介護支援の基礎的な理解を深めるよう積極的に授業に参加しましょう。

授業科目名・形態	生活支援技術論Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	関口麗子	開講期	1年後期	単位数 2

【授業の主題】

日常生活行動について基礎的な知識を習得し、こころとからだのしくみが一つひとつの生活行動と結びつき基盤となっていることを理解するとともに、各種の病気や障害の理解につなげることができるように学習する。

【到達目標】

- 1) 「入浴と清潔保持」「排泄」「睡眠」「終末期」に関連したこころとからだのしくみについて理解する。
- 2) 身体の変化が及ぼす影響について学び、日常生活上必要とされる技術（援助）獲得へと展開できるように学習を深める。
- 3) 終末期における心身の変化について理解し、医療従事者との連携の重要性を学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 入浴・清潔保持に関連したしくみ ①皮膚の構造と機能
- 第 2 回 入浴・清潔保持に関連したしくみ ②入浴と清潔の意義と必要性
- 第 3 回 入浴・清潔保持に関連したしくみ ③心身機能の低下が及ぼす影響
- 第 4 回 入浴・清潔保持に関連したしくみ ④変化への気づき、対応
- 第 5 回 排泄に関連したしくみ ①排泄の構造と機能
- 第 6 回 排泄に関連したしくみ ②排泄のメカニズム
- 第 7 回 排泄に関連したしくみ ③心身機能の低下が及ぼす影響
- 第 8 回 排泄に関連したしくみ ④変化への気づき、対応
- 第 9 回 食と排泄について考える ー事例を通してー
- 第 10 回 睡眠に関連したしくみ ①睡眠のしくみと心身機能の低下が及ぼす影響
- 第 11 回 睡眠に関連したしくみ ②変化への気づき、対応
- 第 12 回 死にゆく人に関連したしくみ ①「死」を理解する
- 第 13 回 死にゆく人に関連したしくみ ②終末期から「死」までの変化と特徴
- 第 14 回 死にゆく人に関連したしくみ ③死生観
- 第 15 回 死にゆく人に関連したしくみ ④医療従事者との連携

【授業実施方法】

講義形式で行い、DVD、ビデオ等を活用する。

【授業準備】

前期に学習した生活行為と、日常営まれる生活行動を復習する。

【主な関連する科目】

介護の基本、日常生活支援技術

【教科書等】

「新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ 第3版」 <中央法規>

【参考文献】

適宜、紹介します。

【成績評価方法】

レポート・小試験（随時）・後期定期試験 90%、出席状況・授業参加姿勢 10%で評価。

【学生へのメッセージ】

身体各部の名称や、医学的な専門用語等なかなか解りづらいことも多いとおもいます。自分自身の身体と行動に結びつけ、理解するよう努力しましょう。

授業科目名・形態	社会調査論	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	中里 操・白男川 尚	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題と 目標】

社会調査の意義と目的及び方法の概要について学習する。また、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護や、量的調査の方法及び質的調査の方法について理解することを目的とする。

【到達目標】

社会調査がどのようなものであるかを理解し、実際に初歩的な社会調査の企画、実施ができ、専門的な調査報告書を読み込めることを到達目標とする。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション(中里・白男川)
- 第 2回 社会調査の意義と目的(社会調査の意義と目的、対象) (中里)
- 第 3回 統計法(統計法の概要) と社会調査における倫理(中里)
- 第 4回 社会調査における個人情報保護(中里)
- 第 5回 量的調査の方法①(全数調査と標本調査／母集団／標本／標本抽出／その他) (中里)
- 第 6回 量的調査の方法②(横断調査と縦断調査) (中里)
- 第 7回 量的調査の方法③(自計式調査と他計式調査) (中里)
- 第 8回 量的調査の方法④(測定／測定の水準／測定の信頼性と妥当性／その他) (白男川)
- 第 9回 量的調査の方法⑤ (質問紙の作成方法と留意点／ダブルバーレル質問／パーソナルな質問とインパーソナルな質問／その他) (白男川)
- 第10回 量的調査の方法⑥ (調査票の配布と回収／訪問面接調査／郵送調査／留め置き調査／その他) (白男川)
- 第11回 量的調査の方法⑦ (量的調査の集計と分析／コーディング／単純集計と記述統計／質的データの関連性／量的データの関連性／その他) (白男川)
- 第12回 質的調査の方法①(観察法と面接法) (白男川)
- 第13回 質的調査の方法② (質的調査における記録の方法と留意点) (白男川)
- 第14回 質的調査の方法③(質的調査のデータの整理と分析) (白男川)
- 第15回 社会調査の実施にあたってのITの活用方法(白男川)

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。また、必要に応じてレポート(1200字以上1600字以内)を課す。

【授業準備】

事前に指定した教科書の予習、授業後に教科書とレジュメを使って復習すること。

【教科書等】

新・社会福祉士養成講座 5 『社会調査の基礎 第3版』 中央法規

【参考文献】

随時、必要により提示する。

【成績評価方法】

出席状況・授業態度30%、レポート課題等70%により評価する。

【学生へのメッセージ】

履修者は、新聞記事や各種調査の結果等を通じて、今私たちの生きている社会がどのような社会なのか、そしてそこにどのような変化が生じているのかについて関心を払う習慣をつけて下さい。

授業科目名・形態	社会保障論Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	中里 操 ・ 脇山園恵	開講期	2年後期	単位数	2

【授業の主題】

本講義では、社会保障論Ⅰで学んだ社会保障制度の知識をベースに、年金、医療、介護労働福祉サービス、公的扶助に対する制度的仕組みと内容を総合的に理解を深める。

【到達目標】

- 1, 公的年金制度の仕組みを理解し、併せて近年の課題と展望について理解する。
- 2, 社会保障制度としての医療保険、医療保障システムを理解する
- 3, 介護保険制度を理解し、介護支援計画作成の基礎能力をつける。
- 4, 公的扶助、社会手当制度を理解するとともに、社会保障制度の課題を認識する。

【授業計画・内容】

- 第1回 社会保障制度の体系③（公的年金保険制度の沿革と厚生年金）（脇山）
- 第2回 社会保障制度の体系④（厚生年金の概要と課題）（脇山）
- 第3回 社会保障制度の体系⑤（国民皆年金制度と国民年金）（脇山）
- 第4回 社会保障制度の体系⑥（医療保険制度の沿革と健康保険）（脇山）
- 第5回 社会保障制度の体系⑦（国民皆保険制度と国民健康保険）（脇山）
- 第6回 社会保障制度の体系⑧（医療保険制度の課題と問題点）（脇山）
- 第7回 社会保障制度の体系⑨（高齢者の介護問題と社会的介護保障システム）（脇山）
- 第8回 社会保障制度の体系⑩（介護保険制度の概要と課題）（中里）
- 第9回 社会保障制度の体系⑪（介護保険制度の動向、新しい福祉システムと介護保険）（中里）
- 第10回 社会保障制度の体系⑫（労働者保護施策と労災保険制度）（中里）
- 第11回 社会保障制度の体系⑬（労働者保護施策と雇用保険制度）（中里）
- 第12回 社会保障関連領域①（社会保障と社会福祉、理念・目的・制度の相異）（中里）
- 第13回 社会保障関連領域②（社会保障制度と生活保護制度）（中里）
- 第14回 社会保障関連領域③（社会保障制度と社会手当制度）（中里）
- 第15回 日本の社会保障制度の課題（年金、医療、介護、労働）と社会保障制度改革（中里）

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う

【授業準備】

前回の講義の内容を復習し、講義予定の該当箇所、関連部分に目を通すこと。専門用語・概念などについて調べ、疑問点を整備しておく。講義中に取り上げたメディアのニュースや情報について自らニュースソースや文献に当たり確認する。社会福祉関連のニュースに関心を寄せ、目を通し自分なりの理解と説明ができる状態で主体的に講義を受ける準備をする。

【主な関連する科目】 社会福祉概論、公的扶助論、福祉行財政と福祉計画

【教科書等】 社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障』（第5版）、中央法規

【参考文献】 適宜紹介する

【成績評価方法】（出席状況・レポート）30%、（期試験成績）70%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

年々増加・膨張する社会保障費用は、社会福祉・年金制度・医療制度の現状維持を難しくしている。社会福祉については福祉改革による新しい福祉システムが造られてきた。次のステージとして、社会保障改革が進められている。こうした社会的背景の中で、社会保障制度のあり方について正しく認識し、判断していくためには、日常的に社会福祉・社会保障の関連領域まで含めて情報の収集と判断が求められる。社会福祉・社会保障を学び、習得した基礎的知識・技術を更に深めて、専門職として社会に還元するための実践学として積極的に学んでもらいたい。

授業科目名・形態	高齢者と健康 講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	中里 操	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

超高齢社会を迎えた日本において、高齢者の医療・介護はきわめて重要な問題となっています。

疾病や障害をもつ高齢者を対象としてサービスを提供するのが、医療や介護の専門職です。そのためには、基本的な医学知識をもつことが不可欠です。

【到達目標】

- 1) 老化の影響や高齢者がかかりやすい疾病を知る。
- 2) 高齢者にみられる疾病の症状・特徴を理解する。
- 3) 病気に対する対処方法のポイントを習得する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 高齢者の健康生活とは
- 第 2 回 健康生活モデル・基本的援助技術
- 第 3 回 加齢による呼吸器機能の変化
- 第 4 回 加齢による食べる・飲むことにかかわる機能の変化
- 第 5 回 加齢による排泄機能の変化
- 第 6 回 加齢による睡眠の変化
- 第 7 回 加齢による骨・関節・筋の変化①
- 第 8 回 加齢による骨・関節・筋の変化②
- 第 9 回 加齢による視覚機能の変化
- 第 10 回 加齢による聞く・話すことに関する機能変化
- 第 11 回 加齢による皮膚を保つことに関する機能の変化
- 第 12 回 加齢による記憶する・考える(認知)ことに関する機能の変化
- 第 13 回 加齢によるこころに関する機能の変化
- 第 14 回 高齢者にみられる感染症
- 第 15 回 その人らしい最期を迎えるための援助

【授業実施方法】

講義形式とする。

【授業準備】

講義終了後は、復習を行い習得する。

【主な関連する科目】

エイジング論

【教科書等】

資料を配布する。

【参考文献】

- 「第 11 巻 発達と老化の理解」中央法規出版
「第 1 巻 人体の構造と機能及び疾病 第 2 版」中央法規出版
「老年看護学 高齢者の健康生活を支える看護」太田喜久子編著 医歯薬出版株隙会社
「高齢者のからだと病気」杉山孝博著 中央法規出版

【成績評価方法】

受講状況・小試験 30%、定期試験結果 70%による総合評価

【学生へのメッセージ】

高齢者の健康と疾病の症状を、仕事に活用できるように学んでほしい。

授業科目名・形態	介護福祉論	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	中里 操	開講期	4年前期	単位数 1

【授業の主題】

本講では介護福祉問題について、直接的な介護実践の技術・支援内容に収斂することなく、介護の問題を家族の形成、維持における生活維持機能の障害という認識、つまり社会福祉問題とその社会的対策としての「社会福祉」という視点から総括的に捉え、論じる。

【到達目標】

1. 直接介護を必要としている人、その人を支える家族問題、地域の視点から介護システムを理解する。
2. 介護を必要としている人に寄り添ったよりよい介護サービスを提供するために、大切なのは実践者自身の健康と生活である。この自身の生活力（質と量）を高めるための働き方の問題も正しく認識する。
3. 地域福祉の最重要課題である地域包括ケアの推進における他制度・機関、他職種との連携問題などについて対応できる実践力を培う。

【授業計画・内容】

- 第1回 介護問題を考える①（私的介護と社会的介護）
 第2回 介護問題を考える②（社会福祉問題としての介護問題）
 第3回 介護実践と介護保険制度・介護行政・社会福祉制度・政策から福祉社会システムへの転換
 第4回 介護の実践内容（尊厳を支える介護と自立支援、個別ケアとICF）
 第5回 介護実践のマネジメント（ケアマネジメントとリスクマネジメント）
 第6回 介護実践における連携、新しい流れ（地域包括ケアとそのシステム）
 第7回 介護実践における連携、新しい流れ（地域包括ケアとそのシステム）
 第8回 介護実践者における健康と生活（介護労働を考える）

【授業実施方法】 講義（必要に応じて介護実習体験における学びを教材とする。）

【授業準備】 新聞等により社会と介護に関する関連事項に関心を寄せておくこと。

【主な関連する科目】 社会福祉概論・公的扶助論・高齢者福祉論・障害者福祉論・地域福祉論等

【教科書等】 特に指定はない

【参考文献】 適宜紹介する

【成績評価方法】

（出席状況・参加態度・レポート・小テスト）50%と（定期試験成績）50%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

本講は介護に関する直接的、基本的な専門知識・技術はすでに学習していることを前提にすすめる。そのため十分な予習・復習を必要とするが、大事なことは関心を寄せることである。積極的な受講を期待する。

授業科目名・形態	介護の基本Ⅳ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	林 宏 二	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深めることをねらいとし、また、介護における安全やチームケア等について理解することを目的とする。講義では「介護の基本」として「介護を必要とする人の理解」および「介護サービスについて理解する。

【到達目標】

- 1) 介護を必要とする人の特性を理解する。
- 2) 安心して生きがいの持てる生活が営める社会環境、生活環境について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 生活とは何か
- 第 3回 介護を必要とする人の理解①高齢者の暮らしの実際
- 第 4回 介護を必要とする人の理解②障害のある人の暮らしの実際
- 第 5回 その人らしさの理解①生活してきた社会背景
- 第 6回 その人らしさの理解②生活史
- 第 7回 その人らしさの理解③価値観
- 第 8回 介護を必要とする人の生活環境の理解
- 第 9回 介護サービスの特性①介護サービスの意味と特性
- 第 10回 介護サービスの特性②高齢者ケアマネジメントとケアプランの流れ
- 第 11回 介護サービスの特性③障害者ケアマネジメントとケアプランの流れ
- 第 12回 介護サービス提供の場の特性①高齢者関連・居宅系サービス
- 第 13回 介護サービス提供の場の特性②高齢者関連・入所系サービス
- 第 14回 介護サービス提供の場の特性③障害者関連・居宅系サービス
- 第 15回 介護サービス提供の場の特性④障害者関連・入所系サービス

【授業実施方法】

講義形式で行う。

【授業準備】

テキストを中心とした予習を十分に行うこと

【主な関連する科目】

介護過程, 高齢者福祉論, 日常生活支援技術

【教科書等】

- 介護の基本Ⅰ (新・介護福祉士養成講座3 中央法規)
- 介護の基本Ⅱ (新・介護福祉士養成講座4 中央法規)

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

出席状況 (10%), 小テスト (10%), 小レポート (10%), 定期試験 (70%) で評価する。

【学生へのメッセージ】

介護の対象となる利用者像を現在・過去・未来の視点でとらえ、個人の特性が理解できるように、積極的な受講を期待します。

授業科目名・形態	介護の基本V	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	関口麗子	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

尊厳を守り自立を支援する基本理念をもとに、介護実践における「連携」と「倫理」について、その意義や目的を理解し実践方法を身につける。

【到達目標】

- 1) 福祉職のみならず、関連領域である保健医療分野や行政機関等とのチームアプローチについて、その意義と実践方法を学ぶ。
- 2) 権利擁護、虐待防止、個人情報保護など、現状に見る課題と関連させながら学習する。
- 3) 介護場面における、倫理的課題に対応できるための基礎となる能力を養う。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 介護実践における連携の意義と目的
- 第 2 回 関連領域の理解と相互連携
- 第 3 回 介護職員間の連携とチームアプローチ
- 第 4 回 協働職種の機能と連携のあり方
- 第 5 回 地域連携の意義と目的
- 第 6 回 インフォーマルな地域資源の開発と相互連携
- 第 7 回 ケアマネジメントと多職種連携
- 第 8 回 介護福祉士の専門性と倫理
- 第 9 回 介護と利用者の人権、権利擁護
- 第 10 回 尊厳を支える介護と虐待防止
- 第 11 回 利用者の個人情報とプライバシー保護
- 第 12 回 高齢者の個人情報から学ぶ尊厳と人権
- 第 13 回 児童・障害者の虐待事例から学ぶ尊厳と人権
- 第 14 回 介護福祉士会倫理綱領と専門職の職業倫理
- 第 15 回 まとめ

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

講義内容を確認し予習を行う。倫理に関する最近の問題について、新聞や参考書で確認する。

【主な関連する科目】

介護の基本、生活支援技術論

【教科書等】

「新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第4版」 <中央法規>

【参考文献】

適宜、紹介します。

【成績評価方法】

小試験・前期定期試験等 90%、出席状況・授業参加姿勢 10%で評価する。

【学生へのメッセージ】

連携・チームワークは、それぞれの分野の持つ専門的な役割と機能に、お互いに関心を持ち、敬意を持つことが基本となります。積極的に授業に参加し、知識の獲得に努力しましょう。

授業科目名・形態	介護の基本VI	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	関口麗子	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

利用者の「尊厳ある暮らし」を支える視点から、介護における安全を確保するためのリスクマネジメントや、感染症の予防について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 介護現場における事故防止、安全対策について理解する。
- 2) リスクマネジメントについて理解する。
- 3) 介護現場で発生しやすい感染症に関する知識を身につけ感染予防対策を実践できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 介護における安全の確保と重要性
- 第 3 回 介護現場にひそむ危険性とケアの質
- 第 4 回 事故の発生と要因の分析
- 第 5 回 安全確保のためのリスクマネジメント
- 第 6 回 リスクマネジメントに必要な要素
- 第 7 回 事故防止と安全対策の基礎
- 第 8 回 事故防止と安全対策の実際
- 第 9 回 事例展開
- 第 10 回 感染症とは何か
- 第 11 回 感染症対策の基本とリスクマネジメント
- 第 12 回 高齢者介護施設と感染対策
- 第 13 回 介護従事者の心身の健康管理
- 第 14 回 感染症対策
- 第 15 回 まとめ

【授業実施方法】

講義、グループワーク、DVD学習等

【授業準備】

普段から危険の潜む場所や、観察を通して把握する力をつけ環境を整える。感染症などの流行期には新聞などを確認し、動向を把握する。

【主な関連する科目】

介護の基本、生活支援技術論

【教科書等】

「新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第4版」＜中央法規＞

【参考文献】

適宜、紹介します。

【成績評価方法】

小試験・後期定期試験等 90%、出席状況・授業参加姿勢 10%で評価する。

【学生へのメッセージ】

介護に関わる安全対策について学んでいきます。リスク感性を磨き、感染症の動向にも注意をはらいながら、衛生管理ができるようにします。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅱ	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	田中 誠	開講期	2年生前期	単位数 2

【授業の主題と目標】

本講義では日本におけるソーシャルワーカーとして位置づけられる社会福祉士及び精神保健福祉士、ならびに関連専門職の役割やその意義および連携の重要性を理解することを目的とする。特にソーシャルワークの理念に基づく総合的かつ包括的な支援の在り方、その基盤となる理論について学習し、ソーシャルワーク実践における行動規範、あるべき視座を習得することを目標とする。またこれまでの豊富な実践例をテキストの内容に当てはめ、理論の解説を講義の内容としたい。さらに国家試験をも視野に入れた講義も試みたい。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション（講義の内容、進め方、評価方法など）
- 第 2回 総合的かつ包括的支援について：ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な相談援助
- 第 3回 総合的かつ包括的な相談援助①：地域を基盤としたソーシャルワーク論とその視座
- 第 4回 総合的かつ包括的な相談援助②：ネットワークを活用した連携と協働及びその視座
- 第 5回 ジェネラリストの視点に基づく援助と多職種等との連携
- 第 6回 ジェネラリスト・ソーシャルワーク①：ジェネラリスト・ソーシャルワークについて
- 第 7回 ジェネラリスト・ソーシャルワーク②：基礎理論
- 第 8回 相談援助専門職の概念
- 第 9回 相談援助専門職の範囲①：行政における相談援助専門職
- 第10回 相談援助専門職の範囲②：民間の施設、組織における相談援助専門職
- 第11回 相談援助専門職の海外の動向
- 第12回 相談援助専門職の倫理：行動規範としての倫理綱領と倫理ジレンマ
- 第13回 相談援助専門職としての専門的機能①：事例から学ぶソーシャルワークの機能①
- 第14回 相談援助専門職としての専門的機能②：事例から学ぶソーシャルワークの機能②
- 第15回 相談援助専門職としての専門的機能③：事例から学ぶソーシャルワークの機能③

【授業実施方法】 講義形式

【教科書等】 「6 相談援助の基盤と専門職」中央法規

【参考文献】 随時、講義の中で紹介する

【成績評価方法】 筆記試験 80%、出席数 10%、授業態度 10%などで総合的に判断する

【主な関連する科目】 ソーシャルワーク論Ⅳ

【学生へのメッセージ】

本講義は社会福祉専門職の視座、技術、行動規範を学習し、今後の講義や演習の基礎となる講義である。社会福祉士を目指す学生は積極的かつ情熱的に知識の習得を目指してほしい。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅲ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	脇山園恵	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

本講では、ソーシャルワーク実践の土台となる、相談援助における人と環境との相互作用に関する理論とジェネラリスト・ソーシャルワークについて基礎的に学ぶ。その上で、多様な対象が抱える多様な問題に対応する様々な実践モデルとアプローチについて応用的に学ぶ。

【到達目標】

- 1) 対象への働きかけを行うソーシャルワーク実践の基礎について、ソーシャルワークの定義と枠組み、構造と機能から理解できる。
- 2) 対象の違いにより働きかけの方法を変えるソーシャルワーク実践の応用について、ソーシャルワーク実践の系譜から理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 相談援助とは①（ソーシャルワークの定義と枠組み）
- 第 3 回 相談援助とは②（ソーシャルワークを構成する要素とソーシャルワークの職場）
- 第 4 回 相談援助の構造と機能①（ソーシャルワークの構造）
- 第 5 回 相談援助の構造と機能②（ソーシャルワークにおけるニーズと機能）
- 第 6 回 人と環境の相互作用①（一般システム理論）
- 第 7 回 人と環境の相互作用②（サイバネティックス、自己組織性、その他）
- 第 8 回 様々な実践モデルとアプローチⅠ（実践モデルとその意味、治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル、ジェネラリスト・ソーシャルワーク）、第9～13回の授業の準備
- 第 9 回 第9～13回の授業の準備
- 第 10 回 様々な実践モデルとアプローチⅡ①（心理社会的アプローチ、機能的アプローチ）
- 第 11 回 様々な実践モデルとアプローチⅡ②（問題解決アプローチ、課題中心アプローチ）
- 第 12 回 様々な実践モデルとアプローチⅡ③（危機介入アプローチ、行動変容アプローチ）
- 第 13 回 様々な実践モデルとアプローチⅢ（エンパワメントアプローチ、ナラティブ）
- 第 14 回 確認問題と振り返り①
- 第 15 回 確認問題と振り返り②

【授業実施方法】 講義とグループによる調査研究・発表で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞などで報じられる社会福祉に関する問題に関心を持ち、対象が抱える問題と社会の関係について確認すること。

【教科書など】

- ・社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規出版。
- ・社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規出版。

【参考文献】

- ・小野哲郎『新・ケースワーク要論—構造・主体の理論的統合化』ミネルヴァ書房。
- ・ジョンソン, L. C. ・ヤンカ, J. S., 山辺朗子・岩間伸之訳『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房。
- ・パールマン, H. H., 松本武子訳『ソーシャル・ケースワーク—問題解決への過程』全国社会福祉協議会。
- ・リッチモンド, M., 小松源助訳『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』中央法規出版。 など

【成績評価方法】

平常点 10%、中間レポート 40%、期末試験（筆記） 50%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【主な関連する科目】 社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅱ～Ⅵ、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴなど

【学生へのメッセージ】

期末試験対策としては反復的な学習が重要となります。予習・復習を必ず行い、理解を確実にするとともに、地域社会の動向にも関心を持ちながら受講してください。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅳ	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	田中 誠	開講期	2年生前期	単位数 2

【授業の主題と目標】

相談援助の過程とそれに関わる知識と技術について理解する。相談援助の展開過程に沿いながら体系的な相談援助の過程を理解し、その過程で必要とされる契約・アセスメント・介入・モニタリングなどそれに伴う面接・記録・評価の技術について体系的に理解を深める。またこれまでの豊富な実践例をテキストの内容に当てはめ、理論の解説を講義の内容としたい。さらに国家試験をも視野に入れた講義も試みたい。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 相談援助の展開過程①プロセス：ケース発見・インテーク
- 第 3 回 相談援助の展開過程②ニーズ確定：アセスメント
- 第 4 回 相談援助の展開過程③支援標的目標設定：支援計画作成・実施
- 第 5 回 相談援助の展開過程④モニタリング・再アセスメント・効果評価
- 第 6 回 相談援助のための契約技術
- 第 7 回 相談援助のためのアセスメント技術
- 第 8 回 相談援助のための介入技術
- 第 9 回 相談援助のためのモニタリング・再アセスメント・効果評価技術
- 第 10 回 相談援助のための面接技術①目的・展開
- 第 11 回 相談援助のための面接技術②技術・形態
- 第 12 回 相談援助のための記録の技術①意義・目的・活用
- 第 13 回 相談援助のための記録の技術②方法・実際例・課題
- 第 14 回 相談援助のための交渉の技術①意義・目的・留意点
- 第 15 回 相談援助のための交渉の技術②プレゼンテーション・まとめ

【授業実施方法】 講義形式

【教科書等】 「7 相談援助の理論と方法Ⅰ」中央法規

【参考文献】 随時、講義の中で紹介する

【成績評価方法】 筆記試験 80%、出席数 10%、授業態度 10%により総合的に判断する

【主な関連する科目】 ソーシャルワーク論Ⅳ

【学生へのメッセージ】

本講義は社会福祉専門職の視座、技術、行動規範を学習し、今後の講義や演習の基礎となる講義である。社会福祉士を目指す学生は積極的かつ情熱的に知識の習得を目指してほしい。

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅳ（食事） 演習	必修・選択の別	選択		
担当者氏名	工藤 久	開講期	2年前期	単位数	1

【授業の主題】

人間にとっての食事の意義・目的を踏まえた上で、その人らしく生きるための自立（自律）に向けた食事について学習する。食べることは生命維持に不可欠であることを念頭に、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

【到達目標】

- 1) 食事の意義と目的を理解し、食事介護に必要なアセスメントができる。
- 2) 食事における自立支援の意義を理解し、食事支援の具体的な技術を習得する。
- 3) 誤嚥や嚥下障害について他の職種の役割と協働について把握できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 食事の意義・目的・メカニズム
- 第 2 回 食事のメカニズム（摂取～排泄）と生活リズム
- 第 3 回 食事のメカニズム GW・・・摂食にかかわる器官について
- 第 4 回 機能低下・障害の状態に応じた介護と留意点 ①感覚機能が低下している場合
- 第 5 回 機能低下・障害の状態に応じた介護と留意点 ②運動機能が低下している場合
- 第 6 回 機能低下・障害の状態に応じた介護と留意点 ③認知機能が低下している場合
- 第 7 回 機能低下・障害の状態に応じた介護と留意点 ④食欲不振の原因と対応
- 第 8 回 誤嚥と窒息防止
- 第 9 回 脱水と脱水の予防
- 第 10 回 食事の実際（演習）①食事環境の調整
- 第 11 回 食事の実際（演習）②自立度が高い場合
- 第 12 回 食事の実際（演習）③自立度が低下している場合
- 第 13 回 食事の実際（演習）④経管栄養を行っている場合
- 第 14 回 食事の実際（①～⑤）におけるアセスメント
- 第 15 回 他職種との連携

【授業実施方法】

基本的には演習形式で行う。

【授業準備】

演習がスムーズに行えるよう、グループメンバーは利用者と介護者の役割をあらかじめ理解しておく。

【主な関連する科目】 介護の基本、介護過程、生活支援技術論

【教科書等】

「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版」＜中央法規＞

【参考文献】

・大塚彰, 高齢者・障害者の「食」の援助プログラム, 医歯薬出版(株)

【成績評価方法】

筆記試験 60%、実技チェック 30%、平常点 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

対象者の個別性や安全安楽に留意し適切な食事が提供できるように、食事環境の調整、満足感・生活への意欲につながることを考慮しながら積極的に基本技術を習得しましょう。

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅴ（入浴・清潔） 演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	田村美由紀	開講期	2年前期	単位数 1

【授業の主題】

「尊厳保持」の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。生活支援技術論での学習を踏まえて機能低下や障害がある人など多様な場面において適切な介護が実施できることを目指す。ICFに基づくアセスメント、日常生活における清潔の意味や必要性、清潔援助の種類と清潔方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) その人らしく生きるための自立（自律）に向けた入浴・清潔保持の介護の意義・目的を理解する。
- 2) 対象者（利用者）の潜在能力を引き出し生活拡大が図れるように個別性や創意工夫の必要性を理解する。
- 3) 清潔介護における知識・技術・態度を身につける。

【授業計画・内容】

- 第1回 人間にとって清潔とは何か、清潔の意義・目的
- 第2回 入浴・清潔に関するアセスメント ①ICFの考え方
- 第3回 入浴・清潔に関するアセスメント ②自立している場合と障害がある場合の清潔
- 第4回 入浴と清潔ケアの基礎知識、種類と方法
- 第5回 安全・安楽な介助の技法 ①入浴・シャワー浴
- 第6回 安全・安楽な介助の技法 ②全身清拭
- 第7回 安全・安楽な介助の技法 ③陰部洗浄、手浴・足浴
- 第8回 安全・安楽な介助の技法 ④洗髪
- 第9回 安全・安楽な介助の技法 ⑤洗面、爪切り、耳垢除去、整容など
- 第10回 障害・状態に応じた留意点 ①感覚機能が低下している場合
- 第11回 障害・状態に応じた留意点 ②運動機能が低下している場合
- 第12回 障害・状態に応じた留意点 ③認知・知覚機能が低下している場合
- 第13回 実技チェック
- 第14回 入浴・清潔介護における他職者との連携
- 第15回 福祉用具の活用と身近な物品の工夫

【授業実施方法】

グループワーク、演習形式とする。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】 介護の基本、介護総合演習、生活支援技術論

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ（第3版）中央法規（株）

【参考文献】

・大田仁史・三好春樹、新しい介護—全面改訂版—、講談社

【成績評価方法】

筆記試験 80%、実技チェック・レポート等 10%、出席状況・授業態度 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

対象者の個別性や安全安楽に留意し、対象者（利用者）に適切な清潔介護ができるように、積極的に基本技術を習得しましょう。

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅵ 演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	富樫 大	開講期	2年後期	単位数 1

【授業の主題】

その人らしく生きるための自立（自律）に向けた排泄介護の意義・目的を理解する。生活支援技術論での学習を踏まえて、排泄のメカニズムを理解し、機能低下や障害がある人など多様な場面において適切な介護が実施できることを目指す。

【到達目標】

- 1) 日常生活における排泄の意味や必要性を理解する。
- 2) 対象者の潜在能力を引き出し、生活拡大が図れるように個別性や創意工夫の必要性を理解する。
- 3) 排泄介護における知識・技術・援助の方法を身につける。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 人間にとって排泄とは何か、排泄の意義・目的（富樫）
- 第 2 回 排泄のメカニズムとコントロール（富樫）
- 第 3 回 排泄に関するアセスメント ① ICFの考え方（富樫）
- 第 4 回 排泄に関するアセスメント ②自立している場合と障害がある場合の清潔（富樫）
- 第 5 回 機能低下・障害がある場合の援助と留意点 ①感覚機能が低下している場合（富樫）
- 第 6 回 機能低下・障害がある場合の援助と留意点 ②運動機能が低下している場合（富樫）
- 第 7 回 機能低下・障害がある場合の援助と留意点 ③認知機能が低下している場合（富樫）
- 第 8 回 その他（自己導尿、ストーマ、浣腸、座薬等）の状態に応じた介護（富樫）
- 第 9 回 安全・安楽な介助の技法 ①便・尿器のあて方（富樫）
- 第 10 回 安全・安楽な介助の技法 ②ポータブルトイレでの排泄（富樫）
- 第 11 回 安全・安楽な介助の技法 ③おむつの着用（富樫）
- 第 12 回 安全・安楽な介助の技法 ④おむつ交換（富樫）
- 第 13 回 実技チェック（富樫）
- 第 14 回 排泄介護における他職者との連携（富樫）
- 第 15 回 福祉用具の活用と身近な物品の工夫（富樫）

【授業実施方法】

講義、演習、グループワーク、ビデオ等

【授業準備】

講義内容を予習し、グループワークが円滑に行うことができるよう協力しあう。

【主な関連する科目】

介護の基本、介護過程、生活支援技術論

【教科書等】

「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版」 〈中央法規〉

【参考文献】

適宜紹介する

【成績評価方法】

筆記試験 80%、実技チェック・レポート等 10%、出席状況・授業態度 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

対象者の個別性や安全安楽に留意し、対象者（利用者）に適切な排泄介護ができるように、積極的に基本技術を習得しましょう。

授業科目名・形態	高齢者福祉論Ⅱ	講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	林 宏二	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

高齢者の生活を支える介護保険制度や高齢者福祉制度の仕組み、高齢者施設・在宅サービスを理解することを目的とします。さらにそれらを支える専門職や関係機関の理解と相互の関連性や連携、その中で展開されるケアマネジメントや介護の展開過程などを総合的、体系的に学びます。

【到達目標】

- 1) 介護保険制度の全体像を理解する。
- 2) 高齢者支援の組織と役割を理解する。
- 3) 高齢者に対する介護の概念、介護過程、認知症ケアについて理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 介護保険制度の全体像・目的と理念・介護保険制度の最近の動向
- 第 3回 介護保険制度の保険財政と被保険者
- 第 4回 介護認定の仕組みとプロセス・保険給付
- 第 5回 介護報酬・地域支援事業
- 第 6回 介護保険事業計画・サービスの質を確保するための仕組み
- 第 7回 介護保険のサービス体系①専門職の役割②居宅・施設サービス
- 第 8回 介護保険のサービス体系③介護予防・地域密着型サービス
- 第 9回 高齢者支援の組織と役割①行政機関と国民健康保険団体連合会
- 第10回 高齢者支援の組織と役割②地域包括支援センター
- 第11回 高齢者支援の組織と役割③社会福祉協議会・NPO他
- 第12回 高齢者支援の方法と専門職の役割
- 第13回 介護の概念や対象
- 第14回 介護過程
- 第15回 認知症ケア・終末期ケア・住環境・まとめ

【授業実施方法】

講義形式で行う。

【授業準備】

テキストを中心とした予習を十分に行うこと

【主な関連する科目】

社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、社会保障論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

高齢者に対する支援と介護保険制度（新・社会福祉士養成講座13 中央法規）

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

出席状況（10%）、小テスト（10%）、小レポート（10%）定期試験（70%）で評価する。

【学生へのメッセージ】

介護保険制度などの法最新の改正や高齢者を取り巻く社会の動向に興味をもつようにしてください。

授業科目名	障害者福祉論Ⅱ	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	柴田 博	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題と目標】

障害のある人の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護の需要について理解し、支援活動において必要な障害者総合支援法や他の福祉制度について理解する。また、障害者及び家族の生活実態に即した福祉・介護にかかわる法制度を含めた支援サービスのあり方を学習する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 障害者を取り巻く社会情勢
- 第 2 回 障害者福祉の生活実態
- 第 3 回 障害者基本法、障害者にかかわる法の成立経過
- 第 4 回 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法
- 第 5 回 精神保健福祉法、発達障害者支援法
- 第 6 回 医療観察法、障害者雇用促進法、バリアフリー新法
- 第 7 回 障害者虐待防止法、障害者差別解消法
- 第 8 回 障害者総合支援法の理念・考え方
- 第 9 回 自立支援給付、支給決定のプロセス
- 第 10 回 地域生活支援事業、障がい福祉計画
- 第 11 回 苦情解決、介護保険制度との関係
- 第 12 回 組織・機関の役割・・・行政機関、サービス事業者、労働機関、教育機関
- 第 13 回 専門職の価値・倫理
- 第 14 回 専門職の役割と実際、相談支援事業所の役割と実際
- 第 15 回 多職種連携・ネットワークキングの実際

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

社会福祉士養成講座編集委員会編『第14巻 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料配布

【成績評価方法】

筆記試験 100%

【主な関連する科目】「障害者福祉論Ⅰ」

【学生へのメッセージ】

新しい制度の理念を考えてみよう

授業科目名・形態	公的扶助論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	脇山園恵	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

公的扶助（生活保護）は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度であり、貧困の拡大が社会問題として注目を集める現在、セーフティネットとして位置付けられる公的扶助は、改めてその現代的意義が問われている。公的扶助制度の歴史的展開、生活保護制度の原理と原則、条漣の実施体制、権利擁護活動、生活保護周辺の低所得対策等を体系的に学ぶ。

【到達目標】

- 1) 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
- 2) 相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。
- 3) 生活困窮者自立支援制度の意義とその実際について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 公的扶助の概念
- 第 2 回 貧困・低所得者問題と社会的排除
- 第 3 回 公的扶助の歴史①（海外の歴史）
- 第 4 回 公的扶助の歴史②（日本の歴史、近年の動向）
- 第 5 回 生活保護制度の仕組み①（目的と原理・原則）
- 第 6 回 生活保護制度の仕組み②（保護の種類・内容一方法、保護施設、）
- 第 7 回 生活保護制度の仕組み③（保護者の権利一義務、不服申立てと訴訟、財源と予算）
- 第 8 回 最低生活保障水準と生活保護基準
- 第 9 回 生活保護の動向
- 第 10 回 低所得者対策の概要①（生活福祉資金、社会手当削度）
- 第 11 回 低所得者対策の概要②（ホームレス対策、その他の低所得者対策）
- 第 12 回 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体①（国、都道府県、市町村の役割）
- 第 13 回 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体②（福祉事務所の役割と専門職）
- 第 14 回 貧困・低所得者に対する相談援助活動
- 第 15 回 生活保護における自立支援

【授業実施方法】 講義形式で行う。

【授業準備】 関連する科目の講義内容で学んだ制度を再確認しておくこと。

【主な関連する科目】「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ」

【教科書等】 社会福祉士養成講座編集委員会編『低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版

【参考文献】 随時紹介する。

【成績評価方法】

平常点 10%、レポート 10%、小テスト 10%、期末試験 70%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【学生へのメッセージ】

低所得者への支援は如何に行われるべきか、自ら関連図書に触れるとともに、必ず予習・復習を行って受講すること。

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅶ（家事）	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤 久・石岡 和志・脇山 園恵	開講期	2年後期	単位数 1

【授業の主題と目標】

自立支援の一步は家事から始まるといわれるほど、衣食住は生活するために重要である。この授業では、家事技術が自分自身の生活に直結していることを理解し、高齢者・障害者の日常生活に欠かせない家事援助の知識と技術を修得することを目標としている。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション・家事支援の意義と目的①（1.自立生活を支える意義と目的）（工藤・石岡・脇山）
- 第 2 回 家事支援の意義と目的②（2.家事支援におけるアセスメントと ICF の理解）（石岡・脇山）
- 第 3 回 家事に参加することを支える介護①（参加を支える介護の工夫、配食サービスの利用）（脇山・工藤）
- 第 4 回 家事に参加することを支える介護②（意欲を出す働きかけ、買い物、家計）（脇山・工藤）
- 第 5 回 家事の介助の技法①（掃除・ごみ捨て）（工藤・石岡）
- 第 6 回 家事の介助の技法②（裁縫）（工藤・石岡）
- 第 7 回 家事の介助の技法③（裁縫）（石岡・脇山）
- 第 8 回 家事の介助の技法④（洗濯）（石岡・脇山）
- 第 9 回 家事の介助の技法⑤（特別食の調理）（脇山・工藤）
- 第 10 回 家事の介助の技法⑥（特別食の調理）（脇山・工藤）
- 第 11 回 家事の介助の技法⑦（調理技術の実践）（工藤・石岡）
- 第 12 回 家事の介助の技法⑧（調理技術の実践）（工藤・石岡）
- 第 13 回 家事の介助の技法⑨（調理技術の実践）（石岡・脇山）
- 第 14 回 家事の介助の技法⑩（調理技術の実践）（石岡・脇山）
- 第 15 回 他職種との連携（工藤）

【授業実施方法】

演習形式で行なう。

【授業準備】

高齢者や障害者の食事について専門書などで予備知識を備えておいてください。

【主な関連する科目】「介護の基本」「社会福祉概論Ⅰ」「高齢者福祉論Ⅰ」「障害者福祉論Ⅰ」

【教科書等】

介護福祉士養成校協会編集委員会 新・介護福祉士養成講座 第4版「生活支援技術Ⅰ」 中央法規

【参考文献】

介護福祉のための家政学実習，建帛社

【成績評価方法】

提出物（裁縫・調理・レポート等）70%、平常点30%で総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

家事の基本的な技術である裁縫・調理・掃除など苦手な学生がいると思われるが、この授業を通して工夫しながら家事の楽しさを学び、また実際の現場で活用する場面があるため関心を持って授業に臨むことを期待する。家政実習室利用時は、中履き、エプロン等を準備してください。

授業科目名・形態	地域福祉論 I	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	菊池まゆみ・加藤 静	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

地域福祉の基本的な考え方を理論だけでなく事例を通じて地域福祉の実践を学びながら、地域福祉の主体と対象について理解する。また、地域福祉が私たちにとって身近なものであることや、地域福祉を推進する組織、団体及び専門職の役割と実際について理解し、地域に目を向けたより具体的な地域福祉活動に対する理解を深める。

【到達目標】

- 1) 地域福祉の基本的な考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等)について理解する。
- 2) 地域福祉の主体と対象について理解する。

【授業計画・内容】 * 菊池が第9回以外の14回を担当し、第9回のみ加藤が担当する。

- 第1回 地域福祉の基本的な考え方（概念と範囲）
- 第2回 地域福祉の発展過程
- 第3回 地域福祉の理念(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等)
- 第4回 行政と住民の協働と生活課題に対応する地域福祉（生活困窮者支援）
- 第5回 地域のとらえ方と福祉圏域
- 第6回 地域福祉の主体と福祉教育
- 第7回 社会福祉法における地方分権化と地域福祉計画
- 第8回 行政組織と民間組織の役割と実際1（社会福祉協議会の組織と活動）
- 第9回 行政組織と民間組織の役割と実際2（社会福祉法人の役割）（加藤担当）
- 第10回 行政組織と民間組織の役割と実際3（ボランティア活動とNPO）
- 第11回 行政組織と民間組織の役割と実際4（民生委員・児童委員、保護司の活動）
- 第12回 地域福祉活動の専門職と住民の関係
- 第13回 地域福祉推進における住民参加の意義
- 第14回 地域福祉の財源・政策
- 第15回 地域福祉の動向

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】 関連する科目の講義内容で学んだ制度を再確認しておくこと。

【主な関連する科目】「福祉行財政と福祉計画」「社会保障論 I」「社会福祉概論 I」「高齢者福祉論 I・II」

【教科書等】 社会福祉士養成講座編集委員会編「地域福祉の理論と方法第3版」中央法規出版

【参考文献】 必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】 筆記試験 80%、課題提出 10%、授業態度・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

地域福祉は、生活の場である地域の問題へのアプローチに関連します。日頃から地域活動へ関心を持つとともに毎回の出席を心がけてください。

授業科目名・形態	児童・家庭福祉論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	中里 操	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

近年、わが国では子どもが事件に巻き込まれるケースやいじめによる自殺や不登校の増加、また、児童相談所に寄せられた虐待に関する相談件数が増加し続けるなど子どもに関する問題が多々あります。要因としては、子どもにかかわる人が昔と比べて減少したと考えられます。授業では、子どもと家庭・地域社会の現状と課題と現在の制度を学び、子どもと家庭支援の基本的な考え方を学びます。

【到達目標】

- 1) 子ども家庭福祉論を学ぶ意義や目的を理解し、児童の生活問題への関心を深める。
- 2) 子どもの貧困や虐待などの問題が生まれる要因と、その対応・対策について説明できる。
- 3) 子ども家庭福祉にかかわる各種サービス・法制度について理解し、説明できる。
- 4) 子ども家庭福祉・保健、援助活動を理解し、説明できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション／現代社会と子ども家庭
- 第2回 少子高齢社会と次世代育成支援子／現代社会と子ども家庭福祉の問題
- 第3回 子どもの育ち、子育てニーズ／子どものための福祉原理
- 第4回 子ども家庭福祉の理念／子どもと家庭の権利保障
- 第5回 児童福祉の発展
- 第6回 子ども家庭福祉に係わる法制度① (1. 法制度)
- 第7回 子ども家庭福祉に係わる法制度② (2. 実施体制 3. 子ども家庭福祉の財政 4. 子ども家庭福祉の専門職)
- 第8回 子ども家庭福祉に係わる法制度③ (5. 苦情解決と権利擁護)
- 第9回 子ども家庭福祉に関わる福祉・保健① (1. 母子保健 2. 障害難病のある子ども家庭への支援)
- 第10回 子ども家庭福祉に関わる福祉・保健② (3. 児童健全育成 4. 保育)
- 第11回 子ども家庭福祉に関わる福祉・保健③ (5. 子育て支援 6. ひとり親家庭の福祉)
- 第12回 子ども家庭福祉に関わる福祉・保健④ (7. 児童の社会的養護サービス)
- 第13回 非行児童・情緒障害児への支援
- 第14回 児童虐待対策・子どもと家庭に関わる女性福祉
- 第15回 子ども家庭への援助活動

【教科書等】 社会福祉士養成校協会編集委員会編 新・社会福祉士養成校講座第15巻第5版「家庭や児童に対する支援と児童・家庭福祉制度」

【授業準備】 講義内容を踏まえ復習を中心に行い、講義中に指摘する子どもと家庭に関わる諸問題や制度について、新聞や参考書を用いて確認すること。

【主な関連する科目】 「社会保障」「権利擁護と成年後見制度」「障害児(者)の福祉」「障害福祉論ⅠⅡ」

【参考文献】 一瀬早百合：「障害がある乳幼児と母親たち」－その変容プロセス－、
E. H. エリクソン：「幼児期と社会1・2」みすず書房、
浅倉次男：「子どもを理解する」へるす出版

【成績評価方法】 出席状況・レポート等30%、期試験成績70%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

子どもが健やかに生まれ育つ環境として何よりも重要な基盤である家庭は、少子高齢社会の人間関係が希薄な社会において、新しい家庭観が必要となっています。この授業は、子ども自身への支援と、子育て家庭へのさまざまな支援を取り上げます。子育てとそれを支える家族の問題についてのメディア情報に関心を寄せてください。

授業科目名・形態	認知症ケア論 I	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	菅原 聡	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする

【到達目標】

認知症の方を中心にして支援するというパーソンセンタードケアの考え方から、認知症ケアは、個別性を重視した生活支援型ケアが主流になってきている。さらに、認知症の方を社会で支えるために、住み慣れた地域で生活をしていくというサポート体制が創られつつある。様々な生活上の生きづらさをもっておられる方々の心身の状況を学び、ご本人の権利を護り、生活支援を含めたケアのあり方を学習する。具体的にはこれから行われる施設実習時に授業で学んだことを十分活用できるようになることを目標とする

【授業計画・内容】

- 第 1回 認知症とは何か
- 第 2回 認知症ケアの歴史
- 第 3回 認知症ケアの理念と視点
- 第 4回 認知症の人の行動・心理症状
- 第 5回 脳の仕組み
- 第 6回 認知症の原因疾患
- 第 7回 認知症の診断と治療
- 第 8回 認知症の予防
- 第 9回 認知症の人の心理的理解
- 第10回 認知症の人の介護をしていくために
- 第11回 認知症の人の体験
- 第12回 本人本位の視点を確かなものに
- 第13回 認知機能の変化が生活に及ぼす影響
- 第14回 環境の力
- 第15回 生活を続ける

【授業実施方法】

講義形式で行う。

【授業準備】

講義内容をしっかり理解し、予習ではなく復習に重点をおいて履修してください。これから行われる施設実習で軽度から重度の認知症の方と接しますので講義で学んだことを充分役立ててください

【主な関連する科目】

高齢者福祉論 地域福祉論

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 認知症の理解(第3版) 中央法規出版

【参考文献】

必要時、資料配布

【成績評価方法】

筆記試験 80%、出席状況 10%、授業態度 10%の総合評価とする

【学生へのメッセージ】

毎日、認知症専門の施設で彼らと生活を共にしている実践者の授業です。認知症の方の心身の状況について共に学び、これからの社会がどうあるべきかを考えていきましょう。積極的な授業参加を期待します。

授業科目名・形態	認知症ケア論Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	菅原 聡	開講期	2年後期	単位数	2

【授業の主題】

認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする

【到達目標】

認知症の方を中心にして支援するというパーソンセンタードケアの考え方から、認知症ケアは、個別性を重視した生活支援型ケアが主流になってきている。さらに、認知症の方を社会で支えるために、住み慣れた地域で生活をしていくというサポート体制が創られつつある。様々な生活上の生きづらさをもっておられる方々の心身の状況を学び、ご本人の権利を護り、生活支援を含めたケアのあり方を学習する。具体的にはこれから行われる施設実習時に授業で学んだことを十分活用できるようになることを目標とする

【授業計画・内容】

- 第 1 回 若年性認知症の人の生活の理解と支援
- 第 2 回 認知症の人へのかかわりの基本
- 第 3 回 認知症への気づき
- 第 4 回 認知症の人の介護過程
- 第 5 回 認知症の進行に応じた介護
- 第 6 回 人が生きることを支えるということ
- 第 7 回 地域におけるサポート体制
- 第 8 回 チームアプローチ
- 第 9 回 介護者自身の体験
- 第10回 家族へのレスパイトケア
- 第11回 家族へのエンパワメント
- 第12回 家族会と介護教室
- 第13回 認知症対策と介護保険制度
- 第14回 その他の施策
- 第15回 まとめ

【授業実施方法】

講義形式で行う。

【授業準備】

講義内容をしっかり理解し、予習ではなく復習に重点をおいて履修してください。これから行われる施設実習で軽度から重度の認知症の方と接しますので講義で学んだことを充分役立ててください

【主な関連する科目】

高齢者福祉論 地域福祉論

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 認知症の理解(第3版) 中央法規出版

【参考文献】

必要時、資料配布

【成績評価方法】

筆記試験 80%、出席状況 10%、授業態度 10%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

毎日、認知症専門の施設で彼らと生活を共にしている実践者の授業です。認知症の方の心身の状況について共に学び、これからの社会がどうあるべきかを考えていきましょう。積極的な授業参加を期待します。

授業科目名	介護過程 I	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	柴田 博	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

これまで学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスを提供できる能力を養う学習とする。「介護過程」は、利用者を主体とする生活支援活動の展開方法であり、利用者理解を図りながら、情報収集、その分析・解釈、計画の立案、実施・評価等の基本的なことを学ぶ。

介護過程の理論と実習体験を関連づけながら、展開する能力の基礎を身につける

【授業計画と内容】

- 第 1 回 介護過程の意義と目的
- 第 2 回 展開の基本視点
- 第 3 回 生活支援の考え方と介護過程の必要性
- 第 4 回 介護過程の全体像
- 第 5 回 アセスメント捉え方
- 第 6 回 情報の収集
- 第 7 回 情報の解釈・関連づけ・統合化
- 第 8 回 生活支援の課題・目標の捉え方
- 第 9 回 個別援助計画とは
- 第 10 回 目標の設定
- 第 11 回 具体的な支援内容・方法の決定
- 第 12 回 実施状況の把握、実施の記録
- 第 13 回 評価の意義と目的
- 第 14 回 評価の内容・方法・留意点
- 第 15 回 個別援助計画の立案

【授業実施方法】

講義・演習

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『第9巻 介護過程』中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料を配布

【成績評価方法】

レポート内容等 100%

【主な関連する科目】

「介護総合演習」

【学生へのメッセージ】

どのような支援が求められるのかを思考して欲しい。

授業科目名	介護過程Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	柴田 博	開講期	2年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

ここでは、事例を用いて介護過程の実際について学習する。事例を用いて介護過程を学ぶ目的は、アセスメントから評価までの一連の思考過程を追体験することにある。同じ課題を抱えた利用者でも専門職のかかわり方で、全く違う効果が得られることを学習する。尊厳の確立や自立へ向けた援助を基本に、本人やその家族のニーズに照らした介護過程の展開ができる力量を身につける。また、授業で学んだことを介護実習の中の介護過程にも結びつけていく。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 介護過程の意義、目的・目標
- 第 2 回 介護過程の展開（アセスメント）の仕方
- 第 3 回 高齢者における計画、実施、評価の特徴
- 第 4 回 ICFを取り入れた介護過程の展開方法（1）
- 第 5 回 ICFを取り入れた介護過程の展開方法（2）
- 第 6 回 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開（1）
- 第 7 回 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開（2）
- 第 8 回 介護過程の展開（情報収集）
- 第 9 回 介護過程の展開（情報分析）
- 第 10 回 介護過程の展開（介護計画）
- 第 11 回 個々人の介護計画をグループで討議
- 第 12 回 グループでのケアプラン作り
- 第 13 回 各グループの発表、質疑応答（1）
- 第 14 回 各グループの発表、質疑応答（2）
- 第 15 回 各グループの発表、質疑応答（3）

【授業実施方法】

講義・演習

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『第9巻 介護過程』中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料を配布

【成績評価方法】

レポート内容 100%

【主な関連する科目】

「介護総合演習」

【学生へのメッセージ】

事例から、どのような支援が求められるのかを思考して欲しい。

授業科目名・形態	介護過程Ⅲ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	林 宏 二	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

ここでは、事例を用いて介護過程の実際について学習する。事例を用いて介護過程を学ぶ目的は、アセスメントから評価までの一連の思考過程を体験することにある。同じ課題を抱えた利用者でも専門職のかかわり方で、全く違う効果が得られることを学習する。尊厳の確立や自立へ向けた援助を基本に、本人やその家族のニーズに照らした介護過程の展開ができる力量を身につける。また講義で学んだことを介護実習の中の介護過程にも結びつけていく。

【到達目標】

- 1) 介護過程とケアマネジメントの関係性を理解する。
- 2) チームアプローチにおける介護福祉士の役割について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1回 介護過程の意義, 目的・目標
- 第 2回 介護過程の展開の仕方: アセスメント
- 第 3回 介護過程の展開の仕方: 計画の立案
- 第 4回 介護過程の展開の仕方: 演習①
- 第 5回 介護過程の展開の仕方: 演習②
- 第 6回 介護過程とケアマネジメントの関係性
- 第 7回 チームアプローチにおける介護福祉士の役割
- 第 8回 ICFを取り入れた介護過程の展開方法①
- 第 9回 ICFを取り入れた介護過程の展開方法②
- 第10回 ICFを取り入れた介護過程の展開方法③
- 第11回 ICFを取り入れた介護過程の展開方法④
- 第12回 介護過程とチームアプローチ: 「事例」に基づいた介護過程の展開 (情報収集・分析)
- 第13回 介護過程とチームアプローチ: 「事例」に基づいた介護過程の展開 (介護計画)
- 第14回 各々の介護計画をグループで討議
- 第15回 各グループの発表, 質疑応答

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

あらかじめ事例等をよく読み, どのような支援が必要なのか考えておくこと

【主な関連する科目】

介護総合演習, 介護の基本

【教科書等】

介護過程 (新・介護福祉士養成講座9 中央法規)

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

出席状況 (10%), 小テスト (10%), 小レポート (10%) 定期試験 (70%) による総合判定。

【学生へのメッセージ】

介護過程に関する知識をよく理解し, 介護実習Ⅱで実践できるようにしてほしい。

授業科目名・形態	介護過程Ⅳ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	林 宏 二	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

ケアマネジメントは、高齢になったり障害があることによって地域生活における自立した生活が困難になったとしても、医療・保健・福祉などのさまざまな社会サービスを利用することで、「その人らしい生活」の継続ができるように支援する仕組みである。ここでは、ケアマネジメントの構成要素等について学ぶとともにチームアプローチの必要性・重要性について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 他の科目で学習した知識や技術を結合して、介護過程を展開し、介護計画を立案して適切な介護サービスの提供ができる能力を養うことを目的とする。
- 2) 在宅及び施設において、あらゆる事例に対応できるような実践力を身につける。

【授業計画・内容】

- 第 1回 介護過程の実践的展開
- 第 2回 入所施設における介護過程の展開：情報収集とアセスメント①
- 第 3回 入所施設における介護過程の展開：情報収集とアセスメント②
- 第 4回 入所施設における介護過程の展開：生活支援の課題と目標のとらえ方①
- 第 5回 入所施設における介護過程の展開：生活支援の課題と目標のとらえ方②
- 第 6回 入所施設における介護過程の展開：計画の立案①
- 第 7回 入所施設における介護過程の展開：計画の立案②
- 第 8回 入所施設における介護過程の展開：介護過程の発表・役割演技①
- 第 9回 入所施設における介護過程の展開：介護過程の発表・役割演技②
- 第10回 「事例」に基づいた介護過程の展開①
- 第11回 「事例」に基づいた介護過程の展開②
- 第12回 介護計画作成のプロセス①（計画）
- 第13回 介護計画作成のプロセス②（実施・評価）
- 第14回 介護計画作成のプロセス③（ケアカンファレンス）
- 第15回 各グループの発表、質疑応答

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

あらかじめ事例等をよく読み、どのような支援が必要なのか考えておくこと

【主な関連する科目】

介護総合演習、介護の基本

【教科書等】

介護過程（新・介護福祉士養成講座9 中央法規）

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

出席状況（10%）、演習への取り組み（10%）、レポート（80%）による総合判定。

【学生へのメッセージ】

事例から、どのような支援が求められるのかを思考し、介護実習Ⅱで実践できるようにしてほしい。

授業科目名・形態	介護過程Ⅴ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	林 宏 二	開講期	3年前期	単位数	2

【授業の主題】

介護過程Ⅲ・Ⅳ及び他の科目で学習した知識や技術を結合して、介護過程を展開し、介護計画を立案した適切な介護サービスの提供ができる能力を養うことを目的とする。ケアマネジメントは、地域生活における自立した生活が困難になったとしても、医療・保健・福祉などのさまざまな社会サービスを利用することで、「その人らしい生活」の継続ができるように支援する仕組みである。ここでは、介護過程とケアマネジメントの関係性、利用者の生活と介護過程の展開について学ぶとともにチームアプローチの必要性・重要性について学習する。

【到達目標】

- 1) 実践的で介護過程を展開し、介護計画を立案して適切な介護サービスの提供できるようになる。
- 2) チームアプローチの必要性・重要性が理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 介護過程とチームアプローチ①ケースカンファレンス
- 第 2回 介護過程とチームアプローチ②介護過程とケアプラン
- 第 3回 介護過程とチームアプローチ③他職種との連携介護過程の意義・目的・目標
- 第 4回 チームアプローチの実際
- 第 5回 情報収集とアセスメント
- 第 6回 生活支援の課題と目標のとらえ方
- 第 7回 介護計画作成のプロセス（計画・実施・評価）①
- 第 8回 介護計画作成のプロセス（計画・実施・評価）①
- 第 9回 入所施設における介護過程の展開と実際
- 第10回 在宅における介護過程の展開と実際
- 第11回 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開①
- 第12回 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開②
- 第13回 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開③
- 第14回 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開④
- 第15回 講義のまとめ

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

あらかじめ事例等をよく読み、どのような支援が必要なのか考えておくこと

【主な関連する科目】

介護総合演習、介護の基本

【教科書等】

介護過程（新・介護福祉士養成講座9 中央法規）

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

出席状況（10%）、演習への取り組み（10%）、レポート験（80%）による総合判定。

【学生へのメッセージ】

ケアマネジメントにおけるチームアプローチについて思考してほしい。

授業科目名・形態	医療的ケア I	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	今野 修	開講期	2 年前期	単位数	2

【授業の主題】

本授業では、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術の習得を目的とする。授業の概要については、医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行なえるための知識と技術を学習する。また、その実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時への対応、清潔行為・感染予防・滅菌消毒等についても学ぶ。

【到達目標】

- 1) 医療的ケアに関する基礎的知識を理解することができる。
- 2) 医療的ケアの実施に伴い必要となる基礎的知識および技術を理解することができる。
- 3) 喀痰吸引の実施に必要な基礎的知識を理解することができる。

【授業計画・内容】

第1回	医療的ケアとは何か、チーム医療と医療的ケア	第11回	呼吸器系の構造と機能、痰生成
第2回	医療職との連携と関連する法、関連職種について	第12回	呼吸の変化と観察、喀痰の変化
第3回	人間と社会(介護職と倫理、利用者や家族の理解)	第13回	喀痰の吸引とは、人工呼吸器と吸引、小児の吸引
第4回	健康状態の把握	第14回	吸引前後の安全と急変時の対応
第5回	バイタルサインの観察と測定方法	第15回	吸引を受ける利用者や家族への説明と同意、記録・報告
第6回	急変状態について	第16回	喀痰吸引で用いる器具・器材とその仕組み、清潔の保持
第7回	急変状態への対応と救急蘇生法①	第17回	喀痰吸引にともなうケア
第8回	急変状態への対応と救急蘇生法②		
第9回	感染予防の基本と予防対策		
第10回	療養環境の清潔、滅菌と消毒		

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

次回の授業内容については予告するので、次回までに教科書等で予習してくる。

【主な関連する科目】

日常生活支援技術 I - 1、日常生活支援技術 I - 2

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア第3版、中央法規出版、2016.2

【参考文献】

1 年次の医学一般で使用した教科書および資料

【成績評価方法】

筆記試験(80%)、授業態度・出席状況(20%)等による総合的評価

★尚、筆記試験については、厚生労働省「喀痰吸引等研修実施要綱(2012.3)」の筆記試験に関する規定に準じた試験で評価し、筆記試験の合格者(総正解率9割以上)のみが演習に進めるものとする。

【学生へのメッセージ】

喀痰吸引および経管栄養は、人間の生命に欠かせない呼吸と食のニーズを守るための重要な医療行為です。安全な医療行為を看護職と連携して実施していくためには、医療的ケア実施の根拠を確実に理解する必要があります。そのためにも、予習・復習に十分に努めてもらいたいと思います。

授業科目名・形態	医療的ケアⅡ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	今野 修	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

本授業では、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術の習得を目的とする。授業の概要については、医療的ケアⅠで学んだ基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行なえるための知識と技術を学習する。

【到達目標】

- 1) 喀痰吸引の実施手順と留意点を理解することができる。
- 2) 経管栄養の実施に必要な基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる。

【授業計画・内容】

第1回	口腔内吸引の実施手順と留意点	第11回	経管栄養で用いる器具・器材とその仕組み、清潔の保持
第2回	鼻腔内吸引の実施手順と留意点	第12回	経管栄養に必要なケア
第3回	気管カニューレ内部吸引の実施手順と留意点①	第13回	胃ろうによる経管栄養の実施手順と留意点①
第4回	気管カニューレ内部吸引の実施手順と留意点②	第14回	胃ろうによる経管栄養の実施手順と留意点②
第5回	喀痰吸引の実施手順と留意点のまとめ	第15回	胃ろうによる経管栄養の実施手順と留意点③
第6回	消化器系の構造と機能	第16回	経鼻による経管栄養の実施手順と留意点①
第7回	経管栄養とは、小児の経管栄養	第17回	経鼻による経管栄養の実施手順と留意点②
第8回	経管栄養前後の安全と急変時の対応		
第9回	経管栄養を受ける利用者と家族への説明と同意、記録・報告①		
第10回	経管栄養を受ける利用者と家族への説明と同意、記録・報告②		

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

次回の授業内容については予告するので、次回までに教科書等で予習してくる。

【主な関連する科目】

医療的ケアⅠ、日常生活支援技術Ⅰ-1、日常生活支援技術Ⅰ-2

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア第3版、中央法規出版、2016.2

【参考文献】

1年次の医学一般で使用した教科書および資料

【成績評価方法】

筆記試験(80%)、授業態度・出席状況(20%)等による総合的評価

★尚、筆記試験については、厚生労働省「喀痰吸引等研修実施要綱(2012.3)」の筆記試験に関する規定に準じた試験で評価し、筆記試験の合格者(総正解率9割以上)のみが演習に進めるものとする。

【学生へのメッセージ】

医療的ケアの実施に伴うリスクを予測しながら確実に安全な実施手順を習得して行ってください。そのためにも、予習・復習に十分に努めてもらいたいと思います。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	白男川 尚・石岡 和志	開講期	2年前期	単位数	1

【授業の主題】

ソーシャルワークでは、ソーシャルワーカー自身が、援助者として利用者の問題解決を図るための道具として活用される側面がある。そのためソーシャルワーカーは、利用者をより深く理解することに加えて、援助者として関わる自分自身についての理解も求められる。そこで本演習では、ソーシャルワーカーとして自己覚知を行うと共に、基本的なコミュニケーション技術や面接技術を体験的に学ぶ。

【到達目標】

本演習では、自己覚知と利用者理解について習得し、また、相談援助実習を行う際に必要となる基本的な面接技術を身につけることを最終到達目標とする。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーションとグループ決め
- 第 2回 基本的なコミュニケーション技術の習得体験学習
- 第 3回 自己覚知①個人作業自分自身のことに・ついて考え、記録用紙に記入する
- 第 4回 自己覚知②上記の結果に・ついてグループ討論
- 第 5回 価値観と他者理解
- 第 6回 聴くことと話すこと
- 第 7回 面接技術①（姿勢・態度・距離）
- 第 8回 面接技術②（視線・表情・反応）
- 第 9回 模擬面接のロールプレイ①
- 第 10回 模擬面接のロールプレイ②
- 第 11回 ジェノグラム・エコマップの記入法
- 第 12回 観察と記録
- 第 13回 ソーシャルワーカーの倫理とディレンマ
- 第 14回 苦情解決の対応法
- 第 15回 演習のまとめ～学習成果の振り返り～

【授業実施方法】 基本的には演習形式で行う。

【授業準備】 演習内容を踏まえ復習を中心に行うこと。

【主な関連する科目】 「ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅵ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」

【教科書等】 日本社会福祉士養成校協会「社会福祉士相談援助演習」中央法規出版

【参考文献】 その都度紹介する。

【成績評価方法】 課題提出 20%、授業態度・出席状況 80%より総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

演習による科目のため必ず出席すること。また、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする参加型授業形態なので積極性を発揮してもらいたい。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	白男川 尚・脇山 園恵	開講期	2年前期	単位数	1

【授業の主題】

ソーシャルワーカーとしての基本的価値観・知識・技術を、演習という形態を通して習得する。また、在宅福祉サービスの利用を望む相談の受付から支援計画の立案、サービスの実施とモニタリング作業、再アセスメントと事後評価、サービス開発までの一連の流れを体系的に学び、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し習得する。

【到達目標】

- 1) 演習を通じて「相談援助技術」に関する講義の内容をより深く理解し、身につけること。
- 2) 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養うこと。
- 3) 実習で体験したコミュニケーション場面と関連づけながら、事例検討により個人や家族、小グループへの基礎的な援助の技法を身につけることである。社会保障の概念や対象及びその理念を理解すること。

【授業計画・内容】

- 第1回 プレーンストーミング法による意見交換 テーマ「バイスティック7原則について」
- 第2回 事例によるソーシャルワーク実践 援助の開始期 インテーク面接の進め方
- 第3回 事例によるソーシャルワーク実践 援助の開始期 インテークから信頼関係の樹立まで
- 第4回 事例によるソーシャルワーク実践 援助の開始期 問題把握からニーズの確定まで
- 第5回 事例によるソーシャルワーク実践
アセスメント～情報収集後の分析、利用者と環境の相互関係の調整～
- 第6回 事例によるソーシャルワーク実践
支援目標の設定 ～アセスメントから支援目標の設定まで～
- 第7回 事例によるソーシャルワーク実践 支援プログラム作成 支援プログラムの模擬作成
- 第8回 事例によるソーシャルワーク実践 ケア会議の進行とウィークリープラン
- 第9回 事例によるソーシャルワーク実践 記録の重要性
- 第10回 事例によるソーシャルワーク実践 モニタリング モニタリングのロールプレイ
- 第11回 事例によるソーシャルワーク実践 モニタリングと評価
- 第12回 事例によるソーシャルワーク実践 再アセスメントと支援強化や変更
- 第13回 事例によるソーシャルワーク実践 事後評価 支援強化や変更後についても考える
- 第14回 事例によるソーシャルワーク実践 地域課題の普遍化とサービス開発の視点
- 第15回 演習で学んだ成果のふりかえり(シェアリング)

【授業実施方法】 基本的には演習形式で行う。

【授業準備】 演習内容を踏まえ復習を中心に行うこと。

【主な関連する科目】 「ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅵ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」

【教科書等】 日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士相談援助演習』中央法規出版

【参考文献】 その都度紹介する。

【成績評価方法】 課題提出 20%、授業態度・出席状況 80%より総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする参加型授業形態なので積極性を発揮してもらいたい。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	白男川 尚・石岡和志	開講期	3年前期	単位数	1

【授業の主題】

人権尊重、権利擁護、自立支援などについて理解を深め、演習を通じて援助活動の実践に必要な知識と技術を習得することを目標にする。上記の目標達成のため、①相談援助の詳細についてロールプレイング、②ケースカンファレンス・コンサルテーション・スーパービジョンの実践技法、③認知症高齢者の援助、知的障害者の自己決定などソーシャルワークの特徴的事例を教材に、援助の組み立て方を実践的に学ぶことにする。

【到達目標】

ソーシャルワーク演習Ⅰで学んだことを進化させ、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等に総合的に対応できる能力を習得してもらう。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション・グループ分け 人権尊重をテーマに討論する
- 第2回 病院から在宅への退院援助事例を用いた相談援助の詳細についてのロールプレイング
- 第3回 前回のロールプレイングのふりかえりを行いながら情報を整理する
- 第4回 認知症高齢者の援助事例を用いた事例検討 ～ケアプランの模擬作成～
- 第5回 認知症高齢者の援助事例を用いた事例検討 ～ケアプランの説明場面～
- 第6回 知的障害者の援助事例を用いた事例検討 ～自立支援法の制度とサービス利用～
- 第7回 知的障害者の援助事例を用いた事例検討 ～前回作成した援助計画の説明場面～
- 第8回 児童虐待への援助事例を用いた事例検討 ～アセスメント～
- 第9回 児童虐待への援助事例を用いた事例検討 ～アセスメント票を用いたグループ討論～
- 第10回 判断能力の低下したサービス利用者の自己決定、権利擁護についてのグループ討論
- 第11回 グループ討論結果を報告し、全体で討論する
- 第12回 ケースカンファレンス場面のロールプレイ
- 第13回 コンサルテーション場面のロールプレイ
- 第14回 スーパービジョン場面のロールプレイ
- 第15回 演習のまとめ ～学習成果のふりかえり～

【授演習業実施方法】

演習

【授業準備】

教科書をよく読んでください。

【主な関連する科目】

出席状況、レポート・ロールプレイ等への参加態度により総合的に評価する。

【教科書等】

日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士相談援助演習』中央法規出版

【参考文献】

その都度紹介する。

【成績評価方法】

課題提出 20%、授業態度・出席状況 80%より総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする参加型授業形態なので積極性を発揮してもらいたい。

授業科目名・形態	介護総合演習Ⅰ	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤久・柴田博・関口麗子・石岡和志	開講期	2年前期	単位数 1

【授業の主題】

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。実習の意義や目的などを踏まえて、実習の心得、実習記録の書き方など実習に向けた基本的な準備を行う。介護実習Ⅰに出る前の演習であり、訪問介護やデイサービス、小規模多機能型居宅介護等サービスなど、居宅型サービスについて学習する。また、介護の専門性の考察、介護支援技術の確認なども行う。

【到達目標】

- 1) 「介護実習」への動機付けを促進させる。
- 2) 学生が介護に興味や関心を持ち、実践したいという気持ちになること。
- 3) 実習記録の書き方を習得する。

【授業計画・内容】

- 第1回 介護実習の意義と目的（工藤）
- 第2回 介護実習と専門科目との関連（柴田）
- 第3回 実習施設についての理解（障害者支援施設）（柴田）
- 第4回 実習施設についての理解（重症心身障害児施設・救護施設）（関口）
- 第5回 老人居宅生活支援事業・老人デイサービスについての理解（石岡）
- 第6回 実習の心得（石岡）
- 第7回 介護実習前の介護技術の確認（関口）
- 第8回 専門職に求められる福祉の理念、職業倫理について（工藤）
- 第9回 実習記録の書き方（本学様式）①（柴田）
- 第10回 実習記録の書き方（本学様式）②（石岡）
- 第11回 各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第12回 各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第13回 各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第14回 各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第15回 介護実習Ⅰに関する諸注意事項の確認と実習最終準備作業（担当教員全員）

【授業実施方法】

演習形式で行う。

【授業準備】

特に認知症のグループホームやデイサービスなど通所介護については事前学習しておくこと。

【主な関連する科目】 介護過程、介護の基本、高齢者福祉論、障害者福祉論、認知症ケア論

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『第10巻 介護総合演習・介護実習』（第3版） 中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料を配付する。

【成績評価方法】

レポート等の提出物 50%、授業内での発表 40%、平常点 10%の総合判定とする。

【学生へのメッセージ】

実習施設の概要などを主体的に調べ、介護実習が実りあるものとなるよう積極的な授業参加を期待する。

授業科目名・形態	介護総合演習Ⅱ	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤久・柴田博・関口麗子・石岡和志	開講期	2年後期	単位数 1

【授業の主題】

介護実習Ⅰの後に行われる演習であり、介護実習Ⅰの振り返りを行う。また、訪問介護や小規模多機能型居宅介護等サービスなど、居宅型サービスや介護の専門性の考察、介護支援技術の確認なども行う。また、次の介護実習Ⅱの実習計画についての事前指導も行う。

【到達目標】

- 1) 居宅型サービスについて理解する。
- 2) 利用者によくみられる疾患を理解する。
- 3) 実習にICFをどのように導入するか考察できるようにする。

【授業計画・内容】

- 第1回 介護実習Ⅰの振り返り・介護福祉実習の分類、方法（工藤）
- 第2回 介護実習Ⅰの振り返り・実習施設の理解（特別養護老人ホーム・介護老人保健施設）（石岡）
- 第3回 介護実習Ⅰの振り返り・実習施設の理解（障害児施設・障害者支援施設）（柴田）
- 第4回 介護実習Ⅰの振り返り・居宅型サービスの理解（訪問介護事業所）（関口）
- 第5回 介護実習Ⅰの振り返り・居宅型サービスの理解（小規模多機能型居宅介護等サービス）（石岡）
- 第6回 介護の専門性（工藤）
- 第7回 介護実習前の介護技術の確認（工藤）
- 第8回 利用者に多い疾患について（石岡）
- 第9回 ICFについて（柴田）
- 第10回 実習記録事例演習（関口）
- 第11回 各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第12回 各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第13回 各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第14回 各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第15回 介護実習Ⅱに関する諸注意事項の確認と実習最終準備作業（担当教員全員）

【授業実施方法】

演習形式で行う。

【授業準備】

介護実習Ⅰで関わった利用者のアセスメント内容を整理しておくこと。

【主な関連する科目】 介護過程、介護の基本、高齢者福祉論、障害者福祉論、認知症ケア論

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『第10巻 介護総合演習・介護実習』（第3版）中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料を配付する。

【成績評価方法】

レポート等の提出物 50%、授業内での発表 40%、平常点 10%の総合判定とする。

【学生へのメッセージ】

介護実習Ⅰで関わった利用者のアセスメント内容整理において重要となるICF（国際生活機能分類）の考え方を復習しておいてください。

授業科目名・形態	介護総合演習Ⅲ	演習	必修・選択の別		選択
担当者氏名	工藤 久・柴田 博・関口麗子・石岡 和志	開講期	3年前期	単位数	1

【授業の主題】

介護実習Ⅱ終了後の各自の振り返りを中心に授業を行う。各自の課題、それについての解決策を探る。また、今後の介護実習Ⅲで行われる個別援助計画についてICFを参考にして理解する。

【到達目標】

- 1) 介護実習Ⅱについての課題の解決策を考察できる。
- 2) 介護実習Ⅲで行われる介護過程実施の基礎知識を得る。
- 3) 介護計画のアセスメント・計画の立案・実施・評価の過程を実践できるようになる。

【授業計画・内容】

- 第1回 介護実習Ⅱの課題のまとめ（各実習施設担当教員による）（担当教員全員）
- 第2回 介護実習Ⅱの課題について討議（各実習施設担当教員による）（担当教員全員）
- 第3回 介護実習Ⅱの課題についての解決策（各実習施設担当教員による）（担当教員全員）
- 第4回 利用者の理解（高齢者）（工藤）
- 第5回 利用者の理解（障害者）（柴田）
- 第6回 カンファレンスの進め方やグループディスカッションの方法について①（関口）
- 第7回 カンファレンスの進め方やグループディスカッションの方法について②（関口）
- 第8回 ICFを利用したアセスメント方法について（工藤）
- 第9回 事例についてICFを利用した介護計画の立案について（石岡）
- 第10回 他職種の業務や相互の連携について（関口）
- 第11回 医学的健康管理やリハビリテーションについて（石岡）
- 第12回 介護実習Ⅲのための各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第13回 介護実習Ⅲのための各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第14回 介護実習Ⅲのための各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）（担当教員全員）
- 第15回 介護実習Ⅲに関する諸注意事項の確認と実習最終準備作業（担当教員全員）

【授業実施方法】

演習形式で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】 介護過程、介護の基本、高齢者福祉論、障害者福祉論、認知症ケア論

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『第10巻 介護総合演習・介護実習第2版』中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料を配付する。

【成績評価方法】

レポート等の提出物 50%、授業内での発表 40%、平常点 10%の総合判定とする。

【学生へのメッセージ】

介護実習Ⅱで関わった利用者の状況を整理し、介護実習Ⅲで行なわれる個別援助計画を意識して毎回の授業に参加してください。

授業科目名・形態	介護総合演習Ⅳ	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤 久・柴田 博・関口麗子・石岡和志	開講期	3年 後期	単位数 1

【授業の主題】

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。介護実習Ⅲ終了後の各自の振り返りを中心に授業を行う。また、介護実習の総仕上げとして、介護実習Ⅲで実施した個別援助計画を発表し、各自の介護観についても考察を深める。

【到達目標】

- 1) 介護実習Ⅲについての課題の解決策を考察できる。
- 2) 介護実習Ⅲで実施した個別援助計画について説明できる。
- 3) 各自の介護観について説明できるようになる。

【授業計画・内容】

- 第1回 介護実習Ⅲの課題のまとめ（担当教員全員）
- 第2回 介護実習Ⅲの課題について討議（担当教員全員）
- 第3回 介護実習Ⅲの課題についての解決策（担当教員全員）
- 第4回 介護実習Ⅲで実施した個別援助計画の発表と討議①（工藤）
- 第5回 介護実習Ⅲで実施した個別援助計画の発表と討議②（柴田）
- 第6回 介護実習Ⅲで実施した個別援助計画の発表と討議③（関口）
- 第7回 介護実習Ⅲで実施した個別援助計画の発表と討議④（石岡）
- 第8回 介護実習Ⅲで実施した個別援助計画の発表と討議⑤（工藤）
- 第9回 介護実習Ⅲで実施した個別援助計画の発表と討議⑥（石岡）
- 第10回 介護の総仕上げとしての各自の介護関連テーマについてのまとめ①（担当教員全員）
- 第11回 介護の総仕上げとしての各自の介護関連テーマについてのまとめ②（担当教員全員）
- 第12回 介護の総仕上げとしての各自の介護関連テーマについてのまとめ③（担当教員全員）
- 第13回 各自テーマについてのプレゼンテーション①（担当教員全員）
- 第14回 各自テーマについてのプレゼンテーション②（担当教員全員）
- 第15回 各自テーマについてのプレゼンテーション③（担当教員全員）

【授業実施方法】

演習形式で行う。

【授業準備】

介護実習Ⅰ～Ⅲまでを振り返り、各自介護実践の課題や解決策を整理しておく。

【主な関連する科目】 介護過程、介護の基本、高齢者福祉論、障害者福祉論、認知症ケア論

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『第10巻 介護総合演習・介護実習「第3版」』中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料を配付する。

【成績評価方法】

レポート等の提出物 50%、授業内での発表 40%、平常点 10%の総合判定とする。

【学生へのメッセージ】

今までの介護実習を総合的に振り返り、自分の考える介護とは何か、各自の介護に関する「介護観」を考えてみてください。

授業科目名・形態	介護実習 I	実習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤久・柴田博・石岡和志・関口麗子	開講期	2年前期	単位数 3

【授業の主題】

個々の生活リズムや個性を理解するという観点からさまざまな生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護支援技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

介護実習 I では、利用者の暮らしや住まい等の日常生活の理解や多様な介護サービスの理解できるよう、利用者の生活の場として小規模多機能型居宅事業、認知症対応型共同生活介護事業等、居宅サービスを含んださまざまな介護現場での実習とする。

また、巡回指導では人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解し、その生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性に気づけるよう指導する。

【到達目標】

- 1) 施設の運営や施設福祉と在宅福祉の連携について理解する。
- 2) 講義・演習・学内学習で学んだ知識に基づき、利用者との人間的な関わりあいを深め、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。
- 3) 日常生活援助に関する生活支援技術能力を養うことである。

【授業計画・内容】

- 1 施設・在宅福祉の機能と介護福祉士の役割を理解する。
 - 1) 施設や組織の全体的な仕組みや業務の流れを理解する。
 - 2) 介護業務の全体像を理解する。
 - 3) 施設の在宅支援について理解する。
- 2 個別介護過程展開の実際を学ぶ。
 - 1) 挨拶など実習生としての基本的な所作を確立する。
 - 2) 利用者や職員とのコミュニケーションを図る。
 - 3) 記録すべき事柄について考察を加えて記録する方法を学ぶ。
- 3 生活支援技術を習得する
 - 1) 日常生活における基本的な生活支援技術を学ぶ。
 - 2) 利用者の障害や疾病について、必要な知識を身につける。

【授業実施方法】

実習形式で行う。

【授業準備】

通所介護や認知症グループホームなどの在宅サービスについて論文や雑誌などで、できるだけ現状を把握するよう心がける。

【関連する主な科目】 介護の基本、介護総合演習、介護過程

【教科書等】

介護実習指導要領介護福祉士養成講座編集委員会編『第 10 巻介護総合演習・介護実習第 2 版』 中央法規出版

【参考文献】

泉順, 介護実習への挑戦, ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

実習記録 50%、実習内容 50%とし総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

実習開始以前に基本的な社会性を身につけ、生活リズムを調整し、明確な目的意識を持ってください。

授業科目名・形態	介護実習Ⅱ	実習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤久・柴田博・石岡和志・関口麗子	開講期	2年後期	単位数 4

【授業の主題】

個別ケアを行なうために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他の科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

介護実習Ⅱでは、個別ケアを理解するため、介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護福祉士としての一連の介護過程すべてを実践する場として、実習指導者の配置等、施設要件が満たされた施設での実習とする。また、巡回指導では、個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の場面での介護過程の展開能力が育成されるよう指導する。

【到達目標】

- 1) 施設の運営や施設福祉と在宅福祉の連携について理解するとともに、高齢者や障害のある人への援助の方法を習得する。
- 2) 講義・演習・学内学習で学んだ知識に基づき、利用者との人間的な関わりあいを深め、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。
- 3) 日常生活援助に関する生活支援技術を習得する。また、生活を拡充する住生活設備や福祉機器に関する知識と活用能力を養う。

【授業計画・内容】

- 1 施設・在宅福祉の機能と介護福祉士の役割を理解する。
 - 1) 施設や組織の全体的な仕組みや業務の流れを理解する。
 - 2) 他職種の業務や相互の連携について学習する。
 - 3) 施設の在宅支援について実践を通じて学習する。
- 2 個別介護過程展開の実際を学ぶ。
 - 1) 利用者の状況に応じた介護を実践する。
- 3 生活支援技術を習得する。
 - 1) 基礎的な部分を中心に介護業務を実践する。
 - 2) 医学的健康管理やリハビリテーションについて学習する。
 - 3) 利用者を取り巻く住生活設備や福祉機器に対する学習を深める。

【授業実施方法】

実習形式で行う。

【授業準備】

特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスについて専門書などを読んで理解を深めておく。

【関連する主な科目】 介護の基本、介護総合演習、介護過程

【教科書等】

介護実習指導要領介護福祉士養成講座編集委員会編『第10巻 介護総合演習・介護実習第2版』中央法規出版

【参考文献】

泉順, 介護実習への挑戦, ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

実習記録 50%、実習内容 50%とし総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

日々の学習目標を適切に設定し、積極的に実習に取り組んで下さい。実習期間が長いので健康の自己管理も重要になります。

授業科目名・形態	精神保健福祉制度論 I	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	古川博文・田中 誠	開講期	3 年生前期	単位数 2

【授業の主題】

本講義では精神障害者への保健的及び福祉援助活動を進めていくうえで不可欠な視点や制度について体系的に理解していくことを目的とする。同時に精神保健福祉領域の知識や技術の理解を深めること、その基盤となる援助者の基本姿勢・態度を明確にする。

【到達目標】

- 1) 精神保健福祉に関する制度を理解する。
- 2) 精神保健福祉法成立の経過と意義を理解する。
- 3) 障害者基本法と障害者総合支援法における精神障害者の福祉について学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 社会保障全体から見た精神保健に関する制度とサービス
- 第 2 回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経過
- 第 3 回 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経過
- 第 4 回 精神保健福祉法の概要①
- 第 5 回 精神保健福祉法の概要②
- 第 6 回 精神保健福祉法の概要③
- 第 7 回 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①
- 第 8 回 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②
- 第 9 回 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス③
- 第 10 回 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス④
- 第 11 回 精神障害者に関する社会保障制度①
- 第 12 回 精神障害者に関する社会保障制度②
- 第 13 回 精神障害者に関する社会保障制度③
- 第 14 回 精神障害者に関する社会保障制度④
- 第 15 回 援助にかかわる組織、団体、関係機関及び専門職や地域の支援

【授業実施方法】 講義形式

【教科書等】 「精神保健福祉に関する制度とサービス」中央法規

【参考文献】 随時、講義の中で紹介する。

【成績評価方法】 筆記試験 80%、出席数 10%、授業態度 10%、等で総合的に判断する。

【学生へのメッセージ】

本講義は精神保健福祉士受験資格習得のための指定科目である。将来、精神保健福祉士として対人援助の現場で働こうとするならばその基礎となるものである現代社会における精神保健福祉士の活躍する分野は専門的であり、その領域はさらに拡大傾向にある。

この分野を目指す学生は積極的かつ情熱的に知識の習得を目指してほしい。

授業科目名・形態	精神保健福祉制度論 II	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	古川博文	開講期	3年後期	単位数	2

【授業の主題】

本講義では、精神保健福祉士以外の資源の存在を踏まえながら、更生保護制度と医療観察法を中心に学習を行い、同時に社会資源の調整や社会調査についての理解を深める。

【到達目標】

- 1) 精神障害者に対する相談援助にかかわる組織、団体、機関および専門職や地域支援者を学ぶ。
- 2) 更生保護制度と医療観察法について理解する。
- 3) 社会資源の調整、開発にかかわる社会調査について理解する。

授業計画・内容】

- 第 1 回 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者①
- 第 2 回 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者②
- 第 3 回 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者③
- 第 4 回 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係①
- 第 5 回 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係②
- 第 6 回 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係③
- 第 7 回 医療観察法の概要と実際①
- 第 8 回 医療観察法の概要と実際②
- 第 9 回 医療観察法の概要と実際③
- 第 10 回 社会資源に関する社会調査①
- 第 11 回 社会資源に関する社会調査②
- 第 12 回 社会資源に関する社会調査③
- 第 13 回 社会資源に関する社会調査④
- 第 14 回 まとめ 精神障害者制度と福祉サービス①
- 第 15 回 まとめ 精神障害者制度と福祉サービス②

【授業実施方法】 講義形式

【授業準備】 講義内容を踏まえ復習を中心にを行い、講義中に指摘する精神障害者に関わる現代の問題について、新聞や参考書を用いて確認すること。

【教科書等】

精神保健福祉士養成校協会編 6「精神保健福祉に関する制度とサービス」中央法規

【参考文献】 田中英樹：「精神障害者の地域生活支援」中央法規、
小此木啓吾：「精神医学ハンドブック」創元社

【成績評価方法】 試験 80%、レポート等 20%

【主な関連する科目】

「精神医学」「精神保健学」「精神保健福祉援助技術各論」「精神科リハビリテーション学」

【学生へのメッセージ】

本講義は、近年、精神保健福祉士の活躍が求められている更生保護制度と医療観察法について学習を行うが、現状はさまざまな課題が生まれており、今後ますます精神保健福祉士への期待が高まっていくと考えられる。これからの支援についても考えていただきたい。

授業科目名・形態	福祉経営論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	工藤賢一	開講期	3年前期	単位数	2

【授業の主題】

福祉サービスの分野において「経営」の視点で組織、法人、マネジメントを学ぶ意義は何か。これが本講義を貫く主題となる。その理解の前提として社会福祉基礎構造改革が唱えられた時代背景や、ベースとなる「基本的人権の尊重」につき考えることが重要。同時に、民法における「権利能力」、「契約」の概念を理解することで、「福祉経営」としての学習が効果的なものとなる。

各論としては、法人の種類など福祉サービスの組織の種類と特徴の理解、経営に関する基礎理論、人事・労務等の管理マネジメント理論を学び福祉サービスの提供者として知識の習得をはかり実践力を高めることを目指す。

【到達目標】

- 1) 福祉サービスにかかわる組織、特に法人の種類と特徴について理解すること。
- 2) 集団力学、リーダーシップに関する基礎理論を学び、理解すること。
- 3) 福祉サービスの組織のマネジメント、管理運営の基礎理論と実際について学び、理解すること。

【授業計画・内容】

- 第1回 福祉サービスの組織と経営とは
- 第2回 福祉サービスにおける組織と経営①
- 第3回 福祉サービスにおける組織と経営②
- 第4回 福祉サービスにかかわる組織や団体①
- 第5回 福祉サービスにかかわる組織や団体②
- 第6回 福祉サービスの組織と経営の基礎理論
- 第7回 集団の力学/リーダーシップに関する基礎理論
- 第8回 福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理 (1)
- 第9回 福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理 (2)
- 第10回 福祉サービスの管理運営の方法②人事管理と労務管理 (1)
- 第11回 福祉サービスの管理運営の方法②人事管理と労務管理 (2)
- 第12回 福祉サービスの管理運営の方法③会計管理と財務管理 (1)
- 第13回 福祉サービスの管理運営の方法③会計管理と財務管理 (1)
- 第14回 福祉サービスの管理運営の方法③会計管理と財務管理 (2)
- 第15回 福祉サービスの管理運営の方法④情報管理と戦略的広報

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】 講義内容を踏まえた復習を行い、習得しておくこと。

【主な関連する科目】 社会福祉概論Ⅰ、福祉行財政と福祉計画、他

【教科書等】 新・社会福祉士養成講座 (11巻)『福祉サービスの組織と経営 第5版』 中央法規出版

【参考文献】 必要に応じ提示する。

【成績評価方法】

筆記試験 60%、課題レポート 30%、授業態度・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

福祉サービスを実際に提供する自身の姿をイメージしながら、主体的・積極的に授業に参加するよう望む。講義がメインとなるが、内容に応じグループワークやロールプレイ等も活用し、学生による発表の機会も設けたい。

授業科目名・形態	保健医療論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	古川博文・工藤賢一		開講期	3年前期	単位数 2

【授業の主題】

保健医療サービスは、健康増進、傷病予防、治療、看護、介護、リハビリテーションなどとこれらに関連するサービスの総称と考えられている。この領域に関する学習にあたっては、「地域包括ケアシステム」に代表されるこれからのわが国の社会保障制度の全体像及び、サービス提供する多領域の従事者が連携・協働する意義と課題についても学べるものとした。

また、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士として従事する際に必要とされる保健医療サービスの様々な制度や当該分野におけるソーシャルワークについて学ぶのも本講義の重要な課題でもあり、「連携・協働」の最新の状況を体感できるような授業構成とした。

【到達目標】

- 1) 医療・介護サービスの現状及び、診療報酬・介護報酬について学ぶこと。
- 2) 保健医療サービスにおける専門職種の連携・協働の意義について学び、考察すること。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 保健医療サービスの構成要素と整備・充実（工藤）
- 第 2 回 医療法改正と保健医療サービス・医療連携（工藤）
- 第 3 回 医療施設の役割と機能及び診療報酬 1（工藤）
- 第 4 回 医療施設の役割と機能及び診療報酬 2（工藤）
- 第 5 回 医療施設の役割と機能及び診療報酬 3（工藤）
- 第 6 回 医療保健サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 1（工藤）
- 第 7 回 医療保健サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 2（工藤）
- 第 8 回 保健医療サービスの提供と経済保障 1（工藤）
- 第 9 回 保健医療サービスの提供と経済保障 2（工藤）
- 第 10 回 介護保険法における施設等の類型と在宅支援システム（古川）
- 第 11 回 保健医療サービスの専門職の役割 1（古川）
- 第 12 回 保健医療サービスの専門職の役割 2（古川）
- 第 13 回 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践 1（古川）
- 第 14 回 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践 2（古川）
- 第 15 回 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践（古川）

【授業実施方法】

講義方式で行う。

【授業準備】

講義内容を踏まえた復習を行い、習得しておく。

【主な関連する科目】

社会保障論Ⅰ・Ⅱ、福祉行財政と福祉計画

【教科書等】

新・社会福祉士養成講座（17 巻）『保健医療サービス 第 5 版』中央法規出版

【参考文献】

必要に応じて提示する。

【成績評価方法】

筆記試験 60%、課題レポート 30%、授業態度・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

保健・医療・介護・福祉の各制度は、相互に関連しながら機能していることから、各制度に関心を持ち、制度間の関連に着目しながら主体的に学習してほしい。

授業科目名・形態	福祉行財政と福祉計画	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	林 宏二	開講期	3年後期	単位数	2

【授業の主題】

福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向を示し、市町村をベースとし、行政とサービス利用者である住民及び事業者が参加して策定された計画に基づいて実施できるようになっている。このようなことから、社会福祉士にとって不可欠な事項となっている、福祉行財政の実施体制や動向とその実際及び福祉計画の意義や目的、主体と方法、留意点についての理解を深めていく。

【到達目標】

福祉行財政の実施体制や動向とその実際及び福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点についての理解を基本的な目標とする。

【授業計画・内容】

- 第 1回 福祉の法制度、福祉計画の概要
- 第 2回 行政、社会福祉と法制度
- 第 3回 福祉行政の組織、社会福祉基礎構造改革
- 第 4回 財政と社会福祉、民生費
- 第 5回 民間福祉事業者の財源、福祉サービス利用と費用負担
- 第 6回 サービスに関する情報提供・相談、申請と決定、契約、サービス利用までの流れ
- 第 7回 福祉行政における相談体制、専門諸機関、地域の相談システム
- 第 8回 福祉行政機関の専門職
- 第 9回 福祉計画の目的と意義
- 第 10回 福祉計画の基本的視点
- 第 11回 福祉計画の過程と留意点
- 第 12回 福祉計画におけるニーズ把握、計画の評価
- 第 13回 福祉計画における住民参加
- 第 14回 福祉計画の実際①老人福祉計画、介護保険事業計画、障害者計画、障害福祉計画
- 第 15回 福祉計画の実際②次世代育成支援行動計画、地域福祉計画

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】 関連する科目の講義内容で学んだ制度を再確認しておくこと。

【主な関連する科目】 社会保障論Ⅰ・Ⅱ、権利擁護と成年後見、地方自治と財政

【教科書等】 社会福祉士養成講座編集委員会編 10「福祉行財政と福祉計画」中央法規出版
社会福祉小六法 中央法規出版

【参考文献】 必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価方法】 平常点 10%、レポート 10%、小テスト 10%、期末試験 70%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

報道等における、国・地方の福祉行財政の動向、福祉計画への取り組みに関心を持ちながら主体的に受講し、授業を欠席しないこと。また、法律的な内容も含まれることから、福祉小六法を持参すること。

授業科目名・形態	精神医学	講義	必修・選択の別		選択
担当者氏名	佐藤靖・田中真・藤枝信夫・畠山禮子	開講期	3年前・後期	単位数	4

【授業の主題】

精神保健福祉士は精神病院、精神保健福祉センター、保健所を始め、その他施設で、デイ・ケア、企業でのメンタルヘルスや医療観察法における活動など、社会における需要は増大している。

本講義では、精神医学の初歩を学習し、人権を尊重する態度など、各人の今後のソーシャルワーカー活動の礎を築くことを目標とする。

【到達目標】

- 1) 代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。
- 2) 精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。
- 3) 精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。
- 4) 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。

【授業計画・内容】

〈佐藤担当〉

第1回 精神医学概論

第2回 精神科疾患の症状と診断

第3回 代表的な精神疾患（器質性精神障害）

第4回 代表的な精神疾患（精神作用物質使用による精神および行動の障害）

第5回 代表的な精神疾患（統合失調症）

第6回 代表的な精神疾患（心理的発達障害）

〈田中担当〉

第1回 精神科の治療（精神科薬物療法）

第2回 精神科の治療（電気けいれん療法などの身体療法）

第3回 精神科の治療（精神療法）

第4回 精神科の治療（精神科リハビリテーション①）

第5回 精神科の治療（精神科リハビリテーション②）

第6回 精神科の治療（環境・社会療法）

〈藤枝担当〉

第1回 気分障害(1)

第2回 気分障害(2)

第3回 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

第4回 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群

第5回 精神遅滞および心理的発達の障害

第6回 行動および情緒の障害

〈畠山担当〉

第1回 精神障害の理解（1）

第2回 精神障害の理解（2）

第3回 パーソナリティ障害と行動の障害

第4回 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟（1）

第5回 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟（2）

第6回 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟（3）

第7回 精神科治療における人権擁護（1）

第8回 精神科治療における人権擁護（2）

第9回 精神科治療における人権擁護（3）

第10回 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性（1）

第11回 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性（2）

第12回 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性（3）

【授業実施方法】

講義形式で行う。

【授業準備】

教科書の不明な語句等は、前もって調べておくこと。

【主な関連する科目】

精神保健福祉論、精神科リハビリテーション学

【教科書等】

日本精神保健福祉士協会編 「精神疾患とその治療」中央法規出版

【参考文献】

適宜提供します。

【成績評価方法】

試験成績 90%、平常点 10%と総合的に評価する。また、試験は各教員の担当が終了する都度実施する予定である。

【学生へのメッセージ】

精神科医療、メンタルヘルスを取り巻く現状は大きな変革期にあり、ニーズも増大しつつある。このため授業で取り上げる内容はおのずと広範とならざるを得ない。授業においては真摯且つ積極的な態度で臨むことを期待する。なお、土曜日に開講する場合があるなど、変則的な日程となるので、学内掲示に十分に注意すること。

授業科目名・形態	医療的ケアⅢ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	今野修・関口麗子・小畑千春・水木暢子	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

本授業では、喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生を安全・適切に実施するために必要な技術習得を目的に、喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生の実施手順を演習を通して学習する。

【到達目標】

評価表項目全てにおいて、シミュレータを用いて効果的に手順通りに実施できる。

【授業計画・内容】

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 第1回 喀痰吸引演習ガイダンス、
実施手順と留意点の振り返り(今野) | 第9回 経管栄養演習ガイダンス、
実施手順と留意点の振り返り(今野) |
| 第2回 喀痰吸引演習(今野・関口・小畑・水木) | 第10回 経管栄養演習(今野・関口・小畑・水木) |
| 第3回 喀痰吸引演習(今野・関口・小畑・水木) | 第11回 経管栄養演習(今野・関口・小畑・水木) |
| 第4回 喀痰吸引演習(今野・関口・小畑・水木) | 第12回 経管栄養演習(今野・関口・小畑・水木) |
| 第5回 喀痰吸引演習(今野・関口・小畑・水木) | 第13回 経管栄養演習(今野・関口・小畑・水木) |
| 第6回 喀痰吸引演習(今野・関口・小畑・水木) | 第14回 経管栄養演習(今野・関口・小畑・水木) |
| 第7回 喀痰吸引演習(今野・関口・小畑・水木) | 第15回 救急蘇生法演習(今野) |
| 第8回 喀痰吸引演習(今野・関口・小畑・水木) | |

★演習に進める要件は、医療的ケアⅠおよび医療的ケアⅡの筆記試験の合格者である。

★演習では、厚生労働省「喀痰吸引等研修実施要綱(2012.3)」に定める「基本研修(演習)の評価基準」に準じた1項目につき1人5回以上の実施を行なう。

★演習では、1項目につき1人5回以上の実施が予定回数内でできなかった場合には補習を行う。

【授業実施方法】

講義および演習

【授業準備】

本演習前に自己評価表を用いて最低2回以上は練習をしておく。

【主な関連する科目】

医療的ケアⅠ・Ⅱ、医学一般、日常生活支援技術Ⅰ-1、日常生活支援技術Ⅰ-2

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア第3版、中央法規出版、2016.2

【参考文献】

介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト第3版、中央法規出版。2015.9

【成績評価方法】

技術の達成状況(80%)、演習態度・出席状況(20%)等による総合的評価

★演習では、厚生労働省「喀痰吸引等研修実施要綱(2012.3)」に定める「基本研修(演習)の評価基準」に沿って、演習シミュレータを用いて効果的に一人で実施できるまでを到達目標として評価する。

【学生へのメッセージ】

確実な実施手順の習得のためにも、繰り返しの練習に努めてください。また、演習を通して、看護職とどのように協働していくべきかについても学んでいてもらいたいと思います。

授業科目名・形態	精神保健の課題と支援 I	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	田中 誠	開講期	3年前期	単位 2

【授業の主題】

精神保健では様々なことを学習する。それは精神保健の基本的な知識、ライフサイクルにおける精神保健、精神保健における個別課題への取り組み地域精神保健と地域保健、諸外国における精神保健、関連法規及び施設などが含まれる。受講生は1年かけて精神保健の幅広い取り組みを知り、そこ奥の深さを知ってほしい。

【到達目標】

- 1) 精神保健の重要性と健康や精神保健の定義等についての基本的な考え方を学ぶ
- 2) 現代社会におけるライフサイクルの意味と各ライフステージに関連した精神の問題、現代社会におけるストレスをめぐる問題、生活習慣の変化が身体と精神に及ぼす影響などを理解する。
- 3) 上記の問題に取り組む精神保健福祉士の役割について学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第1回 精神保健の概要
- 第2回 精神保健の意義と課題
- 第3回 精神の健康とその要因①
- 第4回 精神の健康とその要因②
- 第5回 精神の健康とその要因③
- 第6回 精神の健康への関与と支援①
- 第7回 精神の健康への関与と支援②
- 第8回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ①
- 第9回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ②
- 第10回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ③
- 第11回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①
- 第12回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②
- 第13回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①
- 第14回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②
- 第15回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ③

【授業実施方法】 基本的には講義形式に行う。

【教科書等】 「精神保健の課題と支援」 中央法規出版

【参考文献】 随時講義の中で紹介する。

【成績評価方法】 筆記試験 80%、出席数 10%、授業態度 10%等で総合的に判断する。

【学生へのメッセージ】

本講義は社会福祉専門職の視座や役割、行動規範を学習し、今後の講義や演習の基礎となる講義である。積極的かつ情熱的に知識を習得してほしい。

授業科目・形態	精神保健の課題と支援Ⅱ	講義	必修選択の別	選択
担当者氏名	田中 誠	開講期	3年後期	単位数 2

【授業の主題】

精神保健では様々なことを学習する。精神保健の基礎知識、ライフサイクルにおける精神保健、精神保健における個別課題への取り組み、地域精神保健と地域保健、諸外国における精神保健、関連法規及び施設が含まれる。受講生は、1年かけて精神保健学の幅広い取り組みを知り、その奥の深さを学んでほしい。

【到達目標】

- 1) 精神保健の重要性と健康や精神保健の定義等についての基本的な考え方を学ぶ。
- 2) 現代社会におけるライフサイクルの意味と各ライフステージに関連した精神の健康の問題、現代社会におけるストレスをめぐる問題、生活習慣の変化が身体と精神に及ぼす影響などを理解する。
- 3) 上記の問題に取り組む精神保健福祉士の役割を学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第1回 精神保健に関する対策と精神保健福祉士に役割①
- 第2回 精神保健に関する対策と精神保健福祉士に役割②
- 第3回 精神保健に関する対策と精神保健福祉士に役割③
- 第4回 精神保健に関する対策と精神保健福祉士に役割④
- 第5回 精神保健に関する対策と精神保健福祉士に役割⑤
- 第6回 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ①
- 第7回 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ②
- 第8回 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ③
- 第9回 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ④
- 第10回 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ⑤
- 第11回 地域精神保健に関する諸活動①
- 第12回 地域精神保健に関する諸活動②
- 第13回 地域精神保健に関する諸活動③
- 第14回 諸外国における精神保健①
- 第15回 諸外国における精神保健②

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】 新聞等で福祉に関する記事を読む習慣を身につけること

【関連する科目】 「精神医学」「心理学」

【教科書】 「精神保健の課題と支援」中央法規出版

【評価方法】 筆記試験 80%、授業態度 10%、出席数 10%により総合的に判断する

【学生へのメッセージ】

本講義は社会福祉専門職の視座や役割、行動規範を学習し、今後の講義や演習の基礎となる講義である社会福祉士受験資格を目指す学生は情熱をもって知識を習得してほしい。

授業科目名・形態	精神障害者の生活支援システム	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	古川博文・田中 誠	開講期	3年生前期	単位数 2

【授業の主題】

本講義では精神障害者への保健的及び福祉援助活動を進めていくうえで不可欠な視点や制度について体系的に理解していく。同時に精神保健福祉領域の知識や技術についての理解を深めること、その基盤となる援助者の基本姿勢・態度を明確にすることも目指す。

【到達目標】

- 1) 精神障害者の概念を整理し理解する。
- 2) 精神障害者の自立と社会参加を志向して、地域生活支援システムを構築する。
- 3) 精神障害者の雇用・就業支援を理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 精神障害者の概念①
- 第 2 回 精神障害者の概念②
- 第 3 回 精神障害者の生活の実際①
- 第 4 回 精神障害者の生活の実際②
- 第 5 回 精神障害者の生活の実際③
- 第 6 回 精神障害者の生活と人権①
- 第 7 回 精神障害者の生活と人権②
- 第 8 回 精神障害の地域生活支援システム①
- 第 9 回 精神障害の地域生活支援システム②
- 第 10 回 精神障害の地域生活支援システム③
- 第 11 回 精神障害者の居住支援①
- 第 12 回 精神障害者の居住支援②
- 第 13 回 精神障害者の就労支援①
- 第 14 回 精神障害者の就労支援②
- 第 15 回 行政における相談

【授業実施方法】 講義形式

【教科書等】 「精神障害者の生活支援システム」中央法規

【参考文献】 随時、講義中にて紹介

【成績評価方法】 筆記試験 80%、授業態度 10%、出席数 10%等を総合して判断する。

【学生へのメッセージ】

本講義は、精神保健福祉士受験資格習得のための指定科目でもある。精神保健福祉士として対人援助の現場で働こうとするならば、その基礎となるものである。現代社会における精神保健福祉士の活躍する分野は専門的であり、その領域は今後さらに拡大する傾向にある。

この分野を志す学生は積極的かつ情熱的に知識の習得をしてほしい。

授業科目名・形態	精神保健福祉援助技術各論 I 講義	必修・選択の別	選択		
担当者氏名	古川博文	開講期	3年・前期	単位数	2

【授業の主題】

この講義は、精神保健福祉専門職としてのさまざまな援助技術の技法に関する基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 精神障害者を対象とした相談援助の歴史の変遷を我が国と海外を比較しながら理解する。
- 2) 精神保健福祉士としての支援の在り方について深く考察する。
- 3) 精神障害者支援における面接技法に関する高度専門知識を習得する。

【授業計画・内容】

- 第1回 精神保健福祉の歴史と動向①（日本）
- 第2回 精神保健福祉の歴史的動向②（世界）
- 第3回 精神障害者支援の基本
- 第4回 精神保健福祉士の精神障害者支援①
- 第5回 精神保健福祉士の精神障害者支援②
- 第6回 精神保健福祉士の精神障害者支援③
- 第7回 精神障害者の支援モデル①
- 第8回 精神障害者の支援モデル②
- 第9回 相談援助の価値前提と原則①
- 第10回 相談援助の価値前提と原則②
- 第11回 相談援助のプロセスと援助関係①
- 第12回 相談援助のプロセスと援助関係②
- 第13回 相談援助のための面接技術①
- 第14回 相談援助のための面接技術②
- 第15回 相談援助のための面接技術③

【授業実施方法】 講義形式

【授業準備】

講義中に設定したテーマに対する内容の関連情報を新聞や文献等を用いて用意すること。

【主な関連する科目】

精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉制度論Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助演習

【教科書等】

古屋龍太編 5『精神保健の理論と相談援助の展開Ⅰ』、弘文堂
坂野憲司編 6『精神保健の理論と相談援助の展開Ⅱ』、弘文堂

【参考文献】

田中英樹：「精神障害者の自立支援活動」、
F・P・バイステック：「ケースワークの原則 援助関係を形成する技法」誠信書房

【成績評価方法】

試験 80%、レポート等 20%

【学生へのメッセージ】 精神障害者支援において当事者の人権を擁護し、ニーズに対する援助活動を展開するときに必要な知識、技術論を学ぶことによって精神保健福祉士の資質を自らに宿して欲しい。

授業科目名・形態	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ 講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	石岡和志・古川博文	開講期	3年・後期 単位数 2

【授業の主題】

この講義は、精神保健福祉専門職としての基本姿勢と、精神保健福祉援助技術の専門的知識を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助と集団援助、関連機関との連携、家族との調整および家族支援を含む）の展開について理解する。
- 2) 精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。
- 3) 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢を理解し、地域相談援助における基本的な考え方について学習する。

【授業計画・内容】

- 第1回 相談援助活動の展開①
- 第2回 相談援助活動の展開②
- 第3回 相談援助活動の展開③
- 第4回 家族への支援の実際①
- 第5回 家族への支援の実際②
- 第6回 スーパービジョンとコンサルテーション①
- 第7回 スーパービジョンとコンサルテーション②
- 第8回 地域において主体的に生活すること①
- 第9回 地域において主体的に生活すること②
- 第10回 地域を基盤とした相談援助活動の意義と展開 ①
- 第11回 地域を基盤とした相談援助活動の意義と展開 ②
- 第12回 精神障害者のケアマネジメント①
- 第13回 精神障害者のケアマネジメント②
- 第14回 精神障害者のケアマネジメント③
- 第15回 地域に根ざした包括的な支援活動の必要性と今後の課題②

【授業実施方法】 講義形式

【授業準備】 講義内容を踏まえ復習を行い、講義中に指摘する精神障害者関連情報を新聞や参考書を用いて確認すること。

【主な関連する科目】「精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉制度論Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助演習」

【教科書等】 古屋龍太編 5『精神保健の理論と相談援助の展開Ⅰ』、
坂野憲司編 6『精神保健の理論と相談援助の展開Ⅱ』弘文堂

【参考文献】 田中英樹：「精神障害者の自立支援活動」中央法規、
西原理恵子：「おサケについてのまじめな話」小学館、
F・P・バイステック：「ケースワークの原則 援助関係を形成する技法」誠信書房

【成績評価方法】 試験、授業態度、レポート等を総合的に判断する。

【学生へのメッセージ】

精神障害者が地域社会の中で暮らすためには様々な課題が存在する。精神に障害をもつ当事者のニーズを理解し、精神保健福祉士の役割について深く学び理解していただくことを目的としている。

授業科目名・形態	権利擁護と成年後見	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	石岡和志	開講期	3年前期	単位数	2

【授業の主題】

相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わりについて理解する。その上で、権利擁護の様々な法制度・施策を紹介すると共に、成年後見活動に携わる社会福祉士に求められるスキルについて解説するので、理解を深めてもらいたい。

【到達目標】

- 1) 相談援助活動と日本国憲法の基本原理、民法・行政法との関わりについて理解する。
- 2) 相談援助活動において必要となる成年後見制度について理解する。
- 3) 成年後見制度の実際について理解する。
- 3) 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 相談活動と法律、憲法の理解 1
- 第 2 回 憲法の理解 2
- 第 3 回 行政法の理解 1
- 第 4 回 行政法の理解 2
- 第 5 回 民法の理解 1
- 第 6 回 民法の理解 2
- 第 7 回 民法の理解 3
- 第 8 回 民法の理解 4、社会福祉関係法の理解
- 第 9 回 成年後見の概要、保佐、補助
- 第 10 回 申し立ての流れ、任意後見制度
- 第 11 回 成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の最近の動向と課題
- 第 12 回 日常生活自立支援制度、成年後見制度利用支援事業
- 第 13 回 権利擁護にかかわる組織団体
- 第 14 回 権利擁護にかかわる専門職
- 第 15 回 成年後見活動及び権利擁護活動の実際

【授業実施方法】 講義形式

【授業準備】 講義内容を踏まえ、テキストを用いて復習を行うこと。

【主な関連する科目】 福祉行財政と福祉計画、公的扶助論、更生保護制度論

【教科書等】 社会福祉士養成講座編集委員会編 19「権利擁護と成年後見制度」中央法規出版
社会福祉小六法 中央法規出版

【参考文献】 随時紹介する

【成績評価方法】 平常点 10%、レポート 10%、小テスト 10%、期末試験 70%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【学生へのメッセージ】

法律に関連した理解が求められ、取り付きにくい面があるとは思われるが、社会福祉士として仕事を進めていく上で重要な内容である。社会的弱者を巡る様々な動きにも関心を持ちながら受講してほしい。

授業科目名・形態	更生保護制度論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	林 宏 二	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

「更生保護」とは、犯罪者の立ち直りを支援することです。社会福祉の専門職養成で、「更生保護」を学ぶ理由は、高齢者受刑者及び障害受刑者が増加していることと高齢刑余者及び障害刑余者の再犯率が高まっていることがあげられます。その具体的な取組みとして、2009年度から矯正施設に社会福祉士が配置されるようになり、また高齢刑余者及び障害刑余者の社会復帰を支援する地域生活定着促進事業（当時・地域生活定着支援事業）が施行されました。

「更生保護」の理念と仕組み等を理解することをとおして、犯罪者に対して福祉的支援をする意義について考えてほしいと思います。

【到達目標】

- 1) 更生保護の理念、仕組みについて理解する。
- 2) 仮釈放、保護観察の仕組みについて理解する。
- 3) 地域生活定着促進事業について理解する。
- 4) 医療観察法について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 更生保護制度の概要
- 第2回 更生保護の意義と歴史
- 第3回 更生保護の関係機関
- 第4回 仮釈放制度
- 第5回 更生保護事業と更生保護
- 第6回 生活環境調整と地域生活定着促進事業
- 第7回 心神喪失者等医療観察制度の概要
- 第8回 まとめ

【授業実施方法】

講義形式

【授業準備】

テキストを中心とした予習を十分に行うこと

【主な関連する科目】

精神保健福祉制度論Ⅰ・Ⅱ，障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ，高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

更生保護制度（新・社会福祉士養成講座20 中央法規）

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

出席状況（10%）小レポート（10%），定期試験（80%）で評価する。

【学生へのメッセージ】

刑事司法手続の用語が独特なので、戸惑うことが多々あると思いますが、更生保護の仕組みは非常に合理的で、併せて理念は非常に意義深いです。

本講義のなかで、ぜひとも「更生保護」の本質をつかみとってください。

授業科目名・形態	就労支援論	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	林 宏 二	開講期	4年前期	単位数 1

【授業の主題】

就労について福祉的視点から講義します。具体的には、雇用対策法で「就職が困難な者」と位置づけられている、①身体障害者、②知的障害者、③精神障害者、④刑を終えた出所者、⑤社会的事情により就職が著しく阻害されている者への就労支援についてみていきます。

以上により、就労支援における社会福祉専門職の役割について考えることが主題となります。

【到達目標】

- 1) 「働くこと」の意味を理解する。
- 2) 雇用・就労の動向と施策を理解する。
- 3) 障害者に対する就労支援について理解する。
- 4) 低所得者に対する就労支援について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 働くことの意味と社会福祉士の役割
- 第2回 雇用・就労の動向と施策（1）
- 第3回 雇用・就労の動向と施策（2）
- 第4回 障害者と就労支援（1）
- 第5回 障害者と就労支援（2）
- 第6回 低所得と就労支援（1）
- 第7回 低所得と就労支援（2）
- 第8回 まとめ

【授業実施方法】

講義形式

【授業準備】

テキストを中心とした予習を十分に行うこと。

【主な関連する科目】

公的扶助論、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

就労支援サービス（新・社会福祉士養成講座18 中央法規）

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

出席状況（10%）小レポート（10%）、定期試験（80%）で評価する。

【学生へのメッセージ】

雇用の情勢は、ここ2、3年非常に変化しています。雇用情勢の変化について、常日頃から興味をもって、情報収集してください。

また、基本的な労働に関する法制度についても興味を持つようにしてください。

授業科目名・形態	精神科リハビリテーション学 I	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	田中 誠	開講期	3 年前期	単位数 2

【授業の主題】

この講義では精神科リハビリテーションの理念や基本原理の理解を基盤にして、具体的援助におけるプロセス、技法を学んでいく。また多職種等との連携、社会資源の活用等の視野も広げていく。またこれまでの豊富な実践例をテキストの内容に当てはめ、理論の解説を講義の内容としたい。さらには国家試験を視野に入れた講義も試みたい。

【到達目標】

- 1) 精神科リハビリテーションの理念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。
- 2) 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術及び活用法について理解する。
- 3) 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワークの実際について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション（講義の内容、進め方、評価方法）
- 第 2 回 精神科リハビリテーションの概念
- 第 3 回 精神科リハビリテーションの概念
- 第 4 回 精神科リハビリテーションの基本原則
- 第 5 回 精神科リハビリテーションの意義
- 第 6 回 精神科リハビリテーションの構成
- 第 7 回 精神科リハビリテーションの構成
- 第 8 回 地域に根ざしたリハビリテーション
- 第 9 回 精神科リハビリテーションのプロセス
- 第 10 回 精神科リハビリテーションのプロセス
- 第 11 回 精神科リハビリテーションのプロセス
- 第 12 回 精神科作業療法とレクリエーション
- 第 13 回 集団精神療法
- 第 14 回 S S T（生活技能訓練）
- 第 15 回 精神科デイケア・ナイトケア

【授業実施方法】 講義形式

【教科書等】 「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ」「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」弘文堂

【参考文献】 随時、講義の中で紹介する。

【成績評価方法】 筆記試験又はレポート 80%、授業態度 10%、出席数 10%により総合的に判断する。

【学生へのメッセージ】

本講義は精神保健福祉専門職の視座、技術、行動規範を学習し、今後の講義や演習の基礎となる講義である。精神保健福祉士を目指す学生は積極的かつ情熱的に知識の習得を目指してほしい。

授業科目名・形態	精神科リハビリテーション学Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	田中 誠	開講期	3年後期	単位数
				2

【授業の主題】

この講義では精神科リハビリテーションの理念や基本原則等の理解を基盤として、具体的援助におけるプロセス、技法を学んでいく。また多職種等との連携、社会資源の活用等の視野も広げていく。またこれまでの豊富な実践例をテキストの内容に当てはめ、理論の解説を講義の内容としたい。さらには国家試験を視野に入れた講義も試みたい。

【到達目標】

- 1) 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。
- 2) 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術及び活用方法について理解する。
- 3) 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワークの実際について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1回 アウトリーチサービス
- 第 2回 家族教育プログラム
- 第 3回 精神科チーム医療の概念
- 第 4回 多職種との協働・連携の技術
- 第 5回 多職種との協働・連携の技術
- 第 6回 リハビリテーションチームにおける P S W の役割。
- 第 7回 リカバリーの展開 ピアカンセリング
- 第 8回 多文化ソーシャルワーク、アンチステグマ
- 第 9回 バイスツェクの 7 つの原則
- 第 10回 医学（治療）モデルと生活モデル及びストレングスモデル（具体的例を用いて）
- 第 11回 地域を基盤としたリハビリテーションの考え方①
- 第 12回 地域を基盤としたリハビリテーションの考え方②
- 第 13回 地域における資源の動員とネットワーキングの実際①
- 第 14回 地域における資源の動員とネットワーキングの実際②
- 第 15回 まとめ

【授業実施方法】 講義形式

【教科書等】 「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ」
「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」 弘文堂

【参考文献】 随時、講義の中で紹介する

【成績評価方法】 筆記試験又はレポート 80%、出席数 10%、授業態度 10%により総合して判断する。

【学生へのメッセージ】

本講義は精神保健福祉専門職の視座、技術、役割、行動規範を学習し、今後の講義や演習の基礎となる講義である。精神保健福祉士を目指す学生は、積極的かつ情熱的に知識の習得を目指してほしい。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅴ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	脇山園恵	開講期	3年 前期	単位数 2

【授業の主題】

ソーシャルワーカーは社会の中で生きる個人を支援している。ソーシャルワーカーが支援する対象は個人であり、地域社会でもある。本講では、個人を取り巻く集団及び社会資源を活用した相談援助の展開及びその技術について学習する。

【到達目標】

- 1) 集団を活用したソーシャルワークの基本について、社会資源活用のための視点、技術と方法から理解できる。
- 2) さまざまな技術や方法を駆使したソーシャルワーク実践の実際について、具体的な事例に基づいて理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 相談援助における対象の理解
- 第 3回 相談援助のためのアウトリーチの技術
- 第 4回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）①
- 第 5回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）②
- 第 6回 グループを活用した相談援助①（グループワークの意義と展開過程）
- 第 7回 グループを活用した相談援助②（自助グループ／サポートグループ／結成への支援と連携）
- 第 8回 コーディネーションとネットワーキング①（コーディネート）
- 第 9回 コーディネーションとネットワーキング②（ネットワーキング）
- 第 10回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発①（意義と目的／調整・開発の方法と留意点）
- 第 11回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発②（ソーシャルアクション）
- 第 12回 スーパービジョンとコンサルテーションの技術①（スーパービジョン）
- 第 13回 スーパービジョンとコンサルテーションの技術②（コンサルテーション）
- 第 14回 ケースカンファレンスの技術①（ケースカンファレンスの意義と目的／運営と展開過程）
- 第 15回 ケースカンファレンスの技術②（ケースカンファレンスの実際／評価と普遍化）

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞などで報じられる社会福祉に関する問題に関心を持ち、それらの問題と地域社会との関係について確認すること。

【教科書等】

- ・社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規出版。
- ・社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規出版。

【参考文献】

- ・佐藤信人『ケアプラン作成の基本的考え方』中央法規出版。
- ・生活アセスメント研究会『福祉・介護に求められる生活アセスメント』中央法規出版。 など

【成績評価方法】

平常点 10%、中間レポート 40%、期末試験（筆記） 50%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【主な関連する科目】

高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅱ～Ⅵ、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴなど

【学生へのメッセージ】

各関係者がどのような取り組みを展開しているか、社会的な関心を持ちながら予習・復習をし、地域生活を支えるための社会資源について学びを深めてください。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅵ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	白男川 尚	開講期	3年後期	単位数 2

【授業の主題】

相談援助に活用される様々な技術とその実際を学習することを目的とする。特に、様々な事例における相談援助の実際について、個人情報保護やIT危機の活用を含めた実践的な知識の獲得を目指す。

【達成目標】

様々な事具体的な課題別の相談援助実際について分析を行い、それらの事例に関する相談援助の実際を理解すること、様々な相談援助活動の中で、個人情報保護法に基づく個人情報の取り扱いについて理解すること、ITを活用した相談援助の実際について理解することを到達目標とする。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 相談援助と個人情報
- 第3回 個人情報保護法の概要とその運用
- 第4回 相談援助におけるITの活用
- 第5回 事例分析の意義と目的、その方法
- 第6回 様々な事例における相談援助の実際Ⅰ 社会的排除
- 第7回 様々な事例における相談援助の実際Ⅱ 虐待
- 第8回 様々な事例における相談援助の実際Ⅲ D.V
- 第9回 様々な事例における相談援助の実際Ⅳ ホームレス
- 第10回 様々な事例における相談援助の実際Ⅴ 危機状態にある事例
- 第11回 事例分析Ⅰ
- 第12回 事例分析Ⅱ
- 第13回 事例分析に基づく支援計画Ⅰ
- 第14回 事例分析に基づく支援計画Ⅱ
- 第15回 まとめと振り返り

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

関連する科目の講義内容で学んだ制度等を再確認しておくこと。

【教科書等】

新・社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法Ⅰ」第3版 中央法規出版

新・社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」第3版 中央法規出版

*回によりテキストが前後する。使用するテキストについては、随時連絡するので注意すること。

【参考文献】

講義の中で随時紹介する。

【成績評価方法】

- 1)筆記試験 85%
- 2)出席点 15%

【主な関連する科目】

ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ

【学生へのメッセージ】

地域生活を支えるため、各関係者がどのような取り組みを展開しているか、社会的な関心を持ち、積極的かつ主体的に受講してほしい。予習・復習を着実にやること。

授業科目名・形態	精神科ソーシャルワーク論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	古川博文	開講期	3年・前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

精神科ソーシャルワーク論は、精神保健福祉士の相談援助の定義・理念・形成過程・体系・権利擁護、精神保健福祉士と他の専門職の概念を基本的な理論を学ぶ。また、社会福祉士との共通性を理解しながら、精神保健福祉士がかかわる多職種連携や相談援助の基礎を理解する。

【到達目標】

- 1) 精神障害者の役割（総合的包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。
- 2) 相談援助の概念と範囲について理解する。
- 3) 相談援助の理念について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション 精神保健分野における相談援助の体系①
- 第2回 精神保健分野における相談援助の体系②
- 第3回 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念と範囲①
- 第4回 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念と範囲②
- 第5回 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念と範囲③
- 第6回 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念と範囲④
- 第7回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲 ①第1節
- 第8回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲 ②第2節
- 第9回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲 ③第2節
- 第10回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲 ④第3節
- 第11回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 ①第1節
- 第12回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 ②第2節
- 第13回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 ③第3節
- 第14回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 ④第4節
- 第15回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携 ⑤まとめ

【授業実施方法】 講義。必要に応じて資料配布する。

【授業準備】 講義内容を踏まえ、精神障害者の生活者としての「生きづらさ」や精神保健福祉に関わる現代の問題について、新聞や参考書等を用いて確認すること。

【主な関連する科目】「精神保健福祉制度論」、「精神障害者の課題と支援システム」、「精神保健の課題と支援」

【教科書等】 日本精神保健福祉士養成校協会 新・精神保健福祉士養成講座 3「精神保健福祉の援助と基盤（基・専門）」第3版 中央法規出版

【参考文献】 田中英樹：「精神障害者の自立支援活動」中央法規、東雄司：「精神障害者・自立への道」ミネルヴァ書房、F・P・バイステック：「ケースワークの原則 援助関係を形成する技法」

【成績評価方法】 レポート等提出物 20%、試験 80%で評価する。

【学生へのメッセージ】

精神保健福祉士国家試験受験資格を得るためには、全員が履修する科目であり精神障害者の専門職として相談援助に必要な基礎を学ぶため、予習・復習をして臨むことが必要である。

授業科目名・形態	日常生活支援技術Ⅷ（睡眠）	演習	必修・選択の別		選択
担当者氏名	工藤 久・石岡和志	開講期	3年後期	単位数	1

【授業の主題】

「尊厳保持」の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。生活支援技術論で学習した人体の構造と機能の知識を基に自立に向けた睡眠の介護についての知識と技術を習得する。

【到達目標】

- 1) 睡眠の意義・目的を理解する。
- 2) 安眠のための介助の技法を習得する。
- 3) 利用者の状態・状況に応じた睡眠介助の留意点を理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 睡眠の意義と目的、安全・安楽について考える（石岡）
- 第2回 睡眠における ICF の視点とアセスメント（石岡）
- 第3回 安眠のための介護の理解と実践（石岡）
- 第4回 安眠を促す介助の技法（石岡）
- 第5回 睡眠における介護技術 ①基本的理解（石岡）
- 第6回 睡眠における介護技術 ②自立度が高い場合、部分的援助を要する場合（石岡）
- 第7回 睡眠における介護技術 ③全面的援助を要する場合（石岡）
- 第8回 睡眠における介護技術 ④（工藤）
- 第9回 睡眠における介護技術 ⑤（工藤）
- 第10回 安眠のための介護の工夫（工藤）
- 第11回 感覚機能が低下している人における睡眠の介護技術（工藤）
- 第12回 運動機能が低下している人における睡眠の介護技術（工藤）
- 第13回 認知・知覚機能が低下している人における睡眠の介護技術（工藤）
- 第14回 不眠時の対応（工藤）
- 第15回 関連職種との役割と連携、福祉機器（工藤）

【授業実施方法】

グループワーク、演習形式とする。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】 介護の基本、介護総合演習、生活支援技術論

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ（第3版）中央法規（株）

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

筆記試験 70%、レポート等 20%、平常点 10%による総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

対象者の個別性や安眠について理解し、積極的に基本技術を習得しましょう。

授業科目名・形態	日常生活支援技術IX（住環境）演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤 久・石岡和志	開講期	3年前期 単位数 1

【授業の主題】

「尊厳保持」の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることをも含めた適切な介護技術を習得する。また、それらの技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得することを目的とする。なお本演習では日常生活支援技術のうち、「自立に向けて、その人らしく生活できる住環境の整備」について学ぶ。

モデル住宅、福祉機器の見学、および住宅改修前後の写真やスライドなども教材として使用し、より居住環境整備について理解が深まるよう授業を展開する。

【到達目標】

- 1) その人らしく生活できる住環境について理解を深める。
- 2) 各種施設（特養施設、グループホーム、ユニットケア等）の居住環境について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 居住環境整備の意義と目的（工藤）
- 第2回 「住まい」の役割と機能（工藤）
- 第3回 生活空間と介護①日本の「住まい」と「住まい方」の歴史（工藤）
- 第4回 生活空間と介護②高齢者の行動特性の理解（工藤）
- 第5回 生活空間と介護③障害者の行動特性の理解（工藤）
- 第6回 ICFの視点に基づく居住環境のアセスメント（工藤）
- 第7回 施設における居住環境の特性①（工藤）
- 第8回 施設における居住環境の特性②（工藤）
- 第9回 施設における安全で心地の良い生活の場づくりのための工夫（石岡）
- 第10回 居宅における安全で心地の良い生活の場づくりのための工夫（石岡）
- 第11回 快的な居住環境の確保（石岡）
- 第12回 住宅改修の実際（バリアフリー）（石岡）
- 第13回 住宅改修の実際（ユニバーサルデザイン）（石岡）
- 第14回 居住環境整備での他職種との連携（石岡）
- 第15回 まとめ（工藤、石岡）

【授業実施方法】

演習形式で行う。

【授業準備】

教科書を事前にチェックして、用語などを調べておいてください。

【主な関連する科目】介護の基本、社会福祉概論Ⅰ、高齢者福祉論Ⅰ、障害者福祉論Ⅰ

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ第4版 中央法規

【参考文献】

- ・児玉桂子, 高齢者居住環境の評価と計画, 中央法規出版

【成績評価方法】

筆記試験 70%、レポート等 20%、平常点 10%による総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

介護が必要な人のための居住環境を快適にするにはどうすればいいのか考えてみてください。

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅹ	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	関口麗子	開講期	3年後期	単位数 1

【授業の主題】

人間にとっての終末期を厳かに受け入れ、人生の終末期における介護の意義・目的を理解する。終末期における基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、さらに残された家族などの悲しみに寄り添うグリーフケアについても、理解する。

【到達目標】

- 1) 終末期における介護の意義・目的を理解する。
- 2) 終末期におけるアセスメントについて理解し介護の技法を学ぶ。
- 3) 終末期を支える制度や、医療との連携の必要性を理解する。
- 4) 悲嘆のプロセスとグリーフケアの必要性を理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 終末期における介護の意義と目的（事前の意思確認）
- 第 2 回 ライフサイクルと人生観・死生観（グループワーク）
- 第 3 回 ライフサイクルと人生観・死生観（発表・まとめ）
- 第 4 回 告知とインフォームドコンセント（グループワーク）
- 第 5 回 告知とインフォームドコンセント（発表・まとめ）
- 第 6 回 終末期医療の決定プロセスに関するガイドラインについて
- 第 7 回 終末期にある人の心身のアセスメント（ICF の観点から）
- 第 8 回 終末期にある人の心身の苦痛と諸症状の理解とケア①
- 第 9 回 終末期にある人の心身の苦痛と諸症状の理解とケア②
- 第 10 回 「在宅で看取るということ」～課題レポート
- 第 11 回 終末期にある人の家族ケアⅠ
- 第 12 回 臨死期のケアの方法 ①看取りのパフレット
- 第 13 回 臨死期のケアの方法 ②エンゼルケア
- 第 14 回 施設における医療との連携（制度等を含む）
- 第 15 回 グリーフケア

【授業実施方法】

講義形式を中心に、グループワーク、DVD学習等を行う。

【授業準備】

ライフサイクルの理解と、人生観・死生観について考えることができるよう関連の文献を読む。

【主な関連する科目】

介護の基本，社会福祉概論，高齢者福祉論，障害者福祉論

【教科書等】

「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第 3 版」〈中央法規出版〉

【参考文献】

『平穏死』のすすめ：石飛幸三,講談社 「介護と看取り」：結城康博,平野智子,毎日新聞社

【成績評価方法】

試験・レポート・グループワーク発表 90%、出席状況・授業態度 10%による総合評価。

【学生へのメッセージ】

死と向き合うことはどういうことなのか。DVD,ビデオ、文献を通して積極的に話しあい死から学びとることができるように、自分自身の死生観を育んでいくことはとても大切なことです。

授業科目名・形態	地域福祉論Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	白男川尚・脇山園恵	開講期	3年前期	単位数 2

【授業の主題】

2000年の社会福祉法改正から地域福祉へと大きく転換するなかで、地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学んでいく。具体的には、地域福祉におけるネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域包括ケアシステム、サービスの評価方法等について、各地の地域福祉計画の推進方法や各地のコミュニティ資源を生かした福祉実践事例を取り入れながら学習する。

【到達目標】

- 1) 地域福祉における他職種・多機関連携の意義と方法について理解する。
- 2) 地域福祉の実際及び推進方法について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 社会福祉法の改正と地域福祉
- 第 2 回 コミュニティソーシャルワークの考え方と展開
- 第 3 回 専門他職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク
- 第 4 回 専門職（コミュニティソーシャルワーカー）と地域住民の関係
- 第 5 回 ソーシャルサポートネットワークの考え方
- 第 6 回 地域における社会資源の活用と開発
- 第 7 回 地域における社会資源の活用（税制優遇と助成金）
- 第 8 回 地域におけるアウトリーチの意義
- 第 9 回 地域における福祉ニーズの把握方法（質的、量的な福祉ニーズ）
- 第 10 回 地域トータルケアシステムの必要性と考え方
- 第 11 回 地域トータルケアシステムの展開方法
- 第 12 回 福祉サービスの評価の背景と評価の考え方
- 第 13 回 福祉サービスの評価方法と実際
- 第 14 回 災害支援と地域福祉
- 第 15 回 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方（イギリスとアメリカ）

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。グループワークによる発表を行う。

【授業準備】 2年生において学んだ地域福祉論Ⅰを復習するとともに、講義中に指摘する問題について新聞や参考書を用いて確認すること。

【主な関連する科目】 「公的扶助論」「権利擁護と成年後見」「社会福祉概論Ⅱ」「高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ」

【教科書等】 社会福祉士養成講座編集委員会編「地域福祉の理論と方法第3版」中央法規出版

【参考文献】 必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】 平常点 10%、レポート 20%、期末試験 70%により評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

地域福祉活動は生活の場での実践ですので各科目に共通した部分が多くあります。身近な地域の福祉問題を意識しながら授業に臨んでください。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習Ⅳ	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	白男川 尚	開講期	3年前期	単位数 1

【授業の主題】

社会的排除・児童虐待・高齢者虐待・家庭内暴力・低所得者・ホームレス・その他危機状況にある相談事例を用いて、総合的かつ包括的な援助について実践的に学ぶことにする。上記の援助困難事例について、グループ討論とその結果報告並びに全体討論といった学習方法により、具体的に学んでいく。社会的排除・児童虐待・高齢者虐待・家庭内暴力・低所得者・ホームレス・その他危機状況にある相談事例などソーシャルワークの特徴的事例を教材に、援助の組み立て方について理解を深める。

【達成目標】

援助の組み立て方について理解を深め、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し、体系立てていくことができる能力を最終的に身につけられるようにしてもらいたい。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーションとグループ決め
- 第2回 社会的排除に対する援助の事例検討①
- 第3回 社会的排除に対する援助の事例検討②
- 第4回 児童虐待に対する援助の事例検討①
- 第5回 児童虐待に対する援助の事例検討②
- 第6回 高齢者虐待に対する援助の事例検討①
- 第7回 高齢者虐待に対する援助の事例検討②
- 第8回 家庭内暴力に対する援助の事例検討①
- 第9回 家庭内暴力に対する援助の事例検討②
- 第10回 低所得者に対する援助の事例検討
- 第11回 ホームレスに対する援助の事例検討
- 第12回 その他の危機状況にある相談事例の検討
- 第13回 援助の困難な事例への対応を「研究する視点」を養う
- 第14回 援助の困難な事例に総合的かつ包括的な援助を行う
- 第15回 演習のまとめ

【授業実施方法】

演習

【授業準備】

関連する科目で学んだ講義内容を再確認しておくこと。

【主な関連する教科】

ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅴ

【教科書等】

日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士相談援助演習』中央法規出版

【参考文献】

その都度紹介する。

【成績評価方法】

課題提出 20%、授業態度・出席状況 80%より総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする参加型授業形態なので積極性を発揮してもらいたい。

授業科目名・形態	精神保健福祉援助演習Ⅰ 演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	脇山園恵・白男川尚・古川博文・石岡和志	開講期	3年後期
		単位数	1

【授業の主題】

本演習では、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実技や事例を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。

【到達目標】

- 1) 基本的なコミュニケーション技術と基本的な面接技術を身につける。
- 2) 基本的な情報の収集と問題の発見・分析・解決の方法と基本的な記録に関する知識と技術を身につける。
- 3) 福祉ニーズ調査の目的を明確にし、目的に沿った調査計画を考えることができる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション（全員）
- 第2回 演習の意義と目的（脇山）
- 第3回 相談援助の基盤①～自己理解と他者理解、専門職の価値と倫理～（白男川）
- 第4回 相談援助の基盤②～利用者の理解、援助関係の理解～（古川）
- 第5回 相談援助の基盤③～基本的なコミュニケーション技術～（脇山）
- 第6回 相談援助の基盤④～基本的な面接技術～（石岡）
- 第7回 グループにおける相談援助の理解～グループワークの必要性とその理解、展開過程～（脇山）
- 第8回 個人に対する相談援助の理解①～情報の収集・整理・伝達の技術～（古川）
- 第9回 個人に対する相談援助の理解②～課題の発見・分析・解決の技術～（古川）
- 第10回 記録の理解①～記録の必要性とその方法、記録の技術～（石岡）
- 第11回 記録の理解②～観察法、マッピング技法～（古川）
- 第12回 地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助の理解①～地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握～（白男川）
- 第13回 地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助の理解②～地域アセスメント、地域福祉計画の策定～（白男川）
- 第14回 地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助の理解③～社会資源の活用・調整・開発～（石岡）
- 第15回 地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助の理解④～ネットワーキング、ソーシャルアクション～（脇山）

【授業実施方法】

基本的にはグループ演習とする（必要に応じて講義形式を取り入れる）。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞などで報じられる精神障害者をはじめとする障害者の抱える問題に関心を持ち、それらの問題とソーシャルワーク実践との関係について確認すること。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習指導、精神保健福祉援助実習、精神科ソーシャルワーク論、精神科リハビリテーション学Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱ、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、福祉行財政と福祉計画

【教科書等】

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座8 精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』中央法規出版。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（ワークシートなど）50%、グループ発表への参加状況30%、ロールプレイなどへの参加状況20%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【学生へのメッセージ】

精神保健福祉士としての課題は、精神障害者の生活問題に対応するために、社会的復権と人権擁護の役割を担い、社会復帰を妨げているといわれる障壁を取り除き、地域社会の体制を整えることが挙げられる。利用者との「かかわり」を大事にする専門職の実践への準備ととらえて演習に臨んでください。

授業科目名・形態	精神保健福祉援助演習Ⅱ		必修・選択の別	選択	
担当者氏名	脇山園恵、白男川尚、石岡和志、古川博文	開講期	4年後期	単位数	1

【授業の主題】

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、事例とロールプレイングなどの個別指導と集団指導を通して、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】

- 1) ソーシャルワークの基本的な技術と方法を実践的に理解する。
- 2) ソーシャルワーク実践における「価値」と「理念」について、具体的な事例を通して理解する。
- 3) 精神保健福祉制度や社会資源および精神保健福祉に関する知識やリハビリテーションなどを理論的体系的に理解し、事例を通じて実践的に応用できるようになる。
- 4) 基本的なコミュニケーション技術と面接技術を習得し、情報の収集と問題の発見・分析・解決の方法と記録に関する知識と技術を身につける。

【授業計画・内容】

- 第1回 自己理解を深める
- 第2回 援助過程に沿った事例展開の実際① ～インテーク・契約など～
- 第3回 援助過程に沿った事例展開の実際② ～アセスメント・プランニングなど～
- 第4回 援助過程に沿った事例展開の実際③ ～支援の実施・振り返り（モニタリング）など～
- 第5回 援助過程に沿った事例展開の実際④ ～終結・支援の振り返りとアフターケアなど～
- 第6回 課題別事例展開の実際① ～社会的排除（偏見・差別）など～
- 第7回 課題別事例展開の実際② ～退院支援・地域移行・地域生活支援など～
- 第8回 課題別事例展開の実際③ ～地域における精神保健（ひきこもり・児童虐待・アルコール依存症など）など～
- 第9回 課題別事例展開の実際④ ～教育・就労（雇用）など～
- 第10回 課題別事例展開の実際⑤ ～貧困・低所得・ホームレスなど～
- 第11回 課題別事例展開の実際⑥ ～精神科リハビリテーションなど～
- 第12回 地域基盤整備と地域生活支援活動① ～アウトリーチなど～
- 第13回 地域基盤整備と地域生活支援活動② ～ケアマネジメントなど～
- 第14回 地域基盤整備と地域生活支援活動③ ～チームアプローチとネットワークキングなど～
- 第15回 地域基盤整備と地域生活支援活動④ ～社会資源の活用・調整・開発など～

【授業実施方法】

基本的にはグループ演習とする（必要に応じて講義形式を取り入れる）。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞などで報じられる精神障害者をはじめとする障害者の抱える問題に関心を持ち、それらの問題とソーシャルワーク実践との関係について確認すること。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習指導、精神保健福祉援助実習、精神科ソーシャルワーク論、精神科リハビリテーション学Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱ、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、福祉行財政と福祉計画など

【教科書等】

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕』（第6版）へるす出版

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（ワークシートなど）70%、グループ発表への参加状況30%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【学生へのメッセージ】

精神保健福祉士としての課題は、精神障害者の生活問題に対応するために、社会的復権と人権擁護の役割を担い、社会復帰を妨げているといわれる障壁を取り除き、地域社会の体制を整えることが挙げられる。利用者との「かかわり」を大事にする専門職の実践への準備ととらえて演習に臨んでください。

授業科目名・形態	ゼミナール I	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	各担当教員	開講期	3年・後期	単位数	1

【授業の主題】

ゼミ I では、研究の基礎を理解し、研究テーマを選定して、それを取りまとめるまでの方法を学んでいく。それは換言すれば、自分で疑問を見出して問題を作成し、その答えを自分で探究していく道程の方法となる。(各担当教員の研究室に所属)

【到達目標】

- 1) 研究の基礎を理解する。
- 2) 研究テーマを選定し取りまとめる方法を理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション (各担当教員によるプレゼンテーション等)
- 第 2 回 研究とは何か
- 第 3 回 研究の取り組み方
- 第 4 回 ディスカッションの要領
- 第 5 回 研究テーマの選定
- 第 6 回 研究計画の作成
- 第 7 回 文献の検索と収集の方法
- 第 8 回 文献の読み方
- 第 9 回 資料・データの収集と整理の方法
- 第 10 回 資料・データの処理方法と解釈
- 第 11 回 調査の方法とまとめ方
- 第 12 回 研究論文の準備と構成
- 第 13 回 研究論文の書き方
- 第 14 回 研究発表
- 第 15 回 まとめと今後の展望

【授業実施方法】

演習

【授業準備】

シラバスに関係する部分について、教科書を熟読し理解を深めて授業に臨むこと

【関連する主な科目】

ゼミナール II

【教科書等】

川村他 改訂福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方 中央法規出版

【参考文献】

必要に応じて用意します

【成績評価方法】

演習課題やレポート提出 70%、平常点 30%と総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

問題意識をしっかりと持ち、主体的かつ積極的に受講し、自ら考え疑問を明らかにし、課題を解決していく知的面白さを体験してほしい。また、読解力、文章力の養成にも努め、ゼミナール II で取り組む卒業研究に繋がる学習を進めてほしい。

授業科目名・形態	介護実習Ⅲ	実習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤久・柴田博・石岡和志・関口麗子	開講期	3年前期	単位数 3

【授業の主題】

介護総合演習Ⅳでの学習を踏まえて、再度個別ケアを行なうために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他の科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

介護実習Ⅲは、介護実習Ⅱで行った実習施設での継続実習となる。介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護福祉士としての一連の介護過程すべてを実践する場として、実習指導者の配置等、施設要件が満たされた施設での実習とする。また、巡回指導では、個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の場面での介護過程の展開能力が育成されるよう、指導する。

【到達目標】

- 1) 実習の総仕上げとして、介護業務の本質と介護福祉士の果たすべき役割を総合的に学ぶ。
- 2) ICFに基づいた活動・参加の視点から支援の内容およびその必要について理解し、個別介護計画の作成・実施ができる。
- 3) 他職種とのチームアプローチの実際と必要性を理解する。

【授業計画・内容】

- 1 施設・在宅福祉の機能と介護福祉士の役割を理解する。
 - 1) 施設や組織の全体的な仕組みや業務の流れを理解する。
 - 2) 他職種の業務や相互の連携について学習する。
 - 3) 施設の在宅支援について実践を通じて学習する。
- 2 個別介護過程展開の実際を学ぶ。
 - 1) 「尊厳を支えるケア」「個別ケア」における介護実践の根拠を理解し、個別介護過程展開の実際を学ぶ。
- 3 生活支援技術を習得する。
 - 1) 再度、基礎的な部分を中心に介護業務を実践する。
 - 2) 医学的健康管理やリハビリテーションについて学習する。
 - 3) 利用者を取り巻く住生活設備や福祉機器に対する学習を深める。
 - 4) 利用者の行動障害や疾病に対応した援助について学習する。

【授業実施方法】

実習形式で行う。

【授業準備】

介護総合演習で計画した実習の事前準備を確実に実行すること。

【関連する主な科目】 介護の基本、介護総合演習、介護過程

【教科書等】

介護実習指導要領介護福祉士養成講座編集委員会編『第10巻 介護総合演習・介護実習第2版』中央法規出版

【参考文献】

泉順, 介護実習への挑戦, ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

実習記録 50%、実習内容 50%とし総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

日々の実習目標を適切に設定し、介護の総仕上げの認識を念頭に置いて積極的に取り組んで下さい。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習V	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	石岡和志・白男川 尚	開講期	4年後期	単位数 1

【授業の主題】

相談援助に係る知識と技術について相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行い、実践的な知識と技術として習得できることを目指す。

【達成目標】

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できることを目標とする。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーションとグループ決め
- 第2回 実習での学びを振り返る・活かす①
- 第3回 実習での学びを振り返る・活かす②
- 第4回 実習での学びを振り返る・活かす③
- 第5回 利用者との関わりからの学びを振り返り活かす①
- 第6回 利用者との関わりからの学びを振り返り活かす②
- 第7回 利用者との関わりからの学びを振り返り活かす③
- 第8回 利用者との関わりからの学びを振り返り活かす④
- 第9回 利用者を理解し、ニーズを把握し、支援すること①
- 第10回 利用者を理解し、ニーズを把握し、支援すること②
- 第11回 スーパービジョン
- 第12回 人と環境の接点・相互作用
- 第13回 社会福祉士の専門性と社会福祉援助に関わる他の専門職について
- 第14回 ソーシャルワーカーの価値（倫理・理念・原則等）
- 第15回 振り返り

【授業実施方法】 演習

【授業準備】 関連する科目の講義内容で学んだ制度等を再確認しておくこと。

【主な関連する教科】 ソーシャルワーク論 I～V

【教科書等】 日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士相談援助演習』中央法規出版

【参考文献】 その都度紹介する。

【成績評価方法】 課題提出 20%、授業態度・出席状況 80%より総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

実習等で経験してきた様々な援助場面を振り返り、社会福祉士の専門性について、実習での学びと経験を活かして、現実と課題について考えられることが将来の進路とも繋がってきます。グループ討議や事例検討を中心とする参加型授業形態なので積極性を発揮してもらいたい。

授業科目名・形態	ゼミナールⅡ (卒業試験を含む) 演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	各担当教員	開講期	4年前・後期	単位数 2

【授業の主題】

ゼミⅠの作業と論文執筆の考え方・方法を踏まえながら、論文構成を検討し、計画的に草稿を作成する。このプロセスでは、ディスカッションを交えた経過報告と個別指導を随時行う。そして、草稿を修正しながら研究の成果物を完成させることをねらいとする。さらに、卒業試験に向けた準備も行う。(各担当者の研究室に所属)

【到達目標】

- 1) 研究テーマを構想し、先行研究を踏まえながらテーマ追究の方法を検討し、研究計画を作成する。
- 2) ゼミナール論文の完成
- 3) 卒業試験の合格

【授業計画・内容】

(前期)	(後期)
第1回 オリエンテーション、ゼミ論準備の確認	第1回 ゼミ論準備状況の確認と今後の進め方
第2回 研究テーマの構想	第2回 論文構成の考え方と方法
第3回 研究テーマの絞り込み	第3回 論文の書き方
第4回 研究計画案の作成と研究方法の検討	第4回 論文構成の検討と先行研究・資料・データの再確認
第5回 先行研究・資料・データの収集(1)	第5回 草稿作成(1)
第6回 先行研究・資料・データの収集(2)	第6回 草稿作成(2)
第7回 先行研究・資料・データの収集(3)	第7回 草稿作成(3)
第8回 研究計画の作成と研究方法の確認	第8回 全体経過報告(1)
第9回 研究ノートの作成(1)	第9回 草稿修正(1)
第10回 研究ノートの作成(2)	第10回 草稿修正(2)
第11回 研究ノートの作成(3)	第11回 草稿修正(3)
第12回 収集資料・データの検討(1)	第12回 全体経過報告(2)と成果物の準備・確認
第13回 収集資料・データの検討(2)	第13回 成果物作成(1)
第14回 ゼミ論タイトルの検討	第14回 成果物作成(2)
第15回 「序論」素描	第15回 成果物発表とゼミのまとめ

【授業実施方法】 演習

【授業準備】

教員の指示に従い、先行研究の論文や関係する資料・データの収集を行っておくこと。また、指示された草稿の修正等を期日までに行っておくこと。

【関連する主な科目】 ゼミナールⅠ

【教科書等】 特に指定しない。

【参考文献】 必要に応じて用意する。

【成績評価方法】

論文内容 70%、平常点 30%と総合的に評価する。卒業試験の合格(卒業試験に合格しない場合、単位認定を行わない。)

【学生へのメッセージ】

卒業研究に向けた取り組みとなることから、自分なりの問題意識と主張を明確にし、論文作成に向けた各種取り組みを自主的かつ主体的、積極的に展開してほしい。研究とは何か探る一連の過程の集大成となる。共に考え、自主的かつ計画的に学ぶ喜びを体験しよう。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	白男川尚・石岡和志・林宏二・脇山園恵	開講期	3年前期	単位数	1

【授業の主題】

相談援助実習に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を目指していく。

【到達目標】

- 1) 相談援助実習の意義と実習先や利用者、関連する地域社会等について理解する。
- 2) 実習計画書の意義、実習記録ノートの意義、書き方、取扱い等について理解する。

【授業計画・内容】

- | | | |
|------|-------------|--|
| 第1回 | オリエンテーション | ・実習の概要（実習前・実習中・実習後） |
| 第2回 | 相談援助実習の意義 | ・社会福祉士の役割と相談援助実習の目標と内容
・相談援助実習前中後の流れ(全体像)と指導体制
・実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利、他の科目との関連 |
| 第3回 | 相談援助実習先の理解① | ・契約書・個人調書(履歴書)等書類の作成 |
| 第4回 | 相談援助実習先の理解② | ・配属先実習分野・機関施設の根拠・関連法令理解
・実習先で提供される具体的なサービス内容(介護・保育等)の理解 |
| 第5回 | 相談援助実習先の理解③ | ・実習先の地域の歴史、文化、産業、人口動態、福祉の全体状況などの理解
・配属先実習分野・機関施設の利用者理解、運営・経営に関する理解 |
| 第6回 | 相談援助実習先の理解④ | ・情報収集の成果の発表(情報共有) |
| 第7回 | 実習計画の作成① | ・実習計画書の意義、作成に関する説明 |
| 第8回 | 実習計画の作成② | ・実習計画書の作成1 |
| 第9回 | 実習計画の作成③ | ・実習計画書の作成2 |
| 第10回 | 実習計画の作成⑤ | ・実習計画書の作成3(分野別グループ発表) |
| 第11回 | 事前訪問の理解① | ・事前訪問の目的、方法、内容等 |
| 第12回 | 事前訪問の理解② | ・事前課題や健康診断書等の提出物、社会的マナー |
| 第13回 | 事前訪問の理解③ | ・事前訪問報告書について |
| 第14回 | 実習記録ノートの理解① | ・実習記録ノートの意義、書き方、取扱い等に関する理解 |
| 第15回 | 実習記録ノートの理解② | ・実習記録ノートの書き方演習 |

【授業実施方法】 講義および演習

【授業準備】 相談援助実習の意義と実習先や利用者の状況を理解し、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】 ソーシャルワーク実習

【教科書等】 川村隆彦「事例で深めるソーシャルワーク実習」中央法規出版

【参考文献】 必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】 出席状況、実習計画書、記録内容、実習報告会及び報告書の内容、提出物を100%総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

これまでの学習・生活経験を活かし、ソーシャルワーク実習を効果的に進められるよう、主体的かつ総合的に取り組んでください。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	白男川尚・石岡和志・林宏二・脇山園恵	開講期	3年後期	単位数 1

【授業の主題】

ソーシャルワーク実習指導Ⅰに続き、相談援助実習に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を目指していく。

【到達目標】

- 1) 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術について理解する。
- 2) 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習報告書の作成演習を行う。

【授業計画・内容】

- 第1回 実習記録ノートの理解①・実習記録ノートの意義、書き方、取扱い等に関する理解
- 第2回 実習記録ノートの理解②・実習記録ノートの書き方演習
- 第3回 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術①・用いているツールの理解
- 第4回 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術②・相談援助の実際、社会福祉士の業務の理解
- 第5回 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術③・分野別グループ発表
- 第6回 実習の評価の理解 ・評価の意味、評価表の書き方や活用方法の理解
- 第7回 倫理・守秘義務等の理解・プライバシー保護と守秘義務、倫理綱領・義務規程・個人情報保護法
- 第8回 巡回指導の理解 ・巡回指導の目的と内容、スーパービジョン(バイジー)の理解
- 第9回 実習の確認1 ・(個人ワーク)実習での課題を明確化、目標・計画の確認
- 第10回 実習の振り返り2 ・(個人ワーク)、今後の学習課題の確認
- 第11回 事前訪問の理解① ・事前訪問の実施方法(事前訪問の目的、方法、内容等)
- 第12回 事前訪問の理解② ・事前訪問の内容確認
(計画書等の修正、事前課題や健康診断書等の提出物、社会的マナーの確認)
- 第13回 事前訪問の理解③ ・事前訪問報告書の提出について(結果・成果の確認)
(事前訪問)
- 第14回 相談援助実習に向けて最終確認
・実習中の注意事項、事故・緊急時の対応、実習評価、実習生の義務と権利など
- 第15回 実習の中間総括 ・前期まとめ

【授業実施方法】 講義および演習

【授業準備】 相談援助実習の意義と実習先や利用者の状況を理解し、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】 ソーシャルワーク実習

【教科書等】 川村隆彦「事例で深めるソーシャルワーク実習」中央法規出版

【参考文献】 必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】 出席状況、実習計画書、記録内容、実習報告会及び報告書の内容、提出物を100%総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

これまでの学習・生活経験を活かし、ソーシャルワーク実習を効果的に進められるよう、主体的かつ総合的に取り組んでください。実習の前段階です。自己管理をしっかりと行い、遅刻や欠席をしないよう十分に注意してください。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	白男川尚・石岡和志・林宏二・脇山園恵	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

相談援助実習に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を目指していく。

【到達目標】

- 1) 相談援助実習の意義と実習先や利用者、関連する地域社会等について理解する。
- 2) 実習計画書の意義、実習記録ノートの意義、書き方、取扱い等について理解する。
- 3) 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術について理解する。
- 4) 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習報告書の作成と報告を行う。

【授業計画・内容】

- | | | |
|------|----------------|--------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | ・(グループワーク)、印象に残った出来事、体験の話し合い |
| 第2回 | 実習の振り返り1 | ・(グループワーク)、学びや価値の揺らぎ(ジレンマ)、自己覚知の話し合い |
| 第3回 | 実習の振り返り2 | ・(グループワーク)、関係形成上、業務遂行上の困難などの話し合い |
| 第4回 | 実習の振り返り3 | ・(グループワーク)、実習での課題を明確化、グループ発表 |
| 第5回 | 実習報告書の作成に関する説明 | ・実習報告書の作成の仕方、作成様式等の説明 |
| 第6回 | 実習報告書の作成1 | ・実習報告書の作成 |
| 第7回 | 実習報告書の作成2 | ・実習報告書の作成 |
| 第8回 | 実習報告書の作成3 | ・実習報告会に向けたプレゼンテーション準備 |
| 第9回 | 実習報告会1 | ・実習報告会 |
| 第10回 | 実習報告会2 | ・実習報告会 |
| 第11回 | 実習報告会3 | ・実習報告会 |
| 第12回 | 実習報告会4 | ・実習報告会 |
| 第13回 | 実習報告会5 | ・実習報告会 |
| 第14回 | 実習報告会6 | ・実習報告会 |
| 第15回 | 全体総括 | ・実習の評価、実習の総括 |

【授業実施方法】 講義および演習

【授業準備】 相談援助実習の意義と実習先や利用者の状況を理解し、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】 ソーシャルワーク実習

【教科書等】 川村隆彦「事例で深めるソーシャルワーク実習」中央法規出版

【参考文献】 必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】 出席状況、実習計画書、記録内容、実習報告会及び報告書の内容、提出物を100%総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

これまでの学習・生活経験を活かし、ソーシャルワーク実習を効果的に進められるよう、主体的かつ総合的に取り組んでください。実習報告会を開催するので、実習の成果をしっかりとまとめてください。

授業科目名・形態	ソーシャルワーク実習	実習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	吉田守実・白男川尚・林 宏二・脇山園恵		開講期	3年後期
			単位数	4

【授業の主題】

相談援助実習を通して、社会福祉士として求められる知識、資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。さらには、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

【到達目標】

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。

【授業計画・内容】

- I 実習期間 原則として平成30年2月20日（火）から3月23日（金） 23日間 180時間以上
- II 実習機関 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、病院等の施設及び行政機関や社会福祉協議会
- III 実習内容
 1. 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
 2. 利用者理解とその需要の把握及び支援経過の作成
 3. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
 4. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価
 5. 他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
 6. 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業等に関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
 7. 施設・事業者・機関・団体などへの経営やサービスの管理運営の実際
 8. 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体などであることへの理解と具体的な地域社会への働きかけてしてのアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用・調整・開発に関する理解

【授業実施方法】 学外実習

【授業準備】

実習先の根拠となる法制度、理念・目的、役割・機能、組織などについて理解しておくこと。また、実習先の一日の流れ、周辺の地域特性も収集しておくこと。

【主な関連する科目】 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【教科書等】 川村隆彦「事例で深めるソーシャルワーク実習」中央法規出版

【参考文献】 必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

配属先機関からの評価、学生の自己評価、実習記録の内容や実習中の状況等 100%を踏まえ総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

実習受け入れ先への感謝の気持ち、礼儀正しさ、基礎的な知識の確認などに十分配慮してください。また、利用者の日々の生活での生きづらさを受容、共感し、どのような支援が必要なのかをチームの一員として考察してください。長期間の実習となることから、自己管理をしっかりと行ってください。

授業科目名・形態	精神保健福祉援助実習指導 I	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	脇山園恵・白男川尚・石岡和志・古川博文・林宏二	開講期	3年後期	単位数 1

【授業の主題】

精神保健福祉実習の意義について理解するとともに精神障害者のおかれている現状、生活の実態や生活上の困難について学習し、個別指導及び集団指導を通して精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術などを体得することを目指す。また、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。

【到達目標】

- 1) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を理解する。
- 2) 実習施設・機関と周辺地域の特性を理解する。
- 3) 精神保健福祉士が地域包括ケアの担い手となるチームアプローチを理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション～実習指導要領配布・実習ファイル作成～
- 第 2回 実習指導要領の説明
- 第 3回 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解
- 第 4回 実習施設・機関・事業者・団体・地域社会などに関する基本的な理解
- 第 5回 個人のプライバシー保護と守秘義務の理解
- 第 6回 現場体験学習①：4年生実習体験談発表～事業所・病院～
- 第 7回 現場体験学習②：4年生実習報告会
- 第 8回 見学学習：障害福祉関係機関見学※見学先との日程調整により回の変更があり得る。
- 第 9回 実習施設の概要記入①
- 第 10回 実習施設の概要記入②
- 第 11回 実習施設の概要記入③
- 第 12回 実習施設の概要記入④
- 第 13回 実習計画書の作成①
- 第 14回 実習計画書の作成②
- 第 15回 実習計画書の作成③

【授業実施方法】 講義と演習（個人・グループ）で行う。

【授業準備】

精神保健福祉法並びに障害者総合支援法について復習し、実習先の法的位置づけや精神障害者の置かれている現状などを理解して、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】 精神保健福祉援助実習

【教科書等】

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座9 精神保健福祉援助実習指導・実習 第2版』中央法規出版。

【参考文献】 必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（実習施設の概要、実習計画書、ミニレポートなど）70%、グループ発表（報告書）30%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

実習を効果的に進められるよう、これまでの学習や生活上の経験を活かしながら積極的・主体的に取り組んでください。1週間に複数回開講するので、遅刻・欠席がないよう自己管理してください。

授業科目名・形態	精神保健福祉援助実習 実習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	脇山園恵、白男川尚、石岡和志、古川博文、林宏二	開講期	4年前期 単位数 5

【授業の主題】

実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者などの相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術を体得する。また、精神保健福祉士として求められる資質・技能・倫理、自己に求められる課題把握などを総合的に対応できる能力を習得する。

【到達目標】

- 1) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を理解する。
- 2) 実習施設・機関と周辺地域を理解する。
- 3) 精神保健福祉士が地域包括ケアの担い手となるチームアプローチを理解する。

【授業計画・内容】

- ・実習期間 原則として平成30年5月28日（月）から6月29日（金）
- ・日数内訳 精神科医療機関 90時間以上 13日間
障害福祉関係機関 60時間以上 10日間

・実習内容

- ① 精神科病院などの病院において患者への個別支援を経験するとともに、家族支援、多職種や関係機関との連携を通じた支援を経験する。
- ② 地域の障害福祉サービス事業を行う施設などや精神科病院などの医療機関の実習を通して、下記の事項をできる限り経験する。
 - ア) 利用者やその関係者・施設・機関・事業者・団体住民やボランティアなどとの基本的なコミュニケーションや人との付き合い方など円滑な人間関係の形成
 - イ) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
 - ウ) 利用者やその関係者（家族・親族・友人など）との支援関係の形成
 - エ) 利用者やその関係者（家族・親族・友人など）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む）とその評価
 - オ) 精神医療保健・福祉に係る多職種をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践
 - カ) 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
 - キ) 施設・機関・事業者・団体などの職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
 - ク) 施設・機関・事業者・団体などの経営やサービスの管理運営の実践
 - ケ) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体などであることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

【授業実施方法】

学外実習

【授業準備】

実習先の根拠となる法制度、理念・目的、役割・機能、組織などについて理解しておくこと。また、実習先の一日の流れ、周辺の地域特性も情報収集しておくこと。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【教科書等】

荒田寛・小田敏雄・田村綾子・川口真知子・相川章子『PSW 実習ハンドブック—実習生のための手引き』へるす出版

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

配属先機関からの評価、学生の自己評価記録、実習記録の内容などを踏まえ総合的に100%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

実習受け入れ先、利用者への感謝の気持ちを大切にしながら実習に臨み、利用者の日々の生きづらさを受容・共感し、どのような支援が必要なのかをチームの一員として考察してください。長期間の実習となることから、体調管理に留意し、時間管理を含め自己管理をしっかりと行ってください。

授業科目名・形態	精神保健福祉援助実習 実習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	脇山園恵、白男川尚、石岡和志、古川博文、林宏二	開講期	4年前期 単位数 5

【授業の主題】

実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者などの相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術を体得する。また、精神保健福祉士として求められる資質・技能・倫理、自己に求められる課題把握などを総合的に対応できる能力を習得する。

【到達目標】

- 1) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を理解する。
- 2) 実習施設・機関と周辺地域を理解する。
- 3) 精神保健福祉士が地域包括ケアの担い手となるチームアプローチを理解する。

【授業計画・内容】

- ・実習期間 原則として平成30年5月28日（月）から6月29日（金）
- ・日数内訳 精神科医療機関 90時間以上 13日間
障害福祉関係機関 60時間以上 10日間

・実習内容

- ① 精神科病院などの病院において患者への個別支援を経験するとともに、家族支援、多職種や関係機関との連携を通じた支援を経験する。
- ② 地域の障害福祉サービス事業を行う施設などや精神科病院などの医療機関の実習を通して、下記の事項をできる限り経験する。
 - ア) 利用者やその関係者・施設・機関・事業者・団体住民やボランティアなどとの基本的なコミュニケーションや人との付き合い方など円滑な人間関係の形成
 - イ) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
 - ウ) 利用者やその関係者（家族・親族・友人など）との支援関係の形成
 - エ) 利用者やその関係者（家族・親族・友人など）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む）とその評価
 - オ) 精神医療保健・福祉に係る多職種をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践
 - カ) 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
 - キ) 施設・機関・事業者・団体などの職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
 - ク) 施設・機関・事業者・団体などの経営やサービスの管理運営の実践
 - ケ) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体などであることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

【授業実施方法】

学外実習

【授業準備】

実習先の根拠となる法制度、理念・目的、役割・機能、組織などについて理解しておくこと。また、実習先の一日の流れ、周辺の地域特性も情報収集しておくこと。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【教科書等】

荒田寛・小田敏雄・田村綾子・川口真知子・相川章子『PSW 実習ハンドブック—実習生のための手引き』へるす出版

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

配属先機関からの評価、学生の自己評価記録、実習記録の内容などを踏まえ総合的に100%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

実習受け入れ先、利用者への感謝の気持ちを大切にしながら実習に臨み、利用者の日々の生きづらさを受容・共感し、どのような支援が必要なのかをチームの一員として考察してください。長期間の実習となることから、体調管理に留意し、時間管理を含め自己管理をしっかりと行ってください。

授業科目名・形態	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	脇山園恵、白男川尚、石岡和志、古川博文、林宏二	開講期	4年前期
		単位数	1

【授業の主題】

精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに精神障害者のおかれている現状、生活の実態や生活上の困難について学習し、個別指導及び集団指導を通して精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術などを体得することを目指す。また、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。

【到達目標】

- 1) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を理解する。
- 2) 実習施設・機関と周辺地域の特性を理解する。
- 3) 精神保健福祉士が地域包括ケアの担い手となるチームアプローチを理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 実習概要の確認
- 第 3回 実習施設の概要作成①
- 第 4回 実習施設の概要作成②
- 第 5回 実習計画書の作成①
- 第 6回 実習計画書の作成②
- 第 7回 実習計画書の作成③、事前訪問の目的・内容など
- 第 8回 実習日誌の書き方、カンファレンスシートの書き方①
- 第 9回 実習日誌の書き方、カンファレンスシートの書き方②
- 第 10回 実習日誌の書き方、カンファレンスシートの書き方③
- 第 11回 関係書類の準備と扱い方、個人のプライバシー保護と守秘義務の理解
- 第 12回 実習課題の確認、実習中の注意事項、緊急時の対応など
- 第 13回 グループディスカッション～情報共有～①
- 第 14回 グループディスカッション～情報共有～②
- 第 15回 現場体験学習：ゲストスピーカーを招聘 ※ゲストスピーカーとの日程調整により回の変更があり得る

【授業実施方法】

講義と演習（個人、グループ）で行う。

【授業準備】

精神保健福祉法並びに障害者総合支援法について復習し、実習先の法的位置付けや精神障害者の置かれている現状などを理解して、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習

【教科書等】

荒田寛・小田敏雄・田村綾子・川口真知子・相川章子『PSW 実習ハンドブック—実習生のための手引き』へるす出版

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（ワークシート、ミニレポートなど）70%、グループ発表（報告書）30%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

実習を効果的に進められるよう、これまでの学習や生活上の経験を活かしながら積極的・主体的に取り組んでください。1週間に複数回開講するので、遅刻・欠席がないよう自己管理してください。

授業科目名・形態	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	脇山園恵、白男川尚、石岡和志、古川博文、林宏二	開講期	4年後期
		単位数	1

【授業の主題】

精神保健福祉援助実習の意義について理解するとともに精神障害者のおかれている現状、生活の実態や生活上の困難について学習し、個別指導及び集団指導を通して精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術などを体得することを目指す。また、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。

【到達目標】

- 1) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を理解する。
- 2) 実習施設・機関と周辺地域の特性を理解する。
- 3) 精神保健福祉士が地域包括ケアの担い手となるチームアプローチを理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション、実習の振り返り①
- 第 2回 実習の振り返り②
- 第 3回 実習報告書作成①
- 第 4回 実習報告書作成②
- 第 5回 実習発表準備①～プレゼンテーション資料作成～
- 第 6回 実習発表準備②～プレゼンテーション資料作成～
- 第 7回 実習発表準備③～プレゼンテーション資料作成～
- 第 8回 実習発表準備④～プレゼンテーション資料作成～
- 第 9回 実習発表準備⑤～プレゼンテーション資料作成～
- 第 10回 実習報告会①
- 第 11回 実習報告会②
- 第 12回 実習報告会③
- 第 13回 実習報告会④
- 第 14回 実習報告会⑤
- 第 15回 実習報告会⑥

【授業実施方法】

演習（個人・グループ）で行う。

【授業準備】

精神保健福祉法並びに障害者総合支援法について復習し、実習先の法的位置付けや精神障害者の置かれている現状などを理解して、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習

【教科書等】

荒田寛・小田敏雄・田村綾子・川口真知子・相川章子『PSW 実習ハンドブック—実習生のための手引き』へるす出版

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（実習報告書など）50%、実習報告会発表（プレゼンテーション資料）50%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【学生へのメッセージ】

実習を効果的に進められるよう、これまでの学習や生活上の経験を活かしながら積極的・主体的に取り組んでください。1週間に複数回開講するので、遅刻・欠席がないよう自己管理してください。

授業科目名・形態	福祉機器活用論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名		開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題】

【到達目標】

今年度休講

【授業計画・内容】

【授業実施方法】

【授業準備】

【主な関連する科目】

【教科書等】

【参考文献】

【成績評価方法】

【学生へのメッセージ】

授業科目名・形態	地方自治と財政	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名		開講期	3年前期	単位数	2

【授業の主題】

【到達目標】

今年度休講

【授業計画・内容】

【授業実施方法】

【授業準備】

【主な関連する科目】

【教科書等】

【参考文献】

【成績評価方法】

【学生へのメッセージ】

授業科目名・形態	ケアマネジメント論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名		開講期	3年後期	単位数	2

【授業の主題】

【到達目標】

今年度休講

【授業計画・内容】

【授業実施方法】

【授業準備】

【主な関連する科目】

【教科書等】

【参考文献】

【成績評価方法】

【学生へのメッセージ】